

はじめに

同和問題は、憲法に保障された基本的人権にかかわる問題であり、市民一人ひとりの生活と権利に深いかかわりのある重大な問題です。

本市では、同和問題の解決を図るために、同和対策事業を総合的かつ計画的に推進してまいりました。

こうした取り組みにより、物的な基盤整備は、急速に進展し、実態的な差別解消に向けて、大きな成果と実績を挙げることができました。

現在、法に基づく特別対策としての事業は終了しましたが、教育、就労、産業などの分野や同和問題に関する心理面、意識面においては、なお、いくつかの課題があり、粘り強くそれらの解決をはかっていく必要があります。

同和問題に関する市民意識については、昭和56年以降概ね5年ごとの調査を過去6回にわたり実施し、その結果を踏まえ市民啓発の推進に努めてまいりました。

このたび、啓発活動の効果や課題を明らかにするとともに、今後の市民啓発の資料を得るため、平成22年11月に第7回目の市民意識調査を実施しました。

本報告書は、その結果をまとめたものであり、同和問題の速やかな解決と人権意識の高揚に向けて、今後の啓発活動に役立てていきたいと考えております。

この調査の実施にあたりまして、ご協力いただきました市民の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成23年3月

名古屋市市民経済局長
鈴木 邦尚

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果	7
	単純集計表	9
	(一般的意識の状況)	
1	差別に対する考え方	15
	(同和問題の認知状況)	
2	同和問題の認知状況	19
3	同和問題の認知経路	22
4	同和問題の認知時期	26
	(同和問題の認識状況)	
5	同和問題を知ったときの印象	29
6	同和問題に対する認識状況	32
	(部落差別意識の状況)	
7	交際における差別意識	35
8	結婚における差別意識1 (親類や親しい人の結婚)	37
9	結婚における差別意識2 (子どもの結婚)	39
10	結婚における差別意識3 (本人の結婚)	41
	(同和問題の現状認識)	
11	起きていると思う人権問題	44
	(同和問題に関する啓発活動等の認識状況)	
12	啓発活動への参加・関わりの状況	47
12-1	講演会・講座・研修会への参加状況	47
12-2	講演会・講座・研修会以外との関わり	49
13	インターネットへの書き込みについての認知状況	52
14	同和問題の学習	55
15	人権教育に期待するもの	57
16	今後の啓発・教育のあり方	59
	(同和問題の解決策)	
17	同和問題の解決策	61
	(人権問題に関する認識状況)	
18	「基本的人権」に対する意識	63
III	使用調査票	65

Ⅰ. 調査の概要

1 調査の目的

本市では同和問題についての市民意識調査として昭和56年7月に第1回を実施して以来、おおむね5年ごとに調査を実施してきた。この間、その結果をふまえ市民啓発の推進を図ってきたが、これまで実施してきた啓発の効果及び問題点を明らかにするとともに、今後の啓発のあり方等の資料を得ることを目的とする。

2 調査項目

この調査は、次の事項全18問について実施した。

- (1) 一般的意識の状況
- (2) 同和問題の認知状況
- (3) 同和問題の認識状況
- (4) 部落差別意識の状況
- (5) 同和問題の現状認識
- (6) 同和問題に関する啓発活動等の認識状況
- (7) 同和問題の解決策
- (8) 人権問題に関する認識状況 など

なお、前5回の調査と比較できるようにした。

3 調査方法

- (1) 調査地域 名古屋市全域
- (2) 調査対象 名古屋市内に居住する満20歳以上の男女3,000人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳及び外国人登録原票から無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送法
- (5) 調査期間 平成22年11月15日～11月29日
- (6) 実施主体 名古屋市市民経済局

4 回収状況

	標本数	有効回収標本数	有効回収率(%)
全市	3,000	1,842	61.4

5 標本構成

(1) 年齢階層

	総数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	不明
合計	1842	181	325	335	303	339	241	109	9
	100.0%	9.8%	17.6%	18.2%	16.4%	18.4%	13.1%	5.9%	0.5%
男性	854	80	144	177	135	153	118	44	3
	46.4	44.2	44.3	52.8	44.6	45.1	49	40.4	33.3
	100.0%	9.4%	16.9%	20.7%	15.8%	17.9%	13.8%	5.2%	0.4%
女性	960	99	179	157	165	183	112	65	0
	52.1	54.7	55.1	46.9	54.5	54	46.5	59.6	0
	100.0%	10.3%	18.6%	16.4%	17.2%	19.1%	11.7%	6.8%	0%
不明	28	2	2	1	3	3	11	0	6
	1.5	1.1	0.6	0.3	1	0.9	4.6	0	66.7
	100.0%	7.1%	7.1%	3.6%	10.7%	10.7%	39.3%	0%	21.4%

性別欄の中段は年齢階層別の男女比、下段は男女別の年齢階層比

(2) 職業分布

	総数	自営業主	家族従事者	公務員	教員	企業・団体の 経営者、 役員	企業・団体の 勤め人	臨時雇、 パート勤め、 派遣、契約 社員などの 非正規雇用
合計	1842	171	54	48	30	48	473	311
	100.0%	9.3%	2.9%	2.6%	1.6%	2.6%	25.7%	16.9%
男性	854	134	14	30	17	39	337	66
	46.4	78.4	25.9	62.5	56.7	81.3	71.2	21.2
	100.0%	15.7%	1.6%	3.5%	2%	4.6%	39.5%	7.7%
女性	960	31	39	18	13	9	133	243
	52.1	18.1	72.2	37.5	43.3	18.8	28.1	78.1
	100.0%	3.2%	4.1%	1.9%	1.4%	0.9%	13.9%	25.3%
不明	28	6	1	0	0	0	3	2
	1.5	3.5	1.9	0	0	0	0.6	0.6
	100.0%	21.4%	3.6%	0%	0%	0%	10.7%	7.1%

性別欄の中段は職業分布別の男女比、下段は男女別の職業分布比

	その他の 有業者	家事専業者	学生	無職	不明
合計	32	288	27	352	8
	1.7%	15.6%	1.5%	19.1%	0.4%
男性	21	1	14	179	2
	65.6	0.3	51.9	50.9	25
	2.5%	0.1%	1.6%	21%	0.2%
女性	11	286	12	165	0
	34.4	99.3	44.4	46.9	0
	1.1%	29.8%	1.3%	17.2%	0%
不明	0	1	1	8	6
	0	0.3	3.7	2.3	75
	0%	3.6%	3.6%	28.6%	21.4%

性別欄の中段は職業分布別の男女比、下段は男女別の職業分布比

6 調査結果の見方

- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。
このため、合計が100%にならないこともある。
- (2) 基数となるべき実数は、件数として掲載した。本文中の比率はすべて件数を100%として算出した。
- (3) 調査結果では、質問文の最後に(SA) (MA)と表示。SA (Single Answer)は回答を1つだけ選ぶ質問、MA (Multiple Answer)は複数回答が可能な質問であることを表している。
- (4) 複数回答が可能な質問では、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%なのかという見方をするため、各項目の比率の合計は通常100%を超える。
- (5) 本報告書のグラフ・集計表内の回答選択肢は、省略して掲載している場合がある。

7 有意差検定

調査結果については、有意差検定を行い結果を検証した。

【計算式】

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{\text{集計値} (\%) \times (100 - \text{集計値} (\%))}{\text{標本数} (s)}}$$

※信頼度は95%(100回中95回はこの幅に収まる)を基準として計算

【標本誤差(早見表)】

		サンプル数														
		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	200	300	400	500	600
%	1	±6.3	±4.4	±3.6	±3.1	±2.8	±2.6	±2.4	±2.2	±2.1	±2.0	±1.4	±1.1	±1.0	±0.9	±0.8
	2	±8.9	±6.3	±5.1	±4.4	±4.0	±3.6	±3.3	±3.1	±3.0	±2.8	±2.0	±1.6	±1.4	±1.3	±1.1
	3	±10.8	±7.6	±6.2	±5.4	±4.8	±4.4	±4.1	±3.8	±3.6	±3.4	±2.4	±2.0	±1.7	±1.5	±1.4
	4	±12.4	±8.8	±7.2	±6.2	±5.5	±5.1	±4.7	±4.4	±4.1	±3.9	±2.8	±2.3	±2.0	±1.8	±1.6
	5	±13.8	±9.7	±8.0	±6.9	±6.2	±5.6	±5.2	±4.9	±4.6	±4.4	±3.1	±2.5	±2.2	±1.9	±1.8
	6	±15.0	±10.6	±8.7	±7.5	±6.7	±6.1	±5.7	±5.3	±5.0	±4.7	±3.4	±2.7	±2.4	±2.1	±1.9
	7	±16.1	±11.4	±9.3	±8.1	±7.2	±6.6	±6.1	±5.7	±5.4	±5.1	±3.6	±2.9	±2.6	±2.3	±2.1
	8	±17.2	±12.1	±9.9	±8.6	±7.7	±7.0	±6.5	±6.1	±5.7	±5.4	±3.8	±3.1	±2.7	±2.4	±2.2
	9	±18.1	±12.8	±10.4	±9.0	±8.1	±7.4	±6.8	±6.4	±6.0	±5.7	±4.0	±3.3	±2.9	±2.6	±2.3
	10	±19.0	±13.4	±11.0	±9.5	±8.5	±7.7	±7.2	±6.7	±6.3	±6.0	±4.2	±3.5	±3.0	±2.7	±2.4
	15	±22.6	±16.0	±13.0	±11.3	±10.1	±9.2	±8.5	±8.0	±7.5	±7.1	±5.0	±4.1	±3.6	±3.2	±2.9
	20	±25.3	±17.9	±14.6	±12.6	±11.3	±10.3	±9.6	±8.9	±8.4	±8.0	±5.7	±4.6	±4.0	±3.6	±3.3
	30	±29.0	±20.5	±16.7	±14.5	±13.0	±11.8	±11.0	±10.2	±9.7	±9.2	±6.5	±5.3	±4.6	±4.1	±3.7

II. 調查結果

<単純集計表>

質問1-Ⅰ 同じように仕事ができるのに、性別だけで昇進に差をつけることは

調査数	差別だと思う	差別でないと思う	いちがいにいえない	わからない	不明
1842	1135	74	582	40	11
100.0	61.6	4.0	31.6	2.2	0.6

質問1-Ⅱ 家柄が違うということで、結婚に反対することは

調査数	差別だと思う	差別でないと思う	いちがいにいえない	わからない	不明
1842	902	166	715	51	8
100.0	49.0	9.0	38.8	2.8	0.4

質問1-Ⅲ 人を雇うときに身元調査(聞き合わせ)をすることは

調査数	差別だと思う	差別でないと思う	いちがいにいえない	わからない	不明
1842	374	652	752	54	10
100.0	20.3	35.4	40.8	2.9	0.5

質問1-Ⅳ 結婚のとき相手の身元調査(聞き合わせ)をすることは

調査数	差別だと思う	差別でないと思う	いちがいにいえない	わからない	不明
1842	301	711	760	60	10
100.0	16.3	38.6	41.3	3.3	0.5

質問2 あなたは同和問題を知っていますか。

調査数	よく知っている	少しは知っている	聞いたことがある	まったく知らない	不明
1842	205	761	538	315	23
100.0	11.1	41.3	29.2	17.1	1.2

質問3 あなたが同和問題をはじめて知ったり、聞いたりしたきっかけは、誰から又は何からですか。

調査数	家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など)から聞いた	親戚の人から聞いた	近所の人から聞いた	友人から聞いた	職場の人から聞いた	学校の授業で教わった	テレビ・ラジオ・新聞・映画・本などで知った	インターネットで知った
1842	358	22	31	111	128	247	350	10
100.0	19.4	1.2	1.7	6.0	6.9	13.4	19.0	0.5

調査数	講演会や研修会で知った	広報なごや・啓発冊子「みんなのねがい」などで知った	その他	おぼえていない	このアンケート調査ではじめて知った	不明
1842	52	14	46	147	316	10
100.0	2.8	0.8	2.5	8.0	17.2	0.5

質問4 あなたが同和問題についてはじめて知ったり、聞いたりしたのは、いつ頃のことですか。

調査数	6歳未満(小学校に入学する前)	6歳～12歳未満(小学生の頃)	12歳～15歳未満(中学生の頃)	15歳～19歳未満	19歳以降	おぼえていない	このアンケート調査ではじめて知った	不明
1842	12	331	262	218	452	232	329	6
100.0	0.7	18.0	14.2	11.8	24.5	12.6	17.9	0.3

質問5 あなたが同和問題をはじめて知ったり、聞いたりしたとき、どう思いましたか。

調査数	差別があることを許せないと思った	なぜ差別が存在するのか不思議に思った	どういうことなのかよくわからなかった	同和地区の人をかわいそうに思った	自分は同和地区に生まれなくてよかったと思った	何となく自分たちと違うと思った	自分には関係ないことと思った
1842 100.0	164 8.9	766 41.6	354 19.2	128 6.9	62 3.4	96 5.2	71 3.9

調査数	その他	おぼえていない	わからない	不明
1842 100.0	45 2.4	48 2.6	93 5.0	15 0.8

質問6 同和問題について、現在あなたはどのようにお考えですか。

調査数	人間の自由や平等にかかわる問題なので、自分も市民の一人としてこの問題の解決に努力すべきだと思う	同和地区の人々の問題であるから、自分には関係ないと思う	あまり騒がずにそっとしておくのがよいと思う	特に関心がない	その他	わからない	不明
1842 100.0	700 38.0	29 1.6	426 23.1	242 13.1	107 5.8	322 17.5	16 0.9

質問7 かりに、日ごろ親しくつきあっている職場の人や近所の人、同和地区出身の人であることがわかった場合、あなたはどのようにされますか。

調査数	これまでと同じように親しくつきあう	表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく	つきあいはやめてしまう	その他	わからない	不明
1842 100.0	1494 81.1	108 5.9	5 0.3	20 1.1	202 11.0	13 0.7

質問8 かりに、あなたの親類や親しい人の結婚しようとしている相手が、同和地区出身の人であることがわかったとき、あなたはどのようにされますか。

調査数	本人の意思を尊重する	自分がかまわないが、世間へのてまえがあるから、できれば結婚してほしくない	結婚することには反対する	その他	わからない	不明
1842 100.0	1348 73.2	147 8.0	56 3.0	37 2.0	241 13.1	13 0.7

質問9 かりに、あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区出身の人であることがわかったとき、あなたはどのようにされますか。

調査数	子どもの意思を尊重する	親として反対するが、子どもの意思が強ければしかたない	家族や親類の反対があれば、結婚を認めない	絶対に結婚を認めない	その他	わからない	不明
1842 100.0	995 54.0	389 21.1	58 3.1	53 2.9	50 2.7	282 15.3	15 0.8

質問10 かりに、あなたが同和地区出身の人と恋愛をし、結婚しようとしたとき、親や親類の人から強い反対を受けたら、あなたはどうされますか。

調査数	自分の意思を貫いて結婚する	親の説得に全力を傾けた後に、自分の意思を貫いて結婚する	家族や親類の反対があれば、結婚しない	絶対に結婚しない	その他	わからない	不明
1842	425	731	221	30	44	376	15
100.0	23.1	39.7	12.0	1.6	2.4	20.4	0.8

質問11 あなたが同和問題に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。

調査数	結婚問題で周囲が反対すること	就職・職場で不利な扱いを受けること	差別的な発言を受けること	差別的な落書き	結婚に際して身元調査(聞き合わせ)が行われること	就職に際して身元調査(聞き合わせ)が行われること	同和地区やそこで生活する住民との交流や交際を避けたりすること	インターネットを利用して差別的な情報が掲載されること
1842	780	665	541	162	447	350	497	253
100.0	42.3	36.1	29.4	8.8	24.3	19.0	27.0	13.7

調査数	その他	特にない	わからない	不明
1842	41	126	517	16
100.0	2.2	6.8	28.1	0.9

質問12-1 講演会・講座・研修会への参加

調査数	3回以上	1～2回	ない	不明
1842	85	133	1455	169
100.0	4.6	7.2	79.0	9.2

質問12-2 広報なごや

調査数	3回以上	1～2回	ない	不明
1842	82	316	1233	211
100.0	4.5	17.2	66.9	11.5

質問12-3 テレビ・ラジオ

調査数	3回以上	1～2回	ない	不明
1842	216	537	931	158
100.0	11.7	29.2	50.5	8.6

質問12-4 映画・ビデオ

調査数	3回以上	1～2回	ない	不明
1842	100	273	1260	209
100.0	5.4	14.8	68.4	11.3

質問12-5 冊子・パンフレット

調査数	3回以上	1～2回	ない	不明
1842	127	334	1171	210
100.0	6.9	18.1	63.6	11.4

質問12-6 新聞

調査数	3回以上	1～2回	ない	不明
1842	231	519	921	171
100.0	12.5	28.2	50.0	9.3

質問12-7 ポスター

調査数	3回以上	1～2回	ない	不明
1842	136	278	1207	221
100.0	7.4	15.1	65.5	12.0

質問12-8 たれ幕・立看板・電光掲示板

調査数	3回以上	1～2回	ない	不明
1842	85	154	1375	228
100.0	4.6	8.4	74.6	12.4

質問12-9 雑誌

調査数	3回以上	1～2回	ない	不明
1842	128	306	1198	210
100.0	6.9	16.6	65.0	11.4

質問12-10 インターネット

調査数	3回以上	1～2回	ない	不明
1842	77	116	1421	228
100.0	4.2	6.3	77.1	12.4

質問13 あなたは、同和問題に関して、インターネットの掲示板で差別を助長する書き込みを見たことがありますか。それはどのようなものですか。

調査数	同和地区出身者を誹謗・中傷する表現の掲示	同和地区を特定し、そこに住む人々を誹謗・中傷する表現の掲示	同和地区出身者に対する差別等のある表現の掲示	同和地区に関する情報の掲示	その他	差別を助長する書き込みを見たことがない	インターネットを利用したことがない	わからない
1842	85	61	75	69	66	793	548	292
100.0	4.6	3.3	4.1	3.7	3.6	43.1	29.8	15.9

調査数	不明
1842	57
100.0	3.1

質問14 あなたは学校で同和問題(部落差別)についての授業を受けたことがありますか。受けたことがある学校すべてに○をつけてください。

調査数	小学校	中学校	高等学校(旧制中学校なども含む)	短期大学・大学・大学院(高等専門学校なども含む)	学校では受けたことがない	おぼえていない	不明
1842	197	269	156	49	754	650	29
100.0	10.7	14.6	8.5	2.7	40.9	35.3	1.6

質問15 同和問題などの人権課題への理解を深めるため、学校や社会で行っている人権教育や人権啓発にあなたは何を期待しますか。

調査数	あらゆる偏見や差別をなくすため、同和問題などの人権課題についての理解を深めるようにする	同和問題などの人権課題解決への市民の意欲と実践力を高めるようにする	ボランティア活動や高齢者との交流などを通じて人を思いやる心を育成するようにする	自分の大切さに気づくことができるとともに、他の人の大切さも認めることができるようにする	地域の実情に応じた様々な学習機会を提供し、地域交流の促進をはかるようにする	同和問題などの人権課題を常時、公的施設で学んだり調べたりすることができるようにする	その他	わからない
1842 100.0	788 42.8	304 16.5	467 25.4	840 45.6	332 18.0	260 14.1	90 4.9	365 19.8

調査数	不明
1842 100.0	27 1.5

質問16 同和問題についての啓発・教育を今後どうすべきだとあなたは思いますか。

調査数	もっと積極的に行うべきである	現在のままでよい	特に行う必要がない	その他	わからない	不明
1842 100.0	614 33.3	321 17.4	256 13.9	81 4.4	557 30.2	13 0.7

質問17 同和問題の解決のためどのようなことを行ったらよいと思いますか。

調査数	同和問題に関する啓発活動や教育を推進する	同和問題に関する相談のための機関・施設を充実する	同和問題に関して人権が侵害された被害者の救済を充実する	同和地区の人の収入の安定・向上をはかり生活力を高める	同和地区内外の人たちが交流を活発にし、まちづくりをすすめる	その他	わからない	不明
1842 100.0	610 33.1	486 26.4	425 23.1	319 17.3	456 24.8	117 6.4	516 28.0	18 1.0

質問18 あなたは、今の日本が、基本的人権の尊重されている社会だと思いますか。

調査数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そうは思わない	わからない	不明
1842 100.0	164 8.9	854 46.4	382 20.7	223 12.1	213 11.6	6 0.3

Q1 性別

調査数	男性	女性	不明
1842	854	960	28
100.0	46.4	52.1	1.5

Q2 年代

調査数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	不明
1842	181	325	335	303	339	241	109	9
100.0	9.8	17.6	18.2	16.4	18.4	13.1	5.9	0.5

Q3 職業

調査数	自営業主(商工サービス、建設業、自由業などの事業主)	家族従事者(商工サービス、建設業、自由業などの家族従事の方)	公務員	教員	企業・団体の経営者、役員	企業・団体の勤め人	臨時雇、パート勤め、派遣、契約社員などの非正規雇用	その他の有業者
1842	171	54	48	30	48	473	311	32
100.0	9.3	2.9	2.6	1.6	2.6	25.7	16.9	1.7

調査数	家事専業者	学生	無職	不明
1842	288	27	352	8
100.0	15.6	1.5	19.1	0.4

1 差別に対する考え方

【質問1】

日本国憲法の第14条には、「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。」と定められています。あなたは「差別」ということについてどうお考えですか。当てはまる番号に○印をつけてください。(SA)

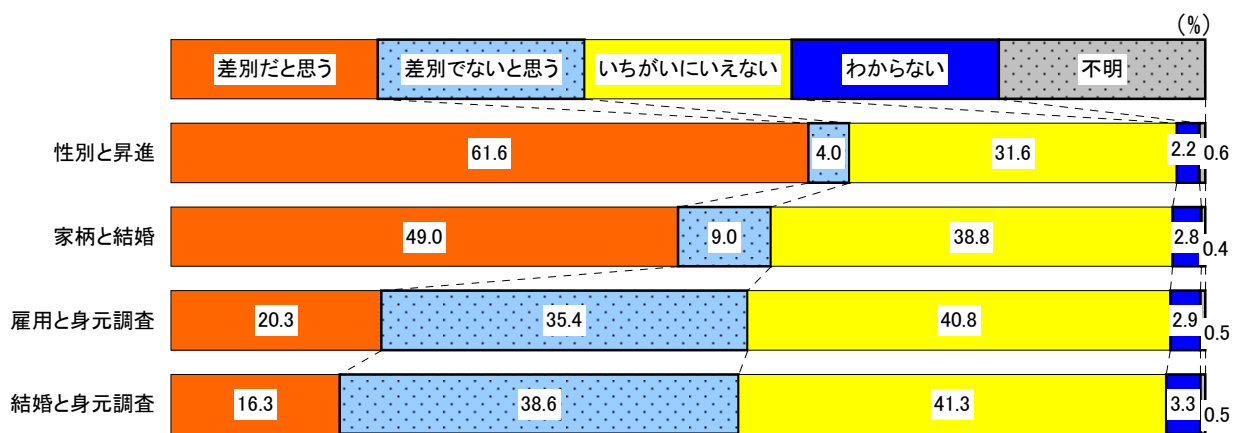
- I 同じように仕事ができるのに、性別だけで昇進に差をつけることは
- II 家柄が違うということで、結婚に反対することは
- III 人を雇うときに身元調査(聞きあわせ)をすることは
- IV 結婚のとき相手の身元調査(聞きあわせ)をすることは

- 1. 差別だと思う 2. 差別でないと思う 3. いちがいにいいない 4. わからない

■単純集計

「性別で昇進に差をつける」「家柄で結婚に反対する」ことは「差別だと思う」と答えた人の割合が高く、「雇用の身元調査」「結婚時の身元調査」では低い

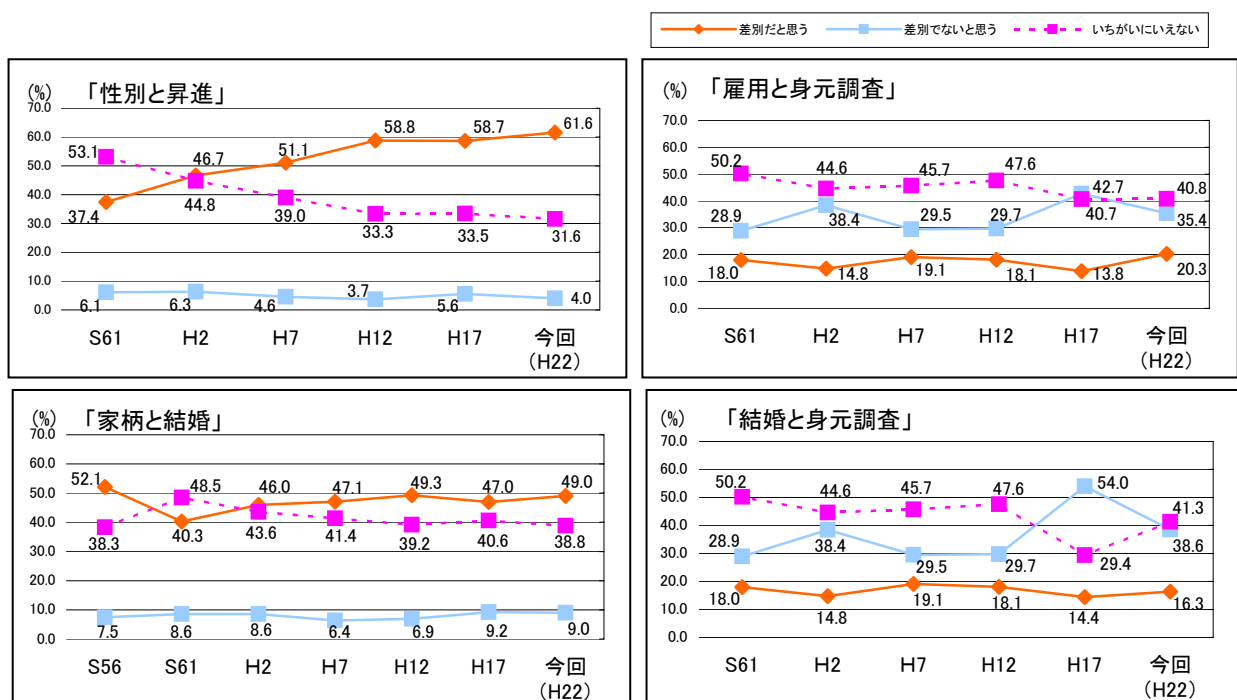
- ◆ 「差別だと思う」と答えた人の割合は、「性別で昇進に差をつける」(61.6%)、「家柄で結婚に反対する」(49.0%)で高い。一方、「雇用の身元調査」「結婚時の身元調査」ではいずれも「差別でない」と答えた人の割合(各35.4%、38.6%)は「差別だと思う」と答えた人の割合(各20.3%、16.3%)を大きく上回っている。



全体 回答数=1842

■時系列比較

「性別で昇進に差をつける」については、「差別だと思う」と答えた人の割合が増えている

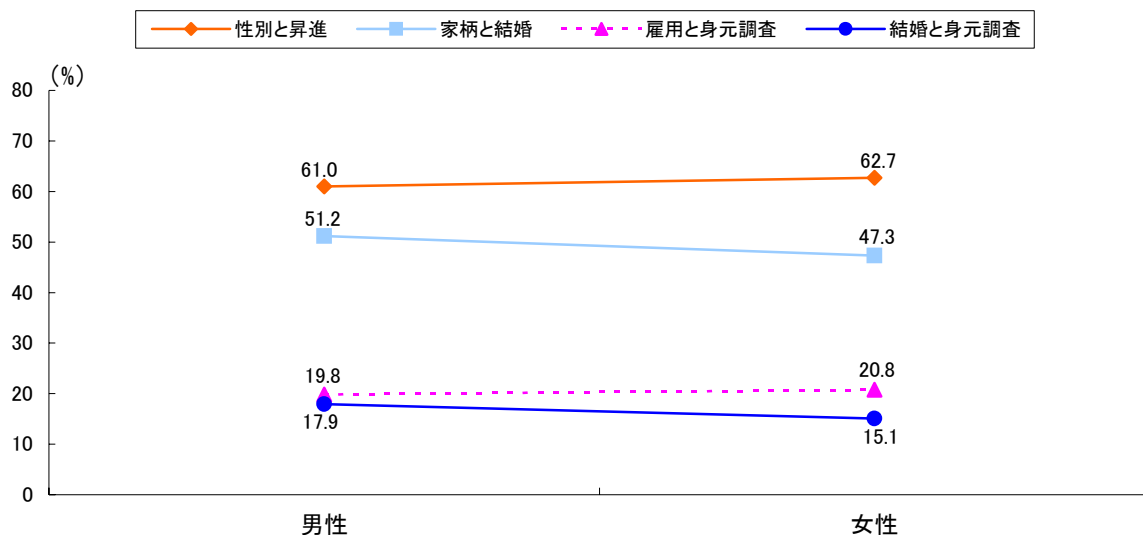


※注 H12までは『雇用・結婚と身元調査』という項目で調査した。

■要因別集計

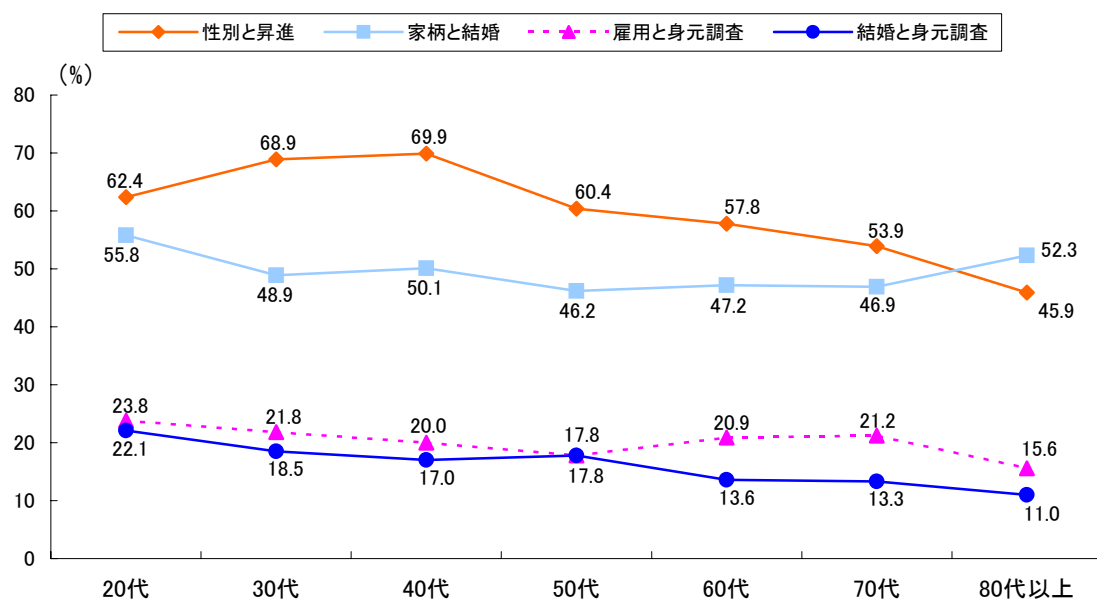
◆ 「性別で昇進に差をつける」で「差別」と答えた人の割合は、男性で61.0%、女性62.7%。

＜性別「差別」と答えた人の状況＞



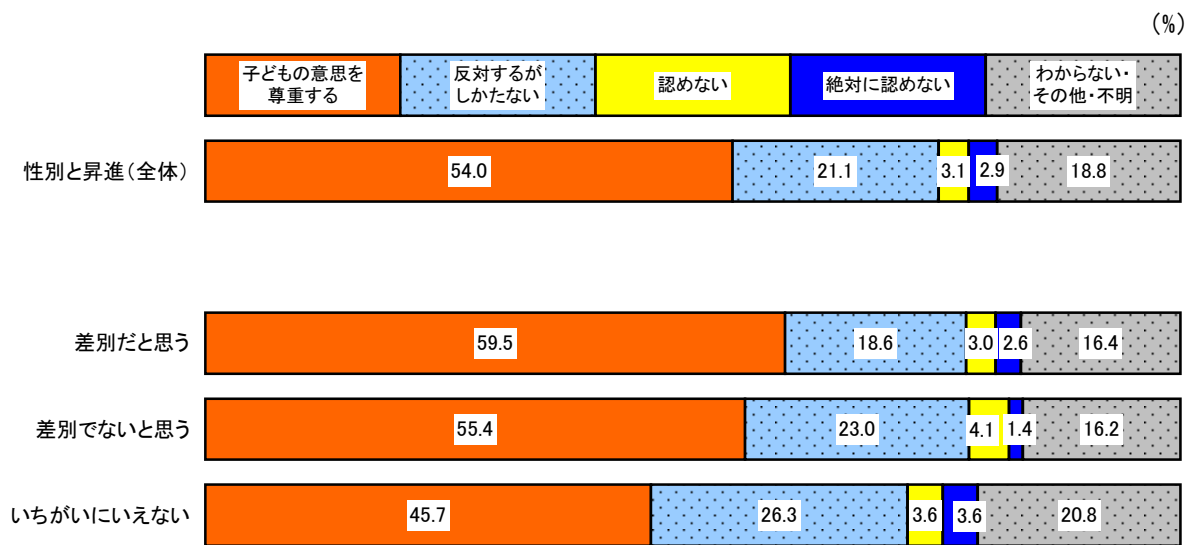
いずれの年代も「性別で昇進に差をつける」「家柄で結婚に反対する」を「差別だと思う」と答えた人の割合は高く、「雇用時の身元調査」「結婚時の身元調査」では低い

＜年代別「差別」と答えた人の状況＞



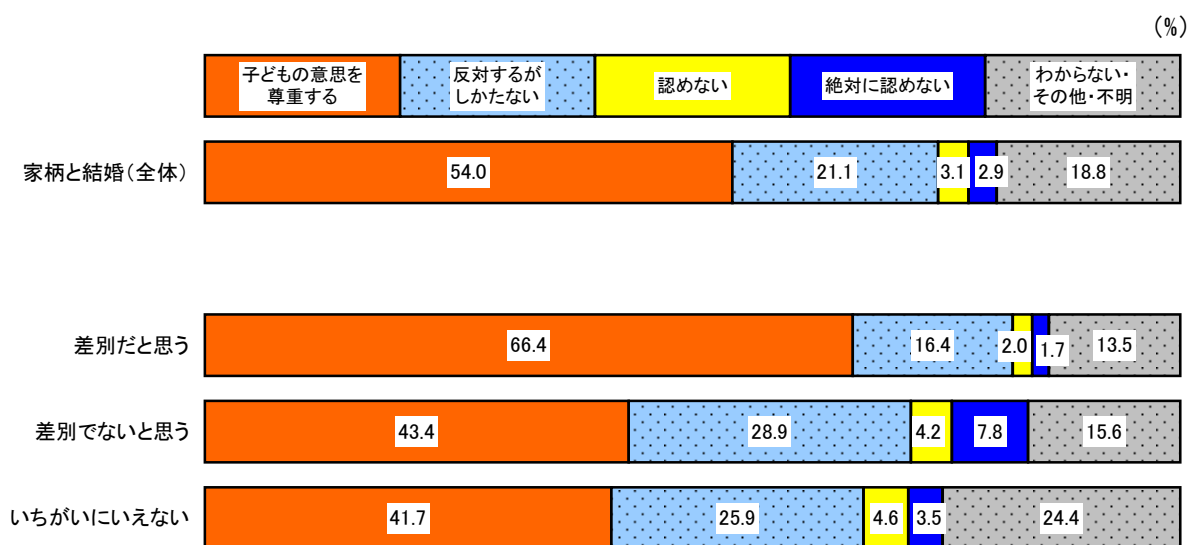
■クロス集計

【性別と昇進】
 < 子どもの結婚における差別意識(質問9) との関連 >



「家柄で結婚に反対する」を「差別だと思う」人は、「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合が高い

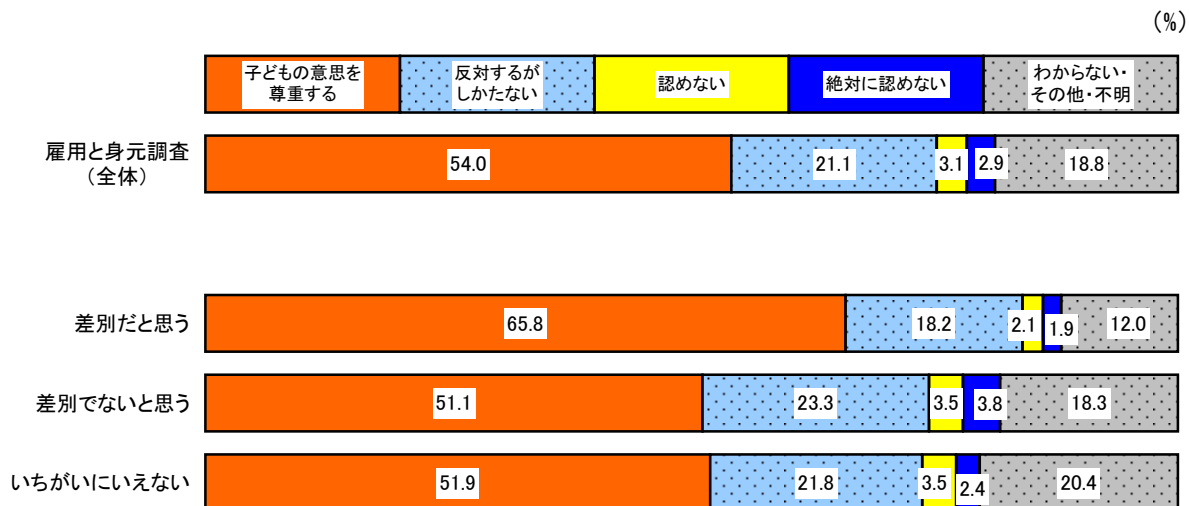
【家柄と結婚】
 < 子どもの結婚における差別意識(質問9) との関連 >



■クロス集計

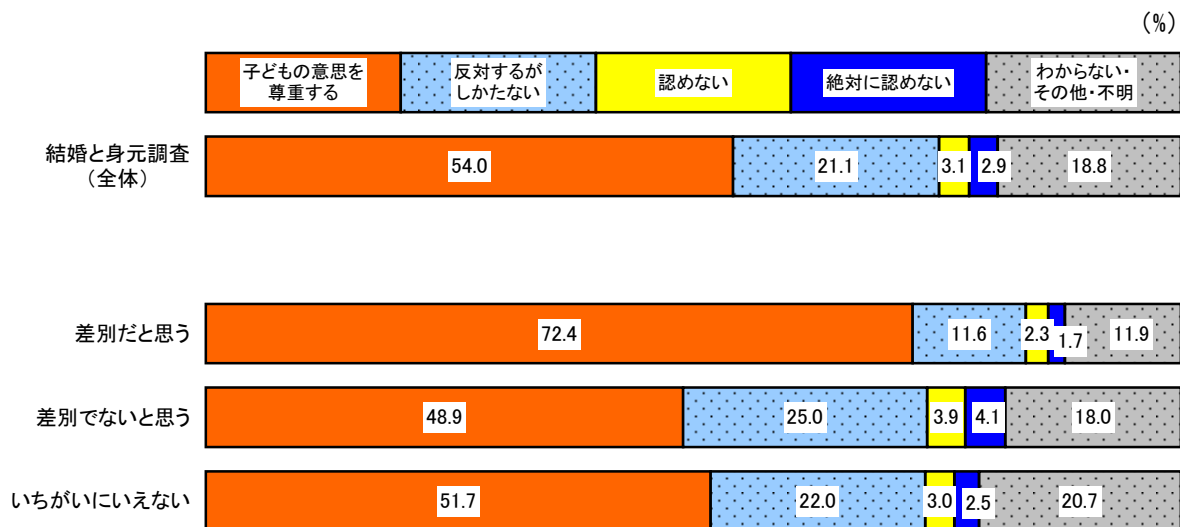
「雇用時の身元調査」を「差別と思う」人は「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合が高い

【雇用と身元調査】
 < 子どもの結婚における差別意識(質問9) との関連 >



「結婚時の身元調査」を「差別と思う」人は「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合が高い

【結婚と身元調査】
 < 子どもの結婚における差別意識(質問9) との関連 >



2 同和問題の認知状況

【質問2】

あなたは同和問題を知っていますか。

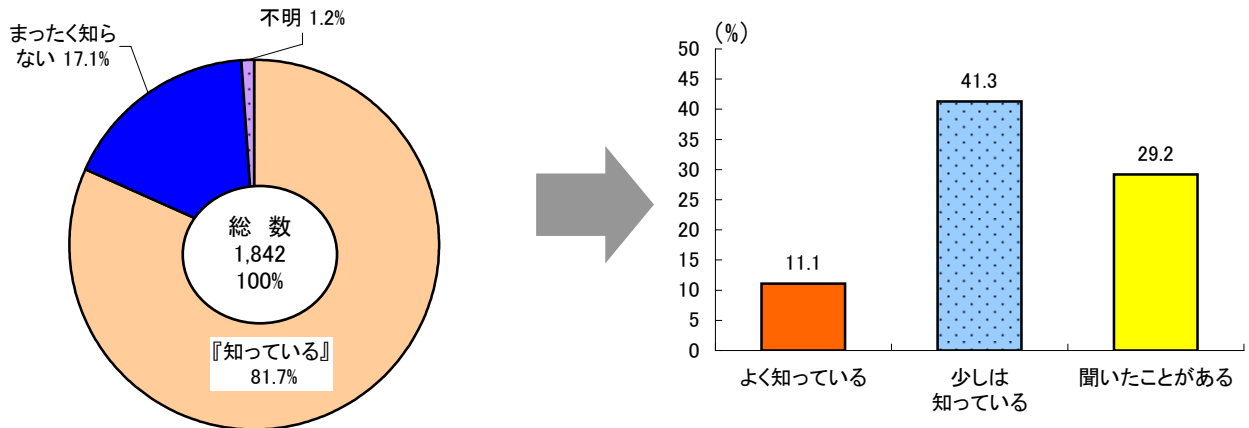
同和問題とは、「同和地区」や「被差別部落」などよばれる地域の出身であることや、そこに住んでいるというだけの理由でいわれなき差別や不利益を受け、基本的人権や人間としての尊厳がおびやかされ、優されているという社会問題です。(SA)

1. よく知っている 2. 少しは知っている 3. 聞いたことがある 4. まったく知らない

■単純集計

81.7%が同和問題を知っている

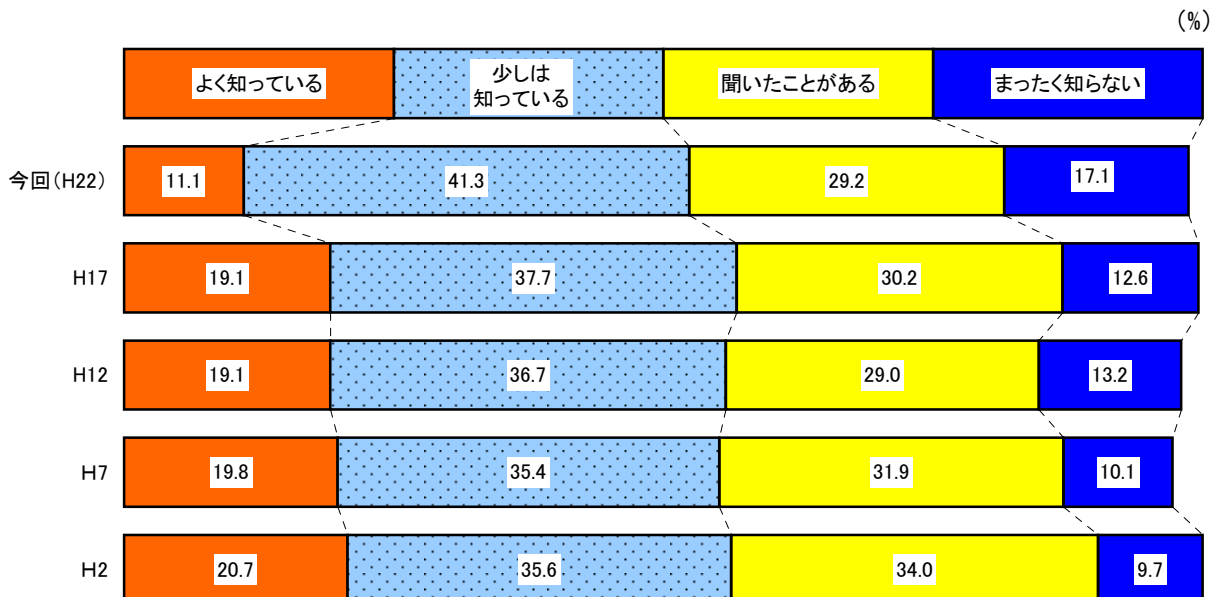
- ◆ 「よく知っている」(11.1%)、「少しは知っている」(41.3%)、「聞いたことがある」(29.2%)を合わせると、何らかの形で同和問題を『知っている』と答えた人の割合は81.7%を占める。



■時系列比較

同和問題を知らない人が増えている

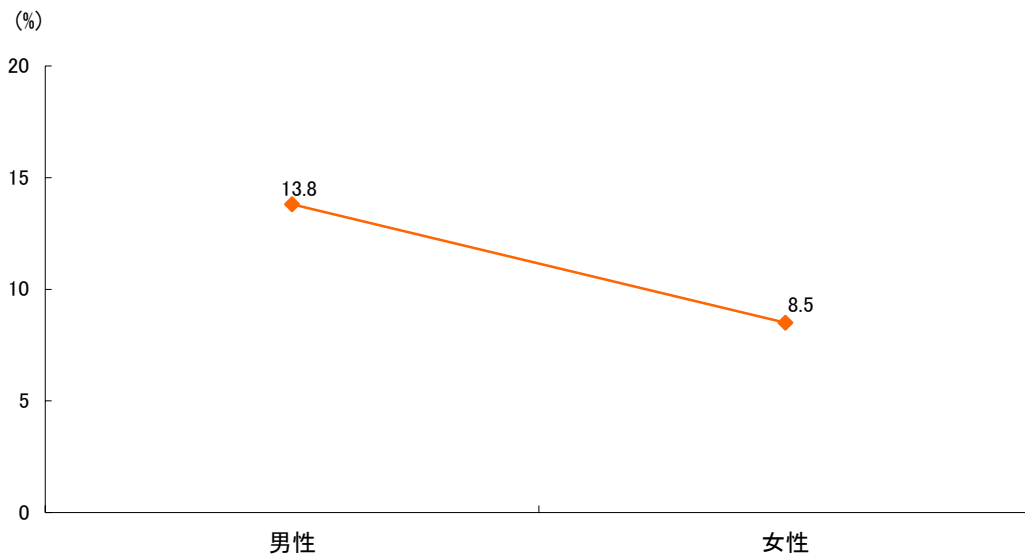
- ◆ 前回と比較して、「同和問題をまったく知らない」という人の割合が増えている。「よく知っている」と答えた人の割合は前回より減り、「少しは知っている」と答えた人の割合は、増加している。



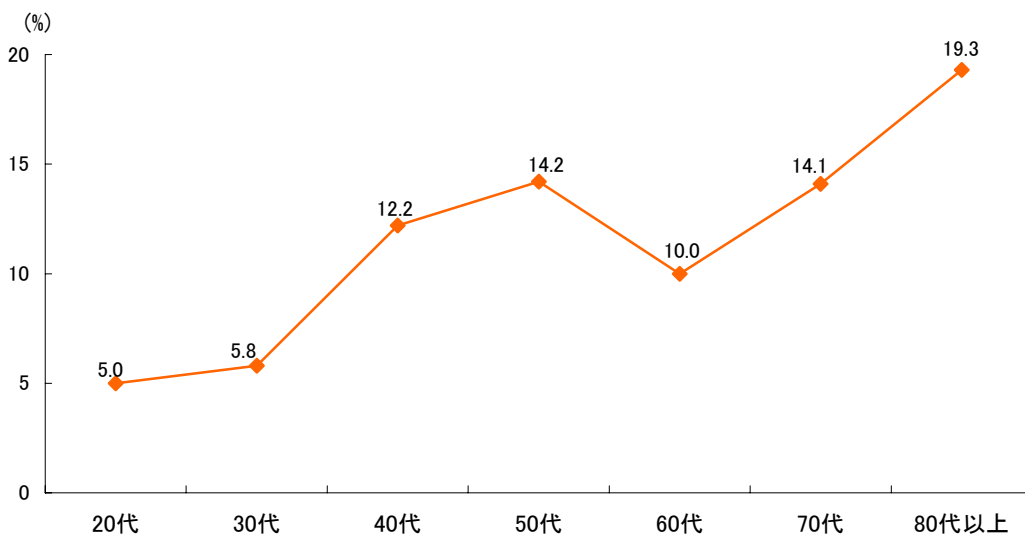
「よく知っている」と答えた人の割合は、男性の方が高い

◆ 「よく知っている」と答えた人の割合は、男性13.8%、女性8.5%で男性の方が高い。

<性別「よく知っている人」の状況>



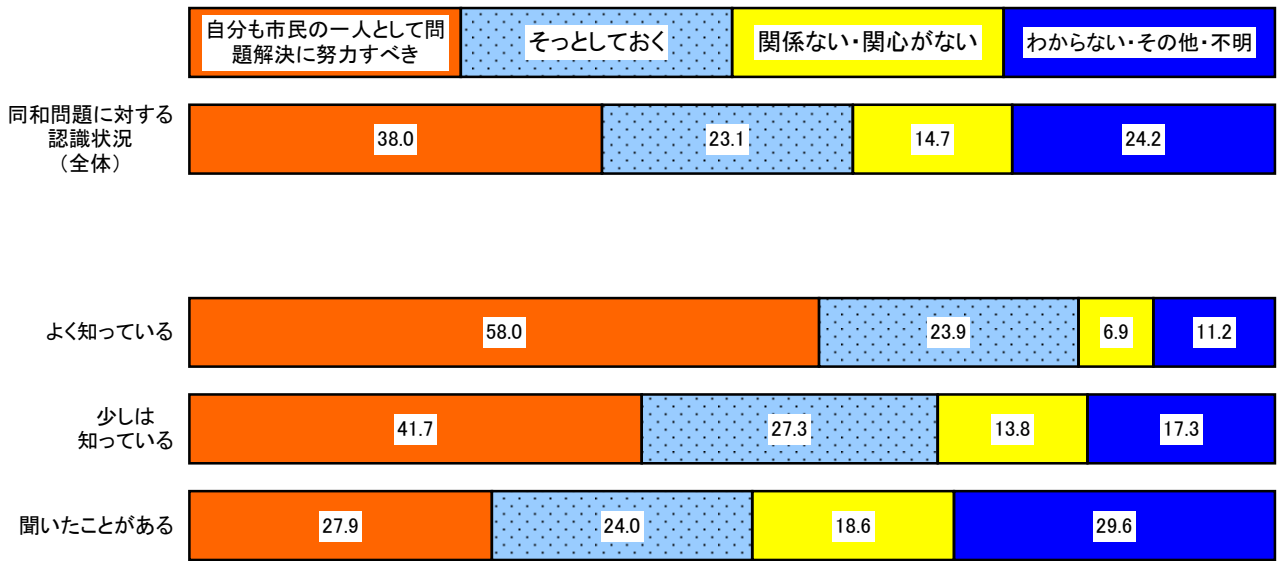
<年代別「よく知っている人」の状況>



■クロス集計

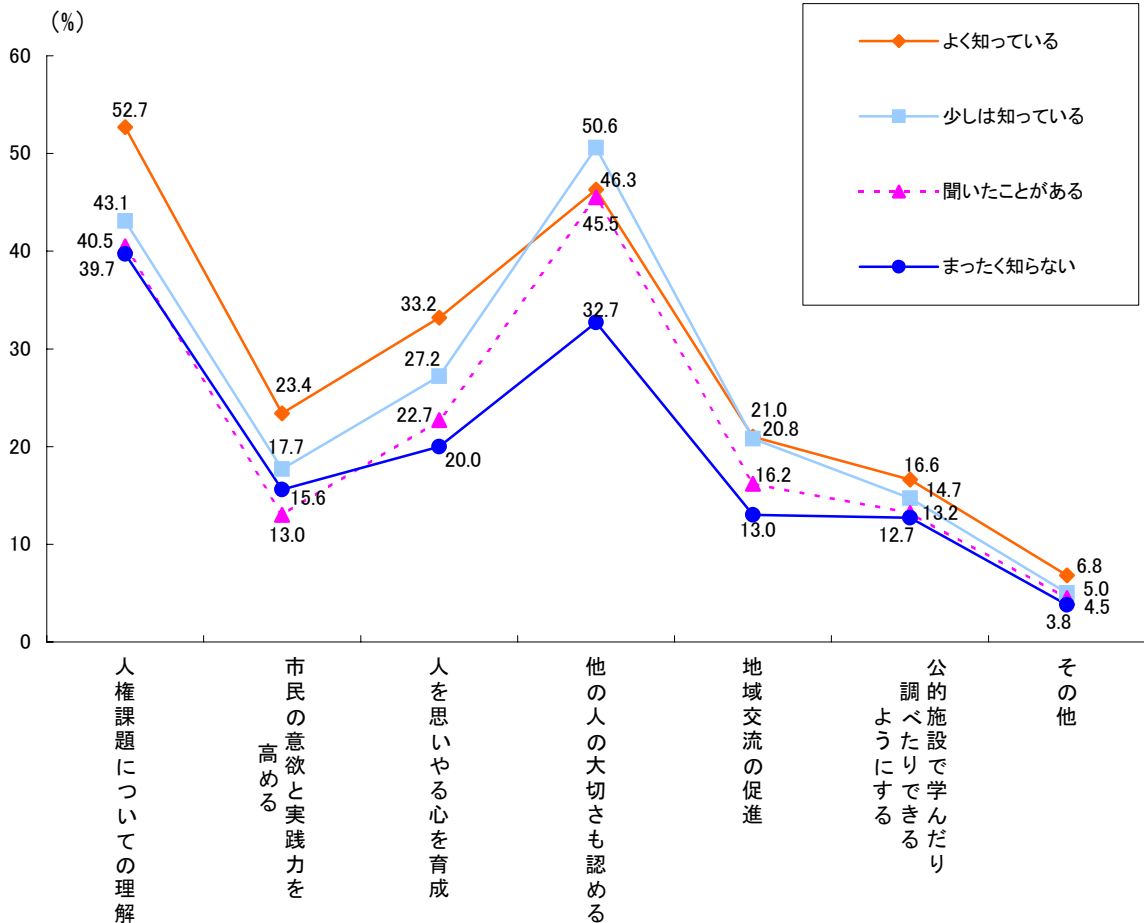
< 同和問題に対する認識状況(質問6)との関連 >

(%)



「同和問題の認知状況」にかかわらず、人権教育に期待するものとして「他の人の大切さも認める」「人権課題についての理解」と答えた人の割合は高い

< 人権教育に期待するもの(質問15)との関連 >



3 同和問題の認知経路

【質問3】

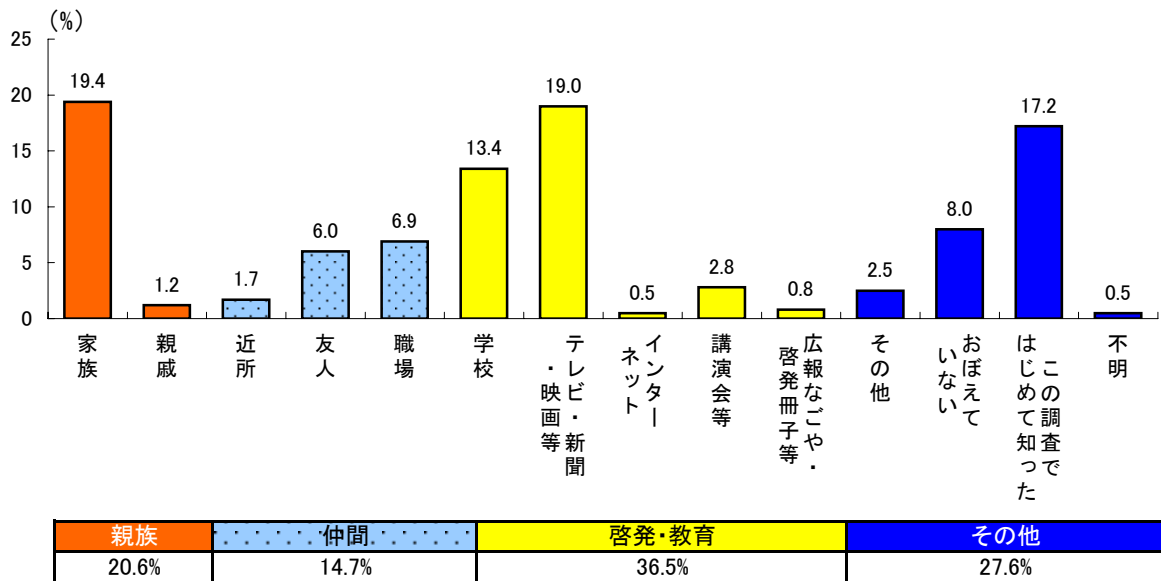
あなたが同和問題をはじめて知ったり、聞いたりしたきっかけは、誰からは又は何からですか。(SA)

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1. 家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など)から聞いた | 8. インターネットで知った |
| 2. 親戚の人から聞いた | 9. 講演会や研修会で知った |
| 3. 近所の人から聞いた | 10. 広報なごや・啓発冊子「みんなのねがい」などで知った |
| 4. 友人から聞いた | 11. その他 |
| 5. 職場の人から聞いた | 12. おぼえていない |
| 6. 学校の授業で教わった | 13. このアンケート調査ではじめて知った |
| 7. テレビ・ラジオ・新聞・映画・本などで知った | |

■単純集計

3人に1人は啓発・教育で知った

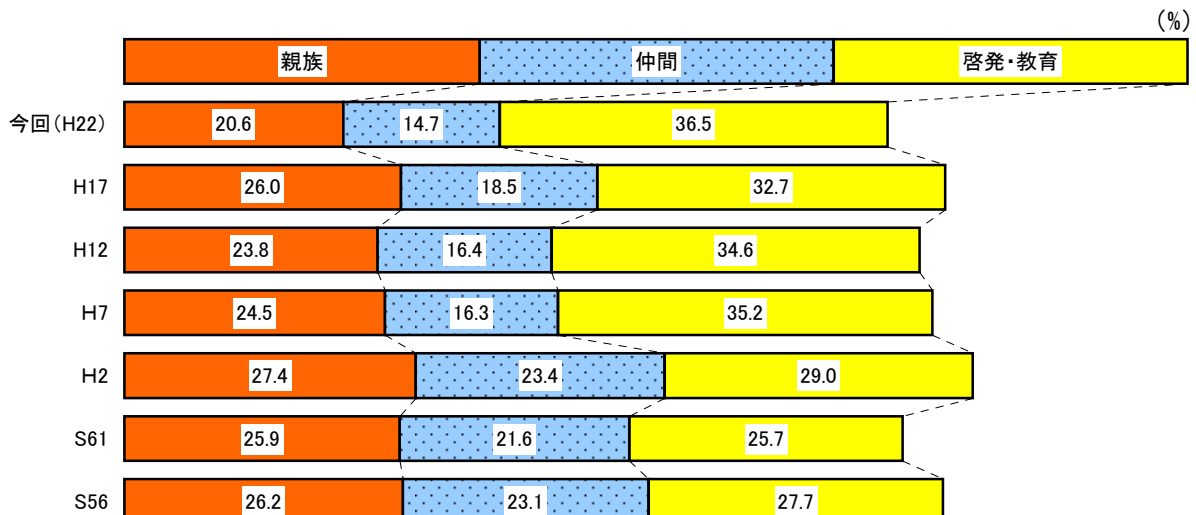
- ◆ 同和問題の認知経路を『親族』『仲間』『啓発・教育』のグループに分けてみると、『啓発・教育』が36.5%と最も高く、次いで『親族』が20.6%、『仲間』が14.7%となっている。
個別に見ると「家族」「テレビ・新聞・映画等」が高く(19.4%、19.0%)、『この調査ではじめて知った』が17.2%、「学校」(13.4%)の順となっている。



全体回答数=1842

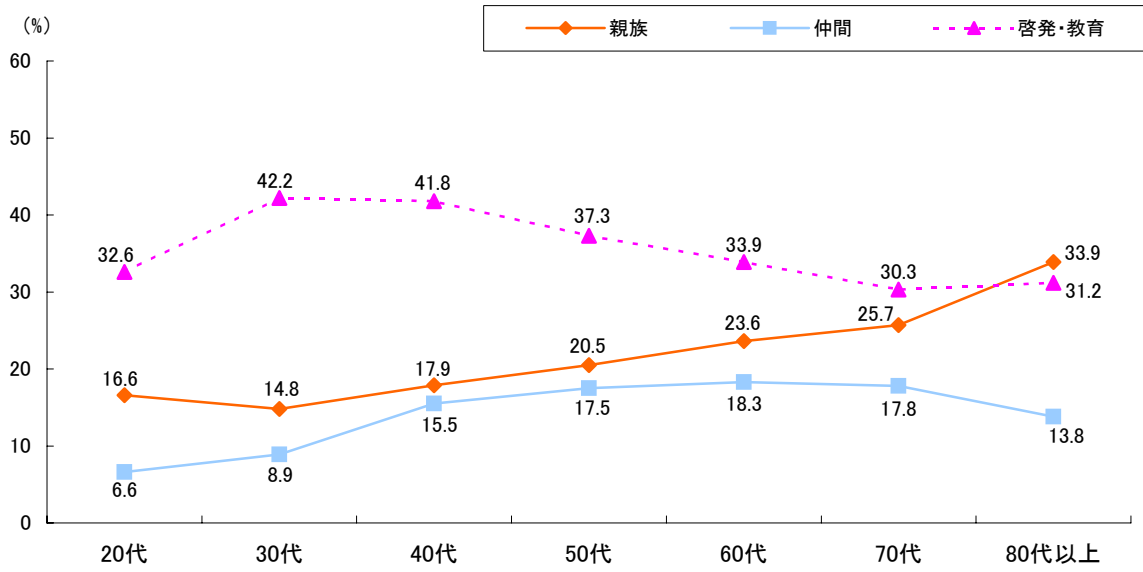
■時系列比較

『親族』『仲間』と答えた人の割合は減り、『啓発・教育』と答えた人の割合は増えている

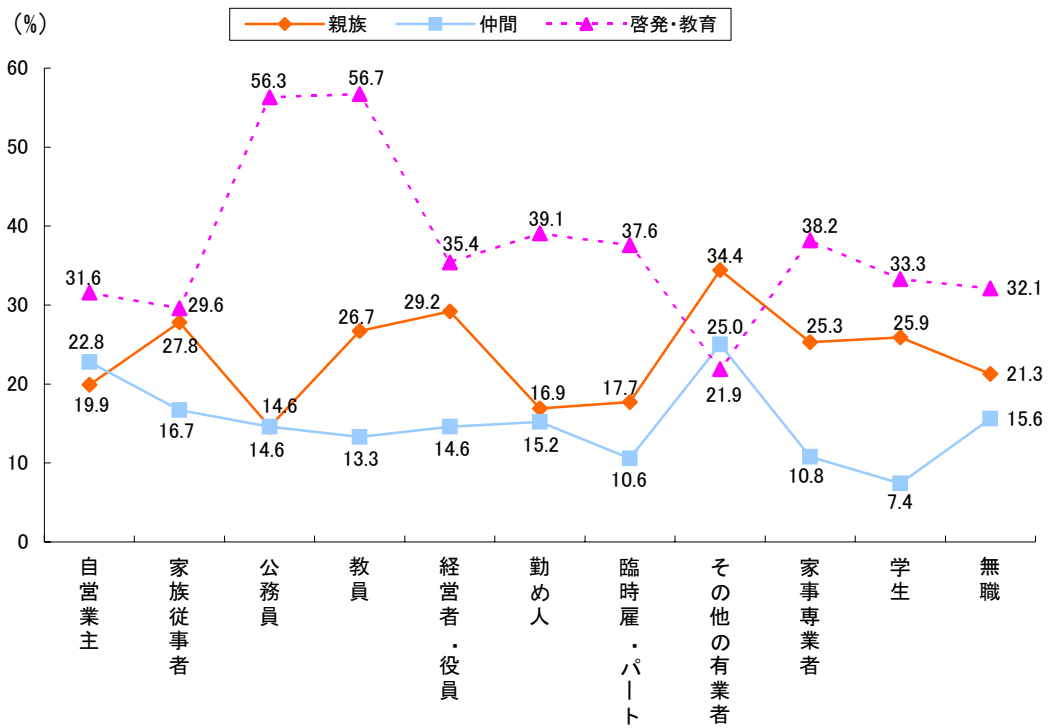


■要因別集計

＜年代別「認知経路」の状況＞



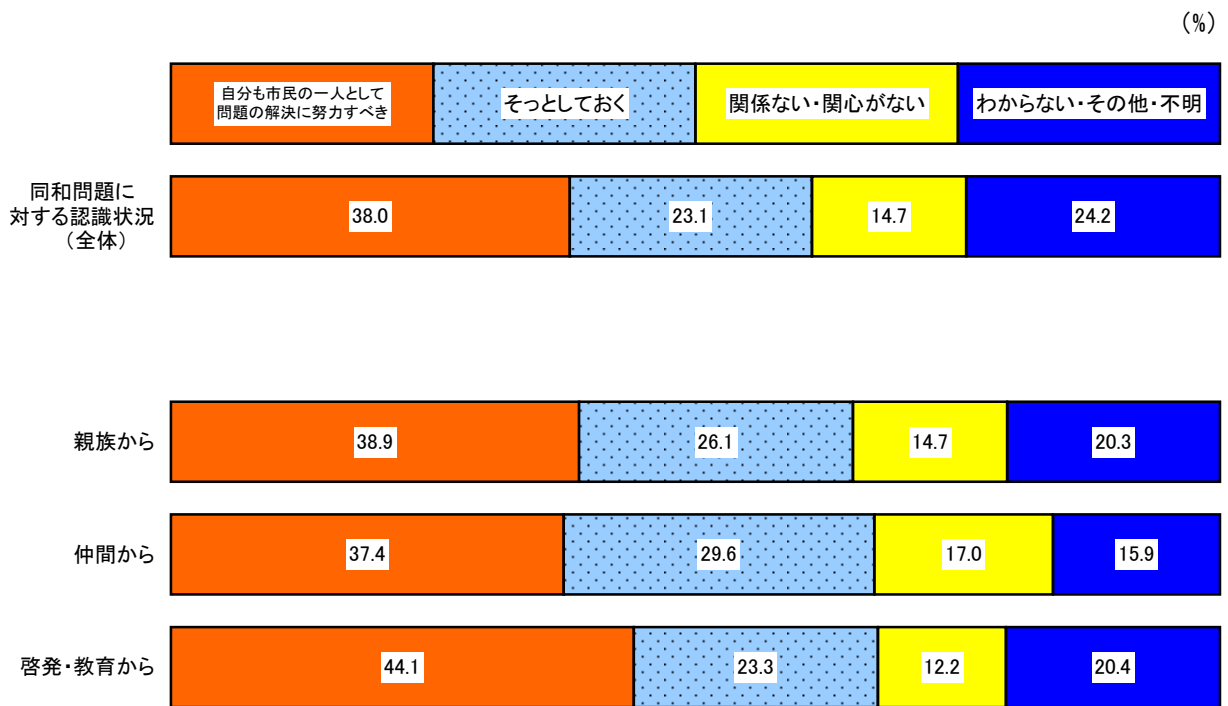
＜職業別「認知経路」の状況＞



■クロス集計

認知経路がどの場合であっても、同和問題を「自分も市民の一人として問題の解決に努力すべき」と答えた人の割合が最も高い。

<同和問題に対する認識状況(質問6)との関連>

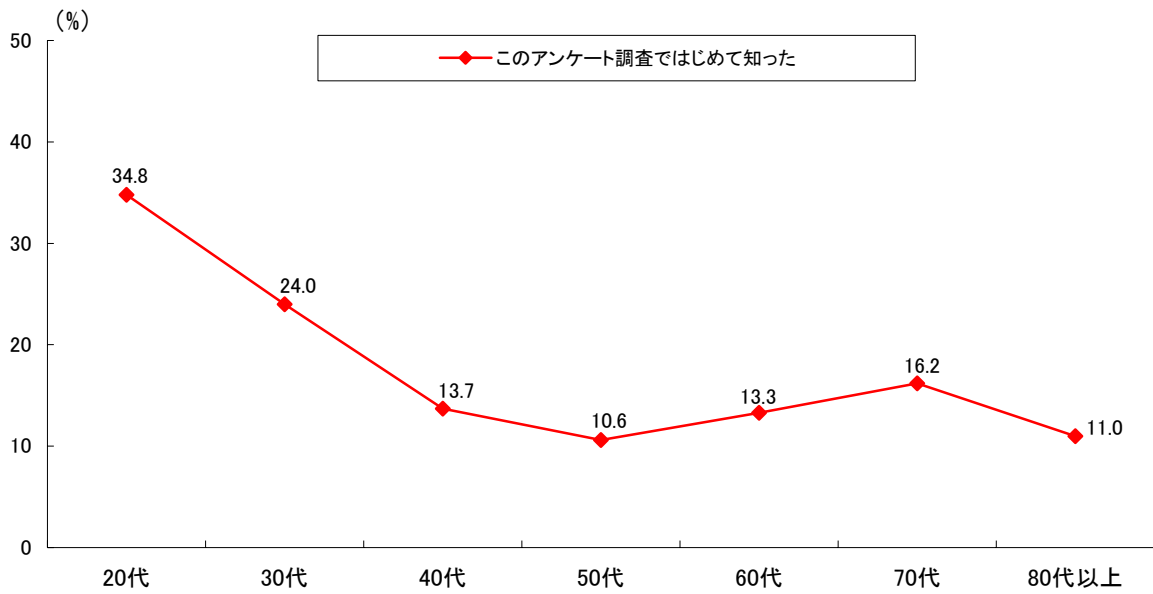


◆ 3(13)ー2 このアンケート調査ではじめて知った

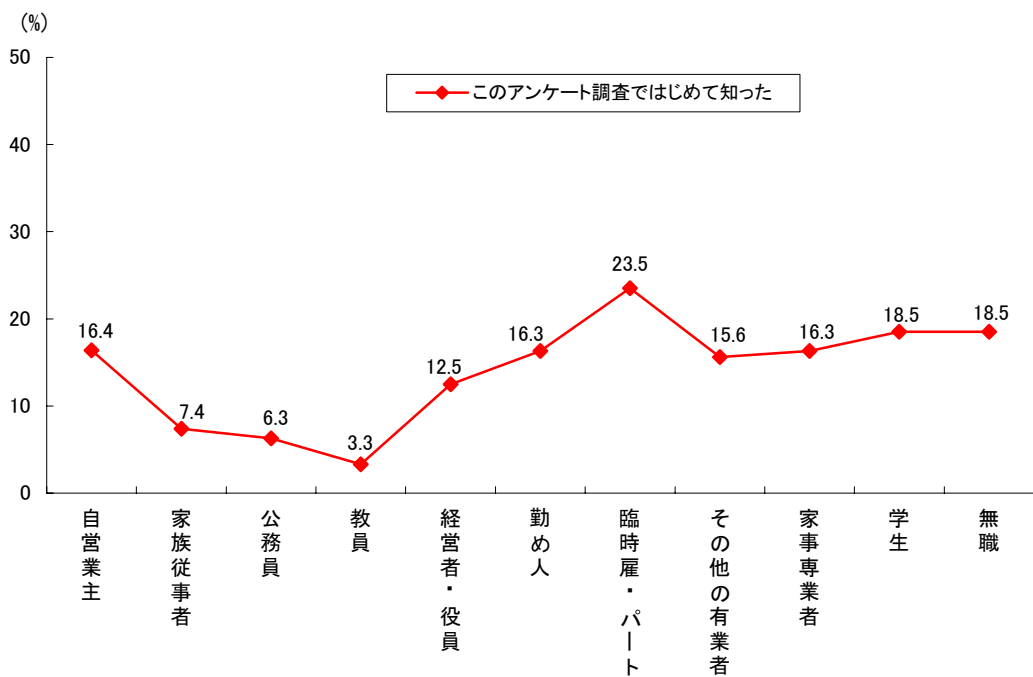
■ 要因別集計

「このアンケート調査ではじめて知った」と答えた人の割合は、20代で34.8%、30代で24.0%

< 年代別の状況 >



< 職業別の状況 >



4 同和問題の認知時期

【質問4】

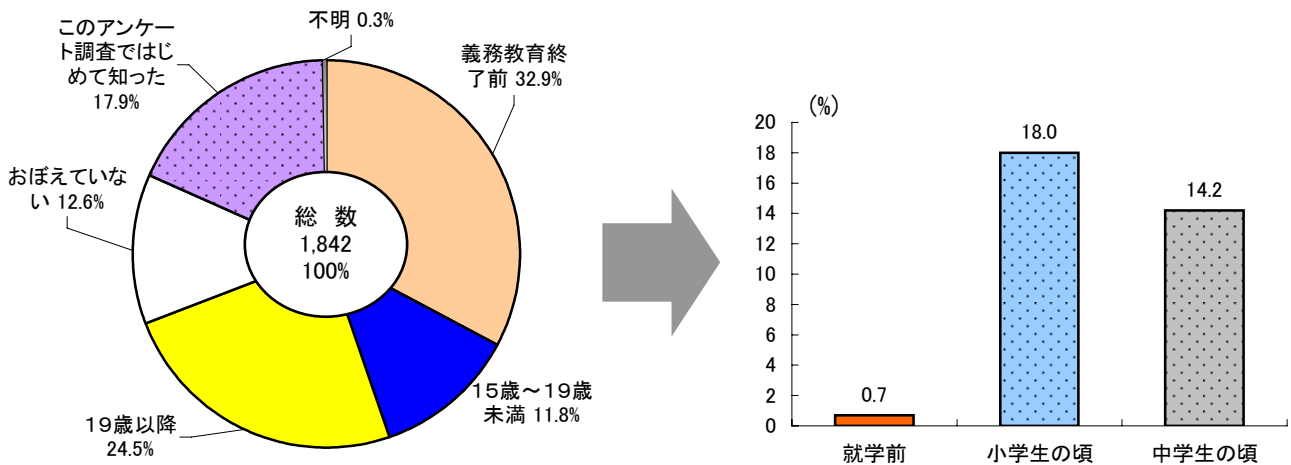
あなたが同和問題についてはじめて知ったり、聞いたりしたのは、いつ頃のことですか。(SA)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 6歳未満(小学校に入学する前) | 5. 19歳以降 |
| 2. 6歳～12歳未満(小学生の頃) | 6. おぼえていない |
| 3. 12歳～15歳未満(中学生の頃) | 7. このアンケート調査ではじめて知った |
| 4. 15歳～19歳未満 | |

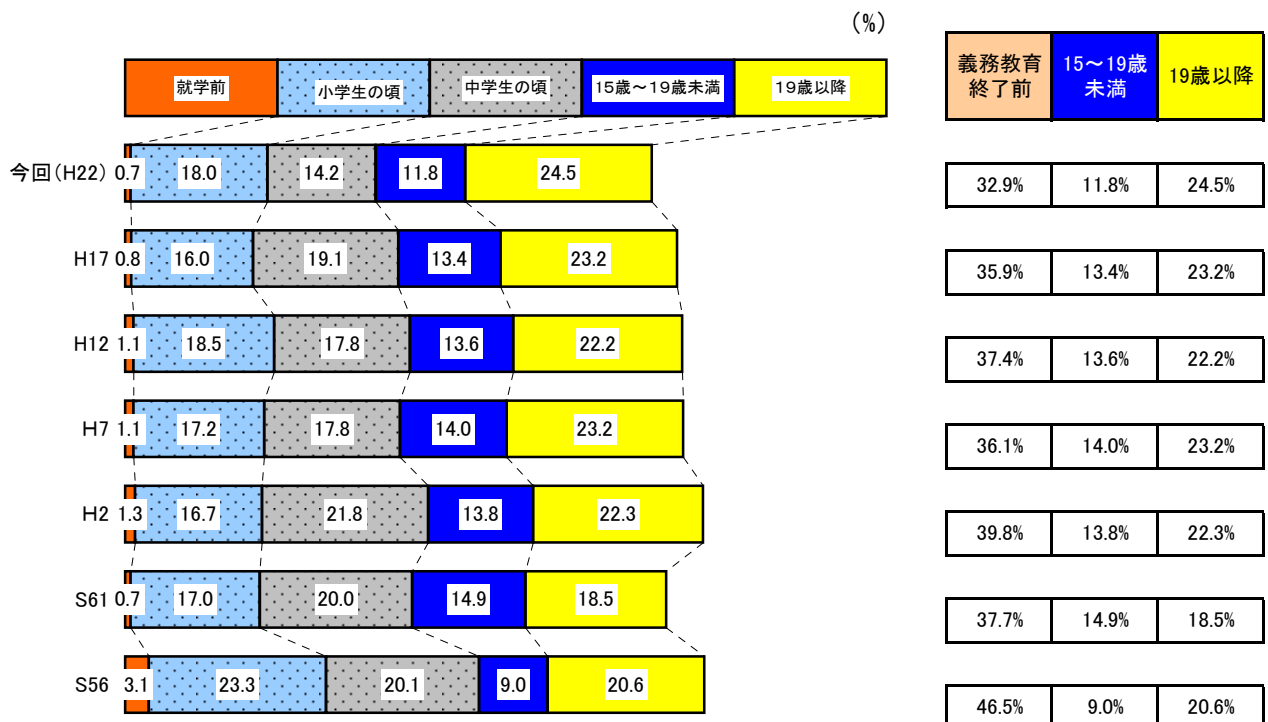
■単純集計

義務教育終了前に知ったと答えた人の割合は32.9%

- ◆ 認知時期は『義務教育終了前』と答えた人の割合が32.9%で最も高く、「小学生の頃」が18.0%、「中学生の頃」が14.2%となっている。
『このアンケート調査ではじめて知った』(17.9%)となっている。

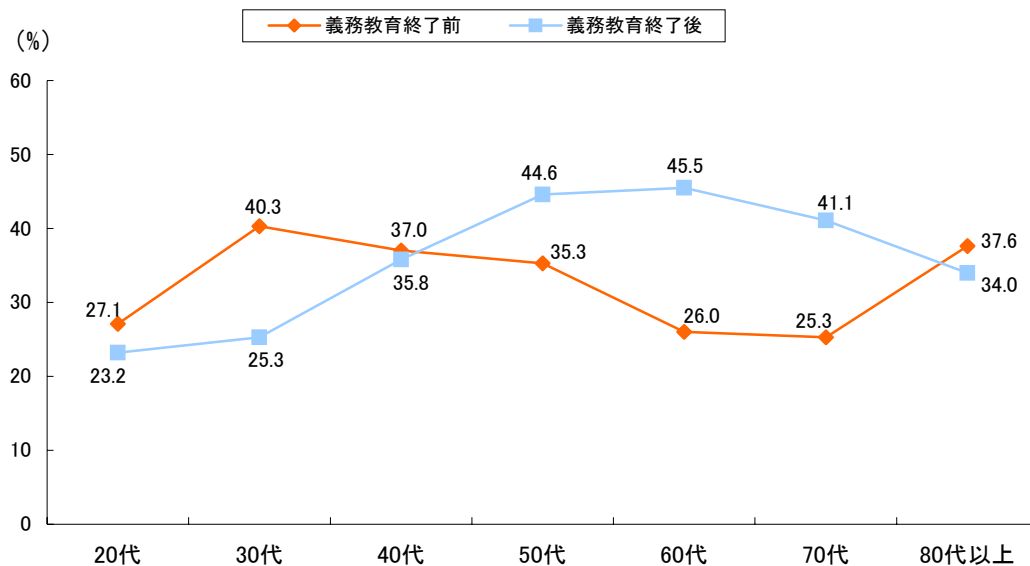


■時系列比較

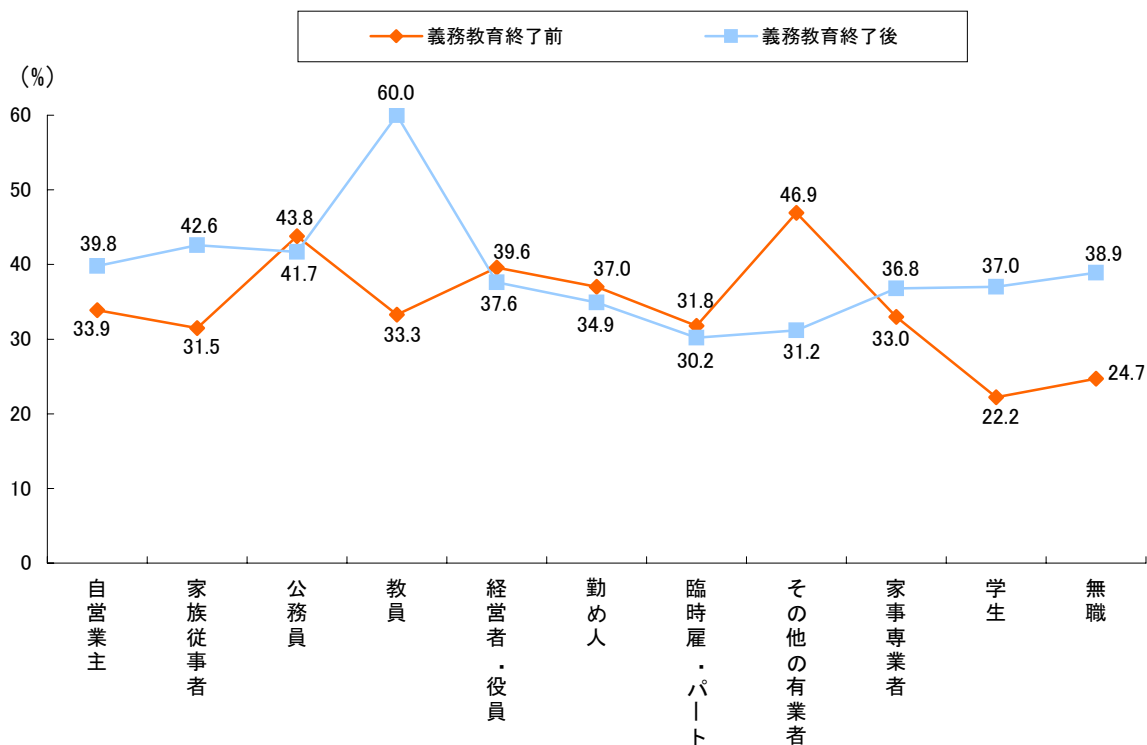


■ 要因別集計

＜ 年代別 「認知時期」 の状況 ＞

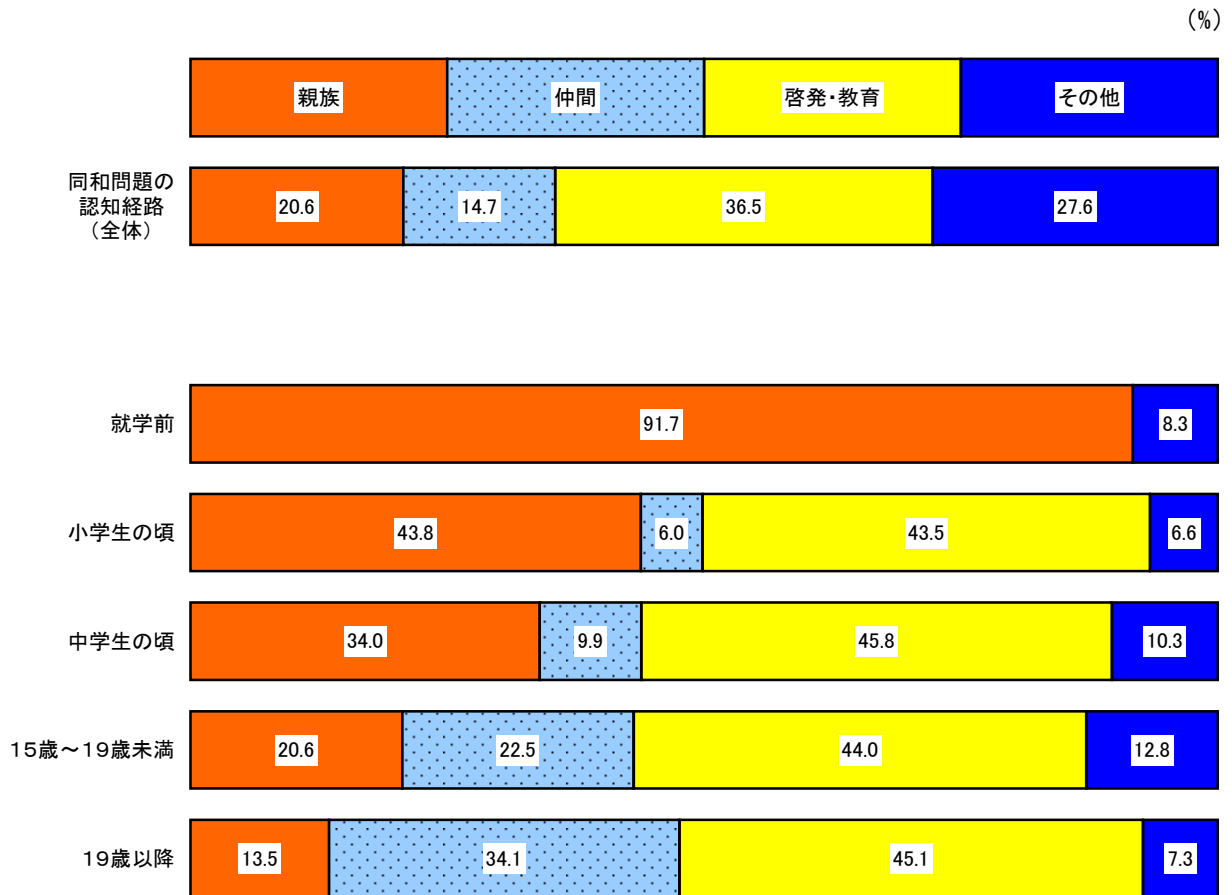


＜ 職業別 「認知時期」 の状況 ＞



■クロス集計

<同和問題の認知経路(質問3)との関連>



5 同和問題を知ったときの印象

【質問5】

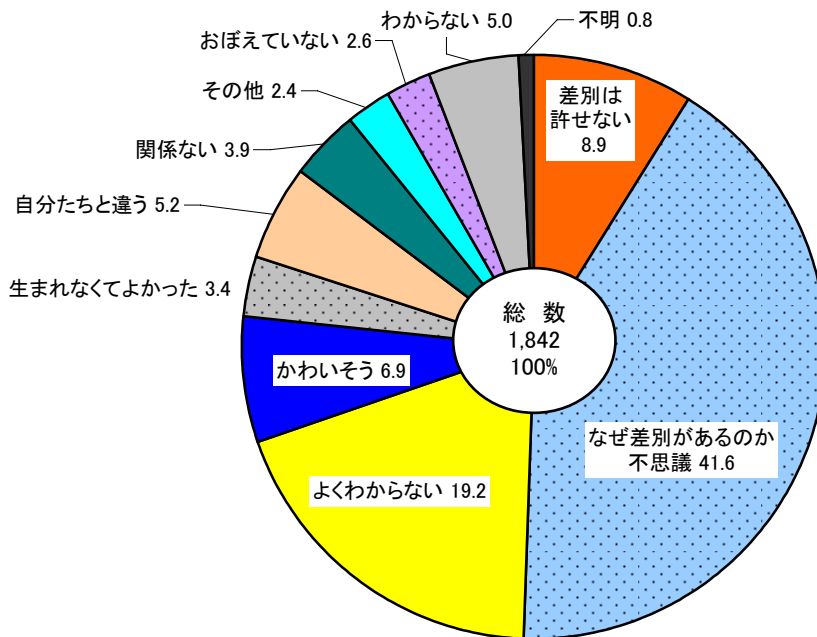
あなたが同和問題をはじめて知ったり、聞いたりしたとき、どう思いましたか。(SA)

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 差別があることを許せないと思った | 6. 何となく自分たちと違うと思った |
| 2. なぜ差別が存在するのか不思議に思った | 7. 自分には関係ないことと思った |
| 3. どのようなのかよくわからなかった | 8. その他 |
| 4. 同和地区の人をかわいそうに思った | 9. おぼえていない |
| 5. 自分は同和地区に生まれなくてよかったと思った | 10. わからない |

■単純集計

「なぜ差別が存在するのか不思議に思った」と答えた人の割合は41.6%

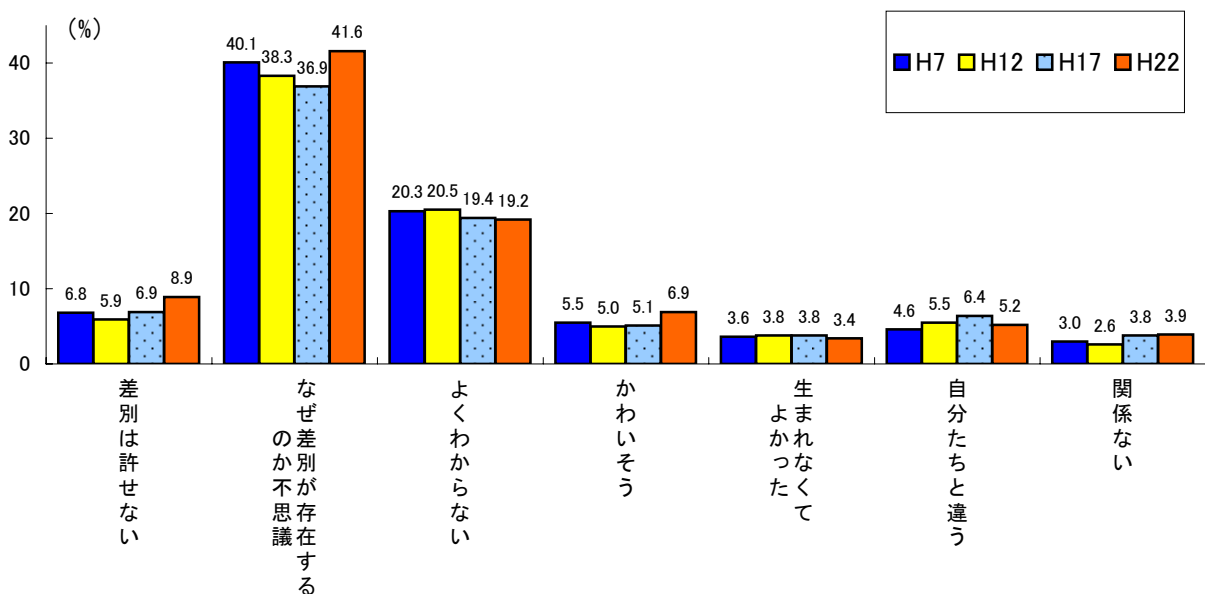
- ◆ 「なぜ差別があるのか不思議」と答えた人の割合は41.6%で最も高くなっている。次いで「よくわからない」(19.2%)、「差別は許せない」(8.9%)との順になっている。



■時系列比較

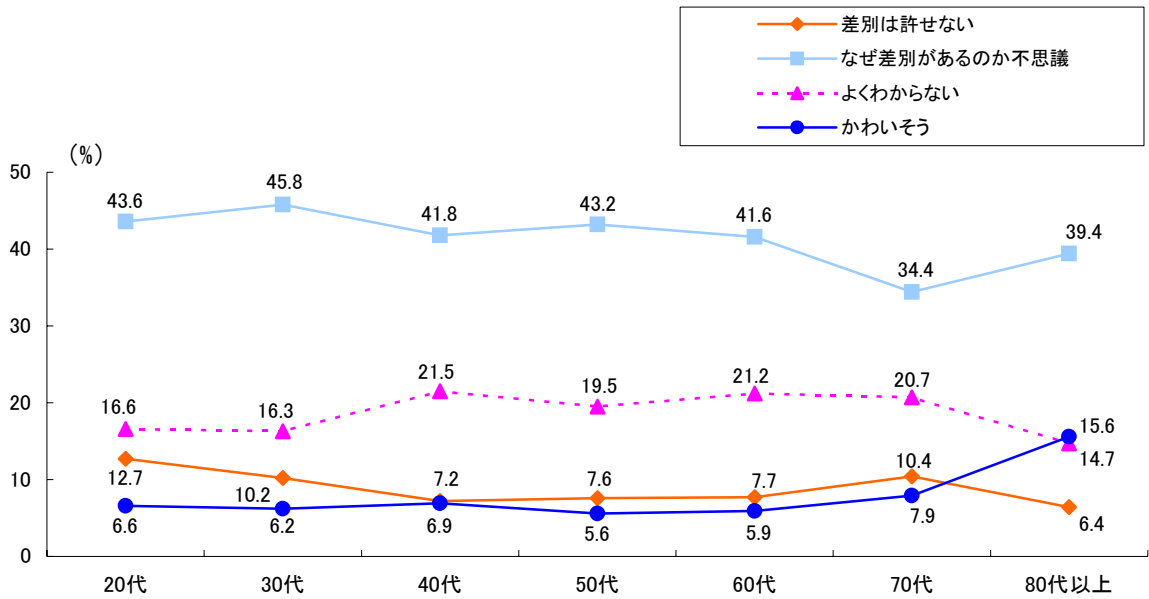
「なぜ差別が存在するのか不思議に思った」と答えた人の割合は、増えている

- ◆ 「なぜ差別が存在するのか不思議」と感じている人は41.6%。前回と比較して5ポイント上昇している。

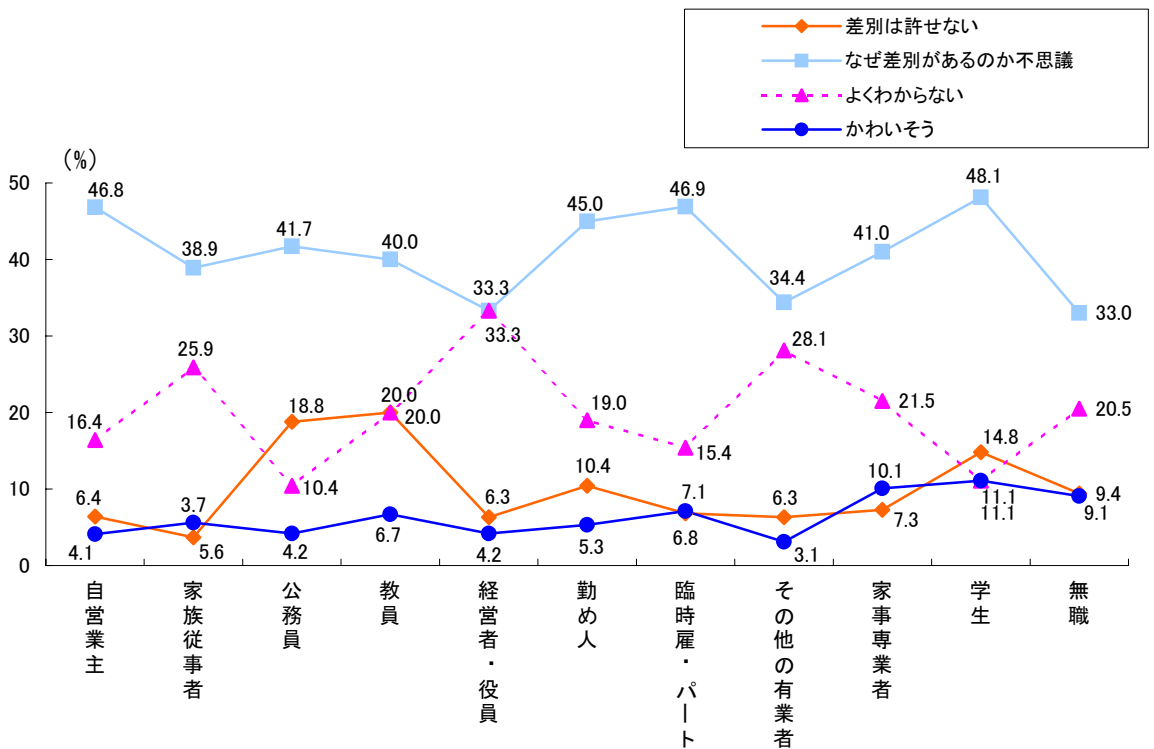


いずれの年代も、「なぜ差別が存在するのか不思議に思った」が最も高い

< 年代別「同和問題を知ったときの印象」の状況 >



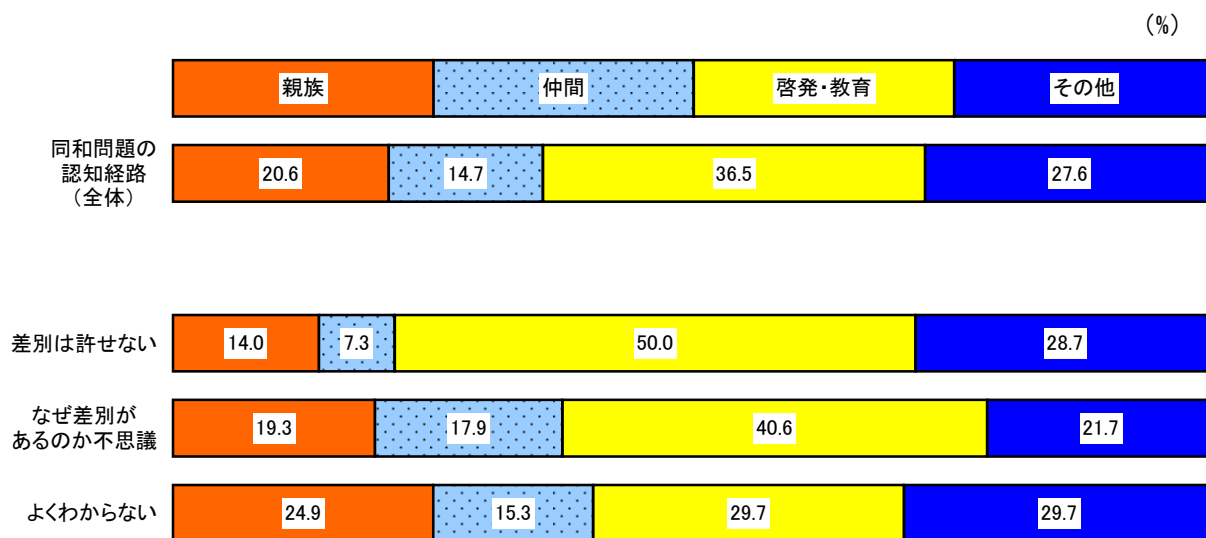
< 職業別「同和問題を知ったときの印象」の状況 >



■クロス集計

「差別は許せない」と答えた人は「啓発・教育」で知ったと答えた人の割合が50.0%

<同和問題の認知経路との関連(質問3)>



6 同和問題に対する認識状況

【質問6】

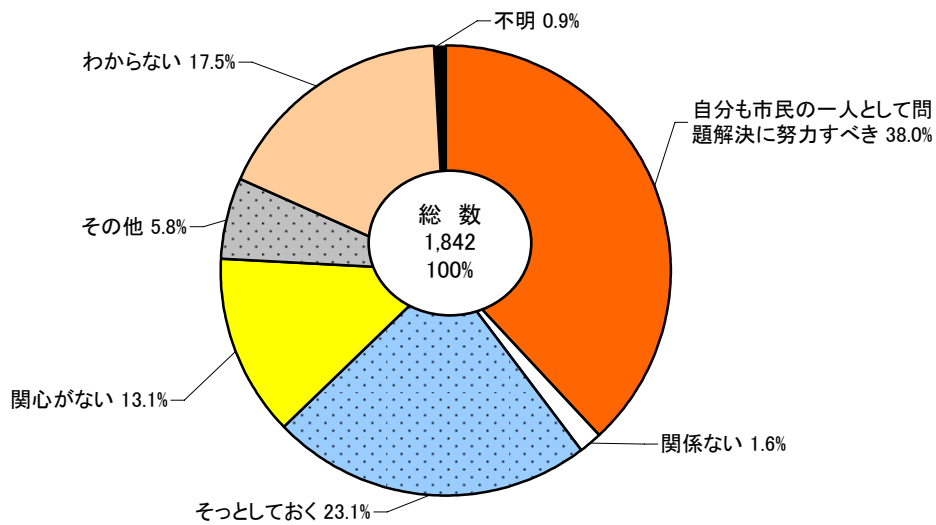
同和問題について、現在あなたはどうお考えですか。（SA）

1. 人間の自由や平等にかかわる問題なので、自分も市民の一人としてこの問題の解決に努力すべきだと思う
2. 同和地区の人々の問題であるから、自分には関係ないと思う
3. あまり騒がずにそっとしておくのがよいと思う
4. 特に関心がない
5. その他
6. わからない

■単純集計

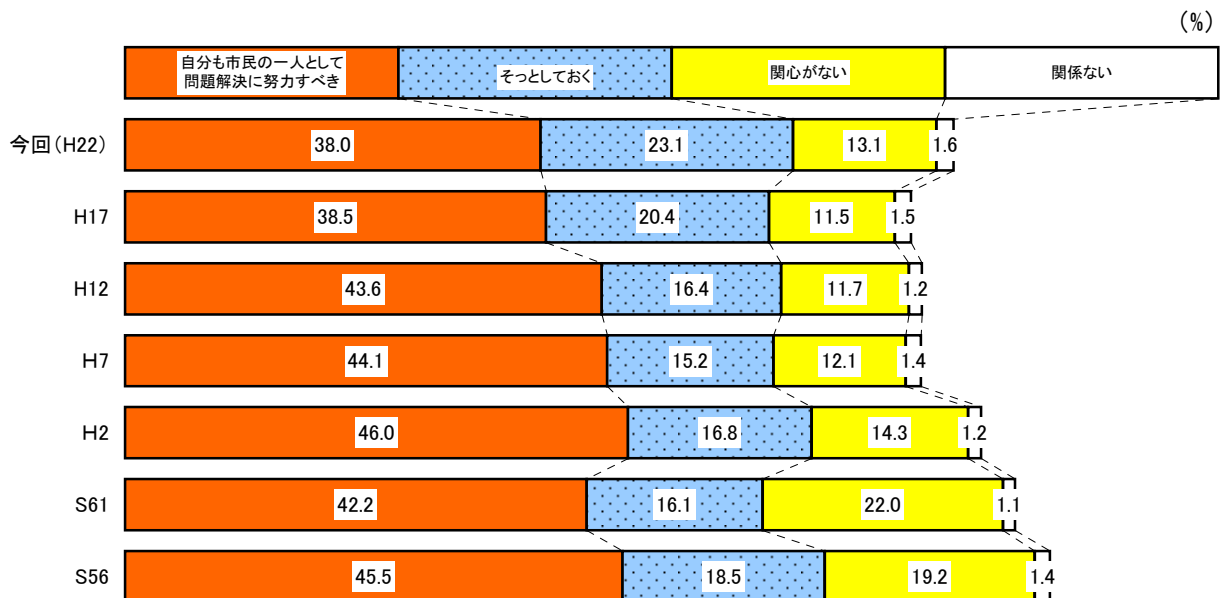
「自分も市民の一人として問題解決に努力すべき」と答えた人の割合は38.0%

- ◆ 「自分も市民の一人として問題解決に努力すべき」と答えた人の割合は38.0%と最も高く、次いで「そっとしておく」が23.1%となっている。一方で、「関係ない」や「関心がない」といった無関心は合わせて14.7%であった。



■時系列比較

「そっとしておく」と答えた人の割合は増えている

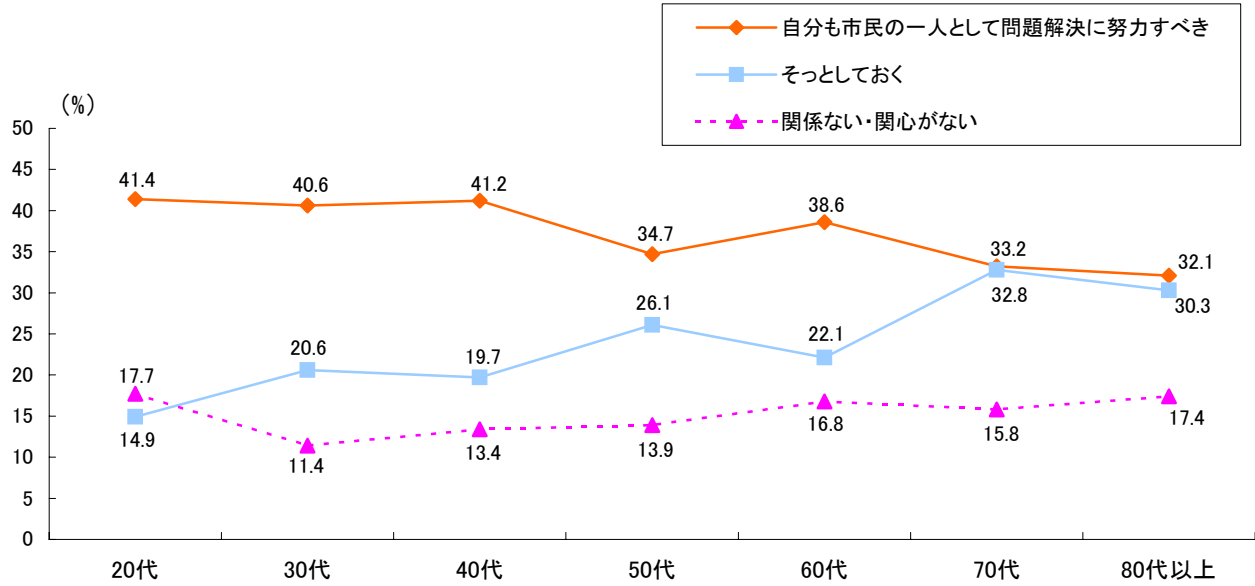


※注 H12までは1の回答項目は「人間の自由や平等に関わる問題なので、国民(市民)全体で考えるべきである」というものであった。

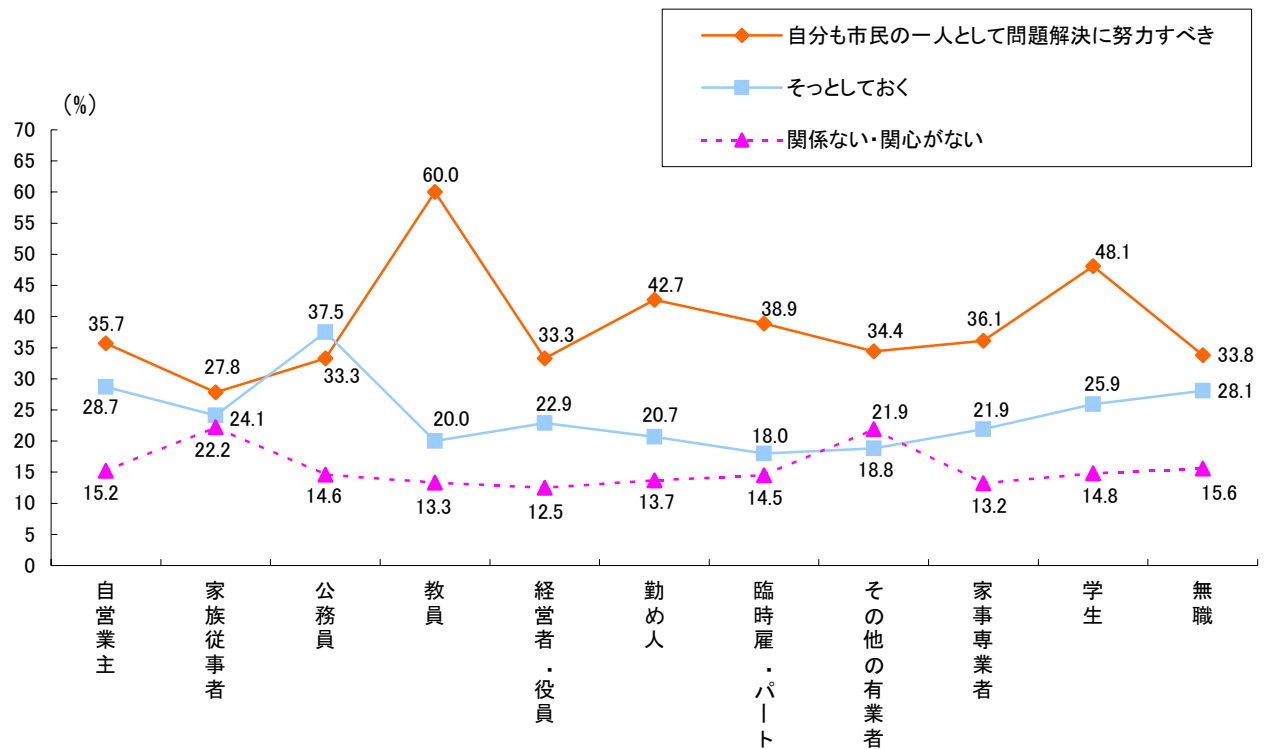
■要因別集計

いずれの年代も、「自分も市民の一人として問題解決に努力すべき」と答えた人の割合が高い

< 年代別「同和問題」の認識状況 >



< 職業別「同和問題」の認識状況 >

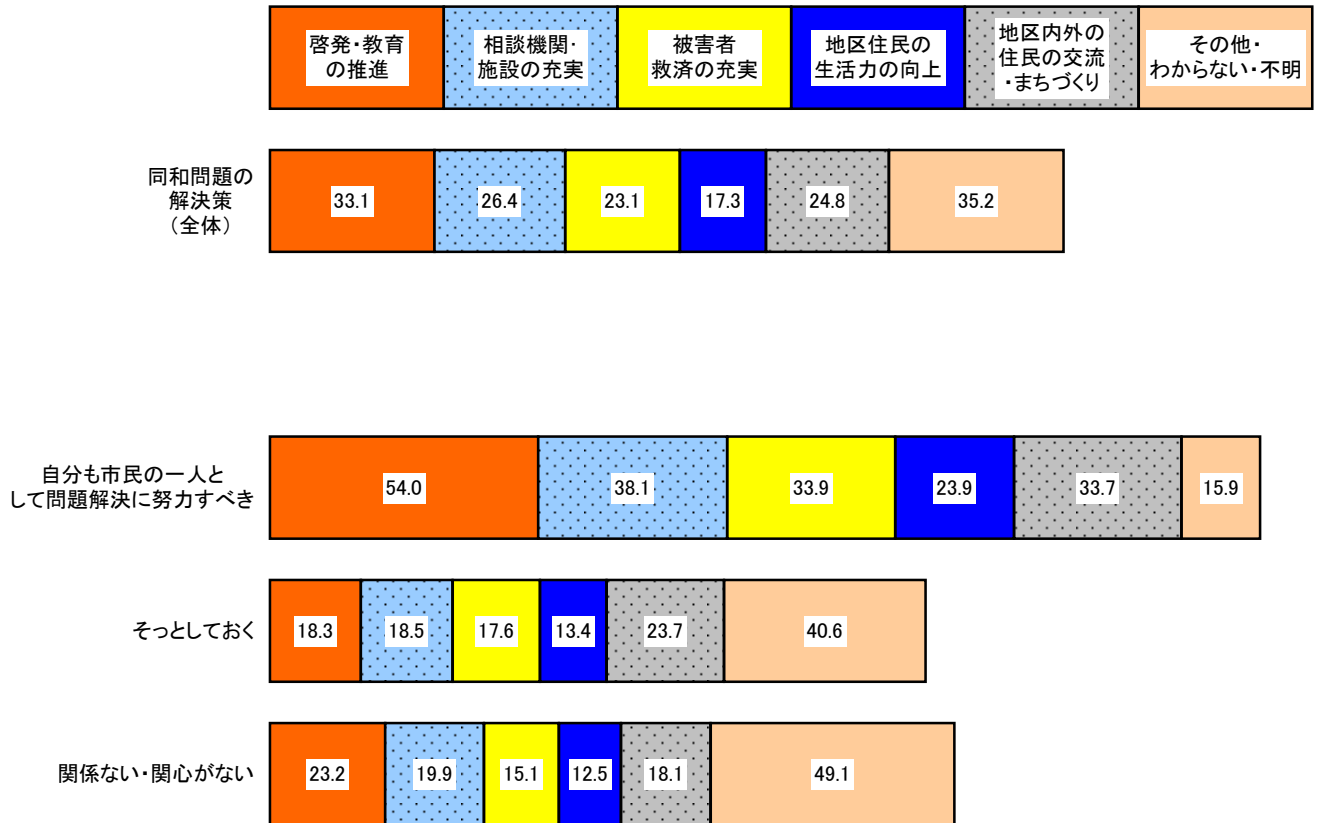


■クロス集計

「自分も市民の一人として問題解決に努力すべき」と答えた人は、同和問題の解決策として「啓発・教育」と答えた割合が高く、「そっとしておく」と答えた人の割合は低い。

<同和問題の解決策(質問17)との関連>

(%)



7 交際における差別意識

【質問7】

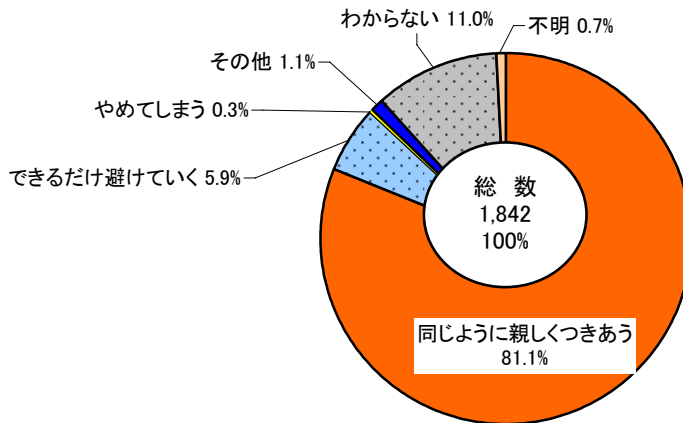
かりに、日ごろ親しくつきあっている職場の人や近所の人、同和地区出身の人であることがわかった場合、あなたはどのようにされますか。(SA)

1. これまでと同じように親しくつきあう
2. 表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく
3. つきあいはやめてしまう
4. その他
5. わからない

■単純集計

「同じように親しくつきあう」と答えた人は81.1%

- ◆ 「同じように親しくつきあう」と答えた人の割合は81.1%となっている。一方、「できるだけ避けていく」、「やめてしまう」と答えた人の割合は合わせて6.2%となっている。



■時系列比較

「同じように親しくつきあう」と答えた人の割合は増えている

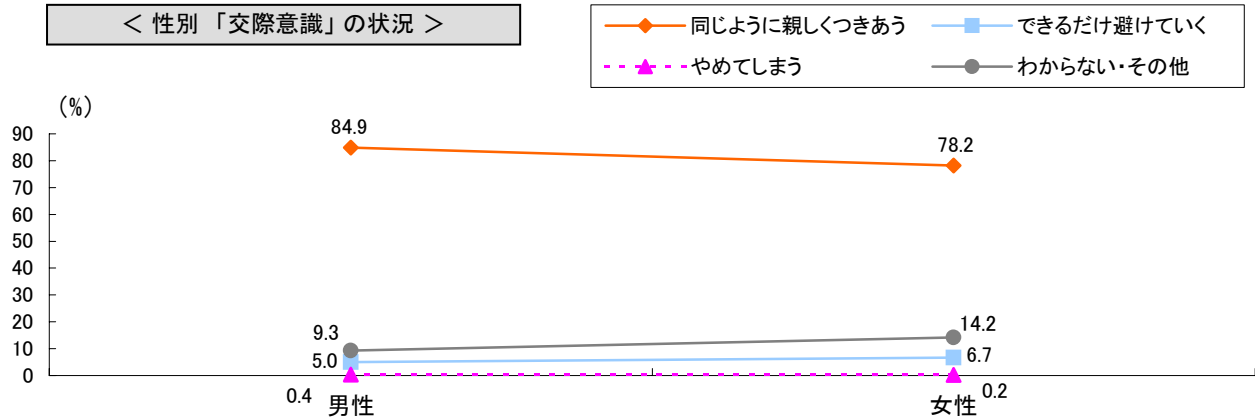
- ◆ 「同じように親しくつきあう」と答えた人の割合は、前回と比べ11%増えている。「できるだけ避けていく」「やめてしまう」は大きな差は見られない。



■要因別集計

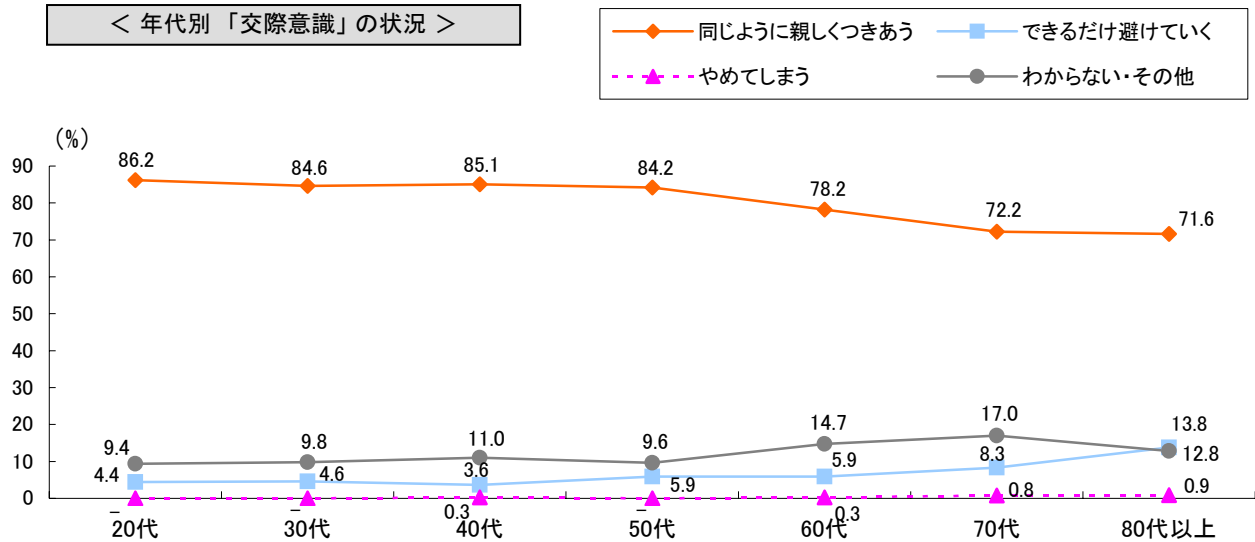
「同じように親しくつきあう」と答えた人の割合は男性の方が高い

< 性別 「交際意識」の状況 >



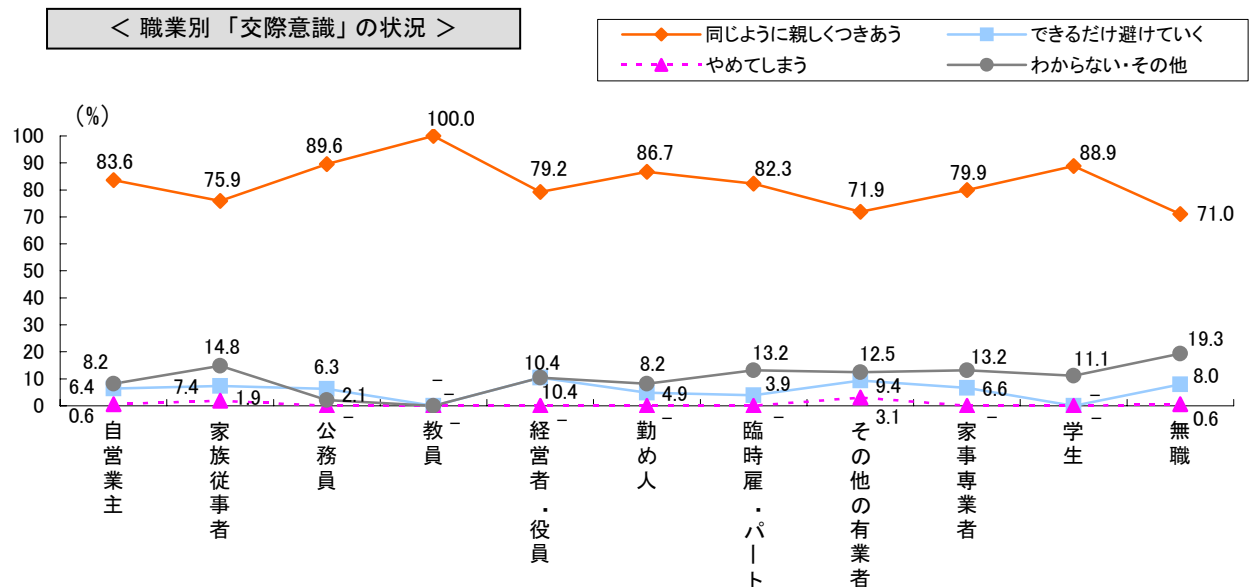
いずれの年代も、「同じように親しくつきあう」と答えた人の割合が高い

< 年代別 「交際意識」の状況 >



いずれの職業も、「同じように親しくつきあう」と答えた人の割合が高い

< 職業別 「交際意識」の状況 >



8 結婚における差別意識1(親類や親しい人の結婚)

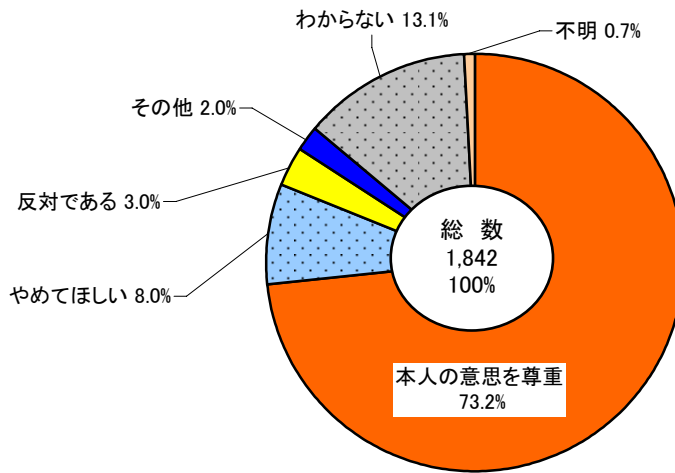
【質問8】

かりに、あなたの親類や親しい人の結婚しようとしている相手が、同和地区出身の人であることがわかったとき、あなたはどのようにされますか。(SA)

1. 本人の意思を尊重する
2. 自分がかまわないが、世間へのてまえがあるから、できれば結婚してほしくない
3. 結婚することには反対する
4. その他
5. わからない

■単純集計

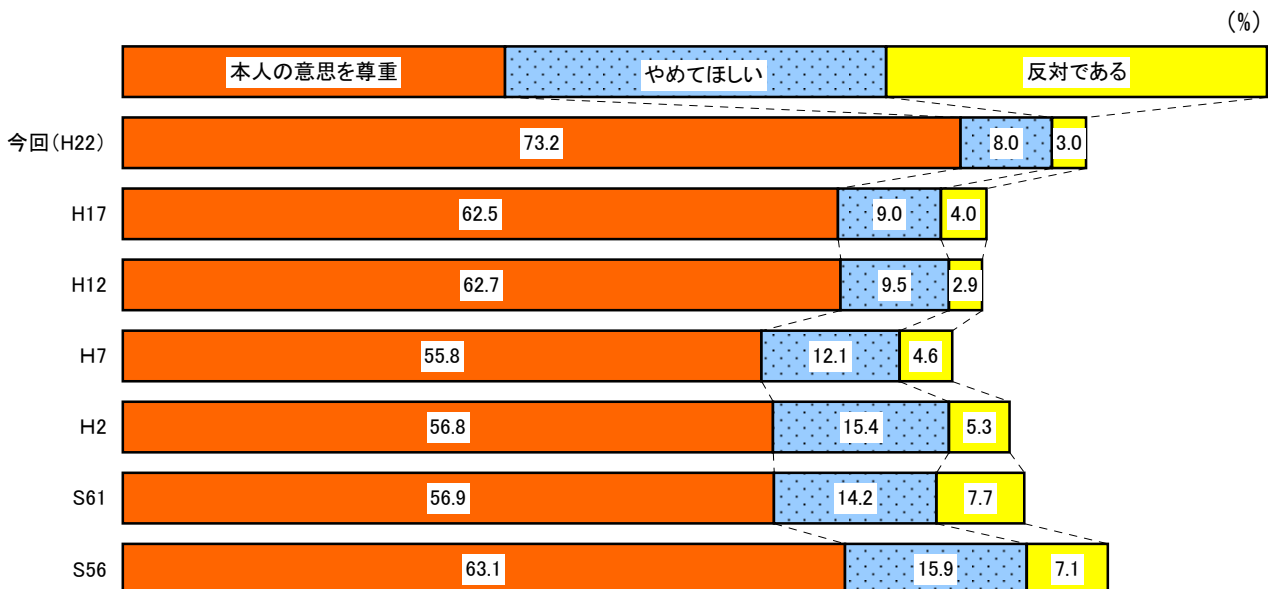
「本人の意思を尊重する」と答えた人の割合は73.2%



■時系列比較

「本人の意思を尊重する」と答えた人の割合は増えている

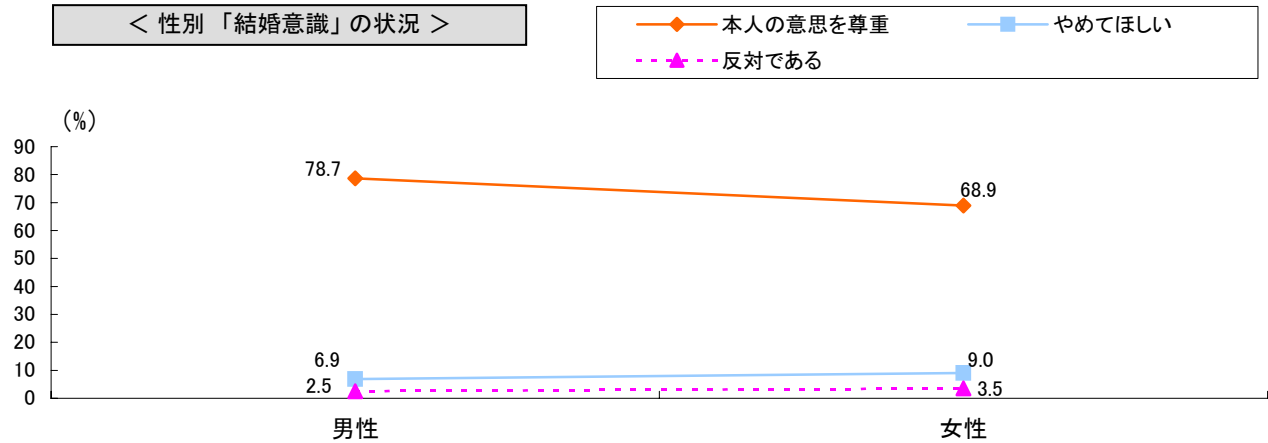
- ◆ 「本人の意思を尊重」は73.2%と、前回調査(H17)から10ポイント以上、増加している。S56年からの推移をみると「やめてほしい」「反対である」と答えた人の割合は減少している。



■要因別集計

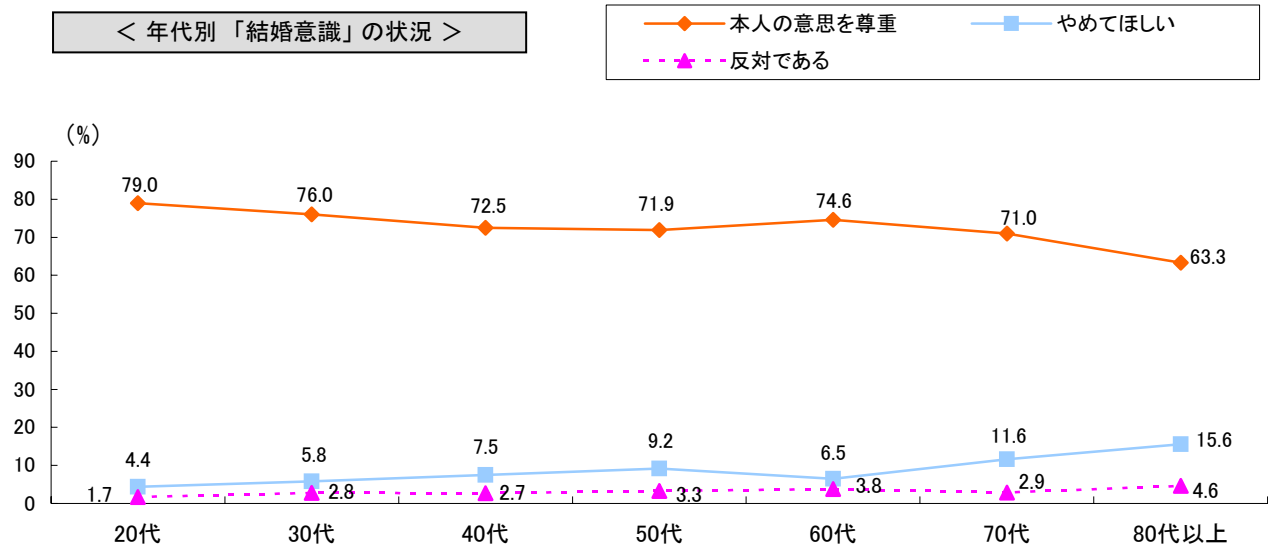
「本人の意思を尊重する」と答えた人の割合は男性の方が高い

< 性別 「結婚意識」の状況 >



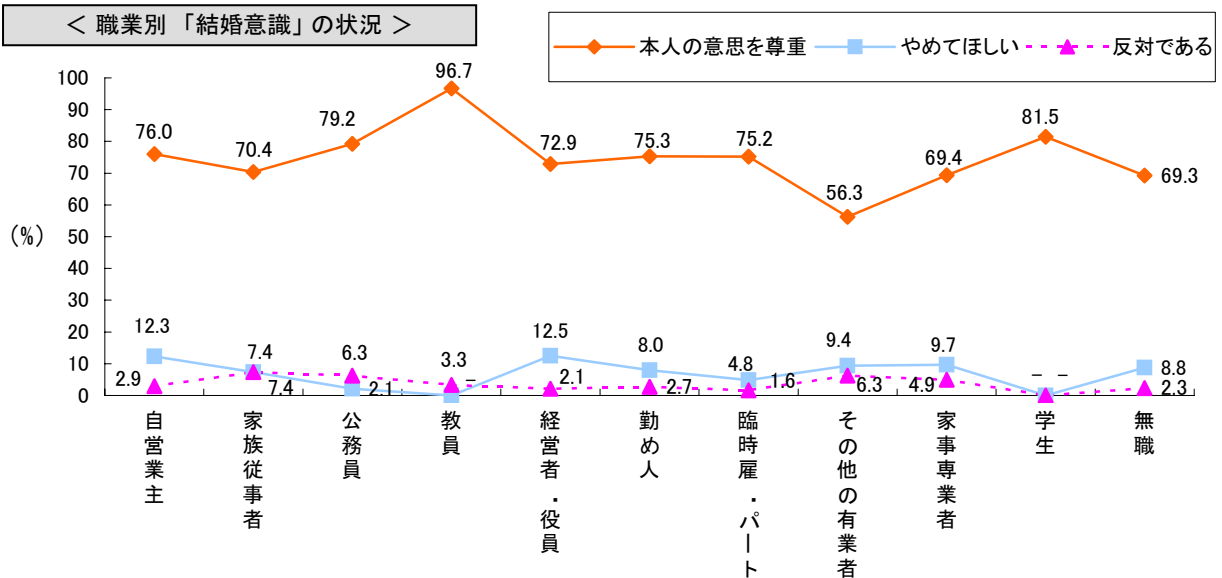
いずれの年代も、「本人の意思を尊重する」と答えた人の割合が高い

< 年代別 「結婚意識」の状況 >



いずれの職業も、「本人の意思を尊重する」と答えた人の割合が高い

< 職業別 「結婚意識」の状況 >



9 結婚における差別意識2(子どもの結婚)

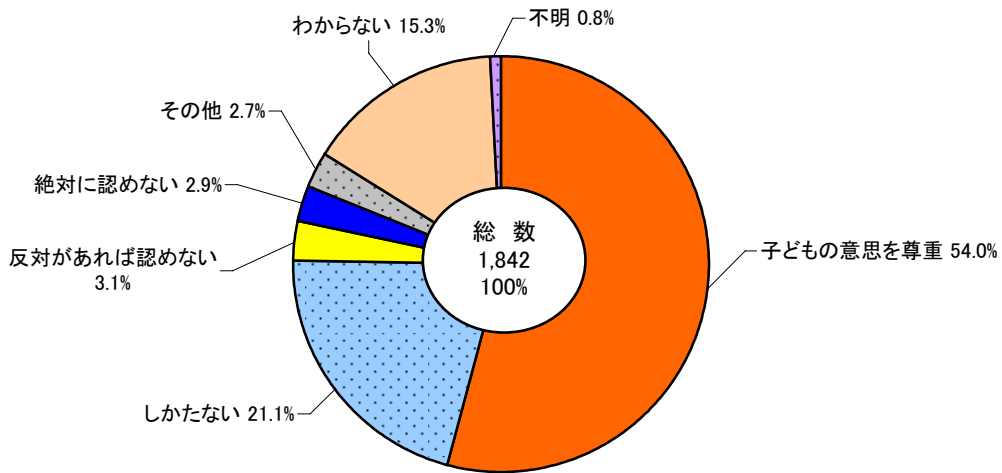
【質問9】

かりに、あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区出身の人であることがわかったとき、あなたはどのようにされますか。(SA)

1. 子どもの意思を尊重する
2. 親として反対するが、子どもの意思が強ければしかたない
3. 家族や親類の反対があれば、結婚を認めない
4. 絶対に結婚を認めない
5. その他
6. わからない

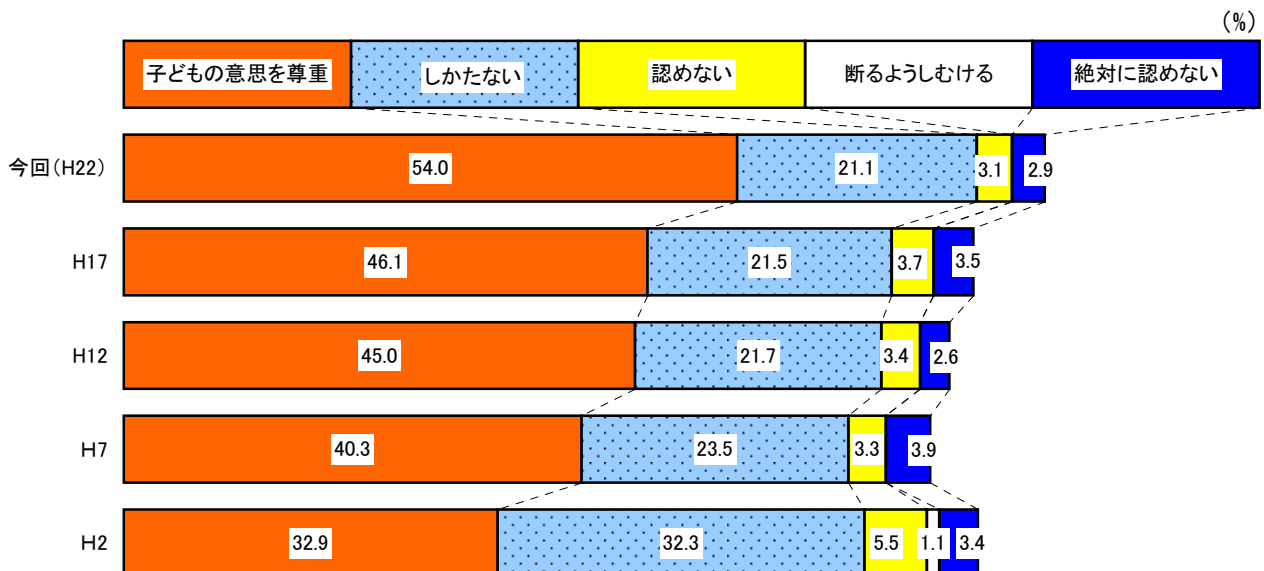
■単純集計

「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合は54.0%



■時系列比較

「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合は増えている

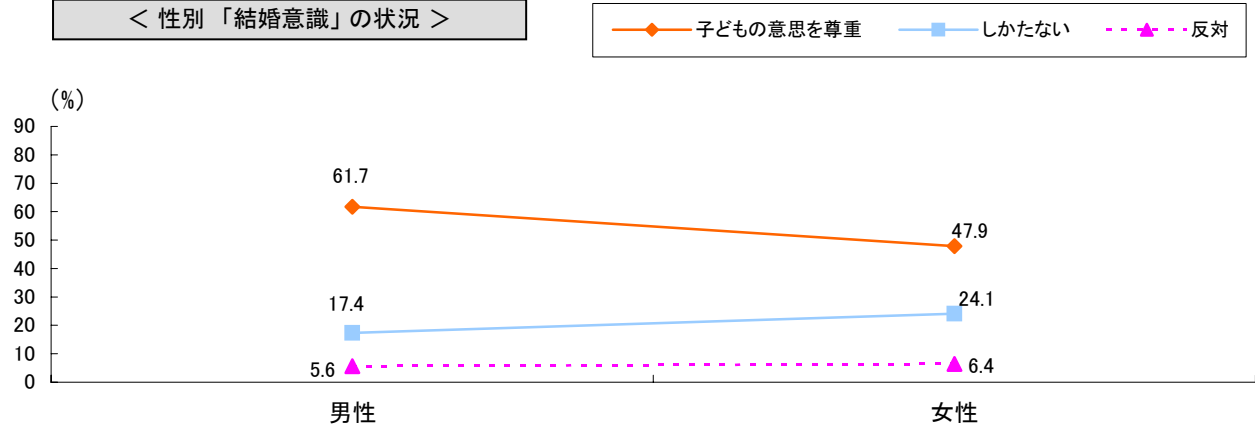


※注 H2は『断るようしむける』という項目も調査した。

■要因別集計

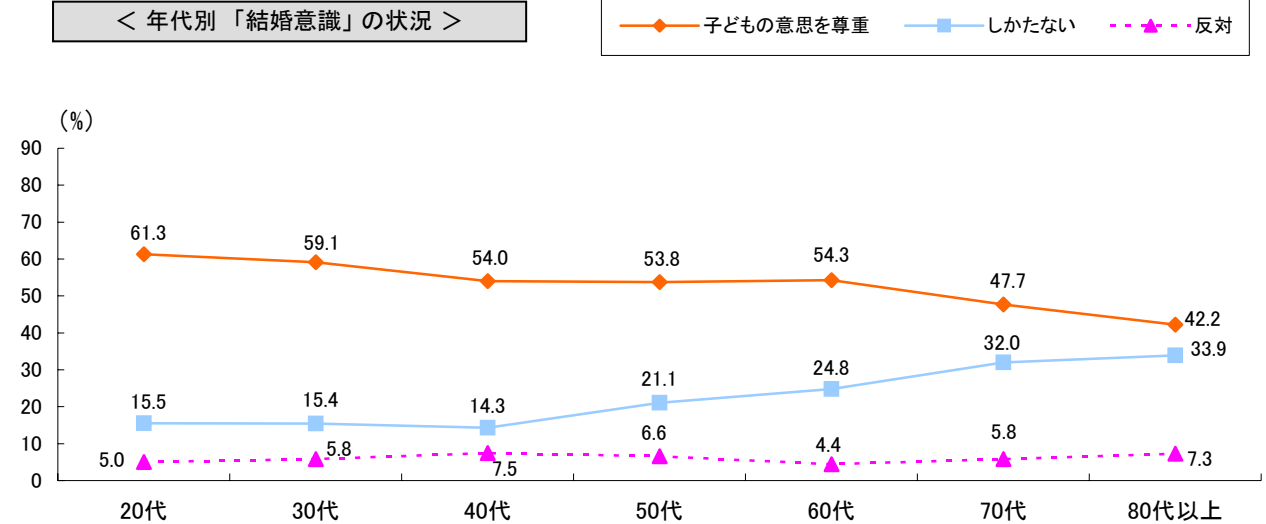
「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合は男性の方が高い

＜性別「結婚意識」の状況＞



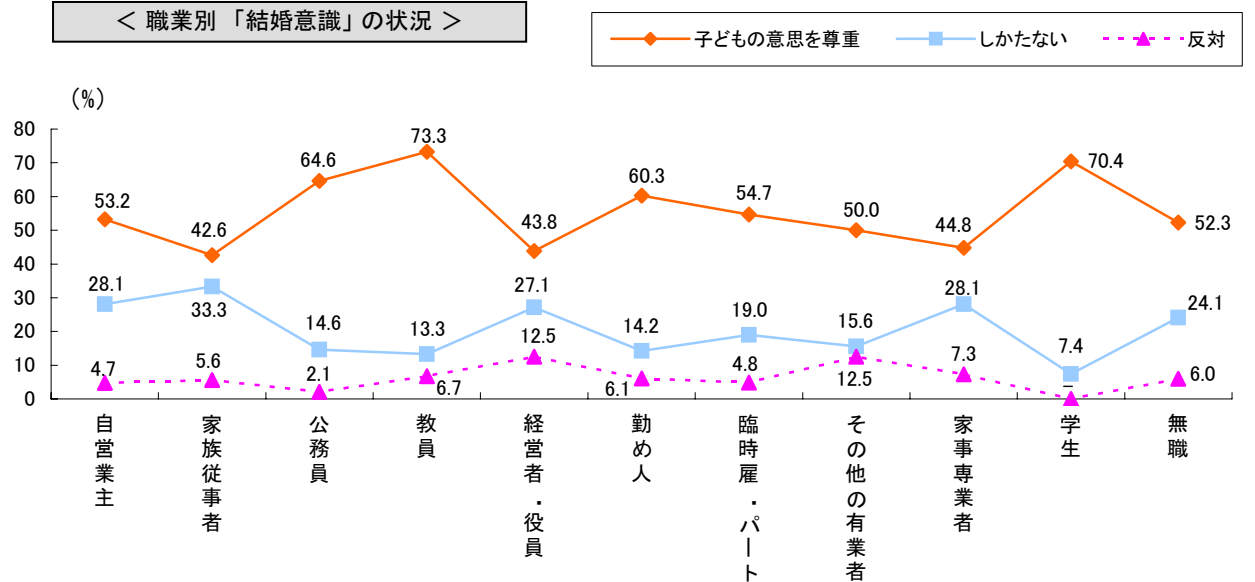
いずれの年代も、「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合が高い

＜年代別「結婚意識」の状況＞



いずれの職業も、「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合が高い

＜職業別「結婚意識」の状況＞



10 結婚における差別意識3(本人の結婚)

【質問10】

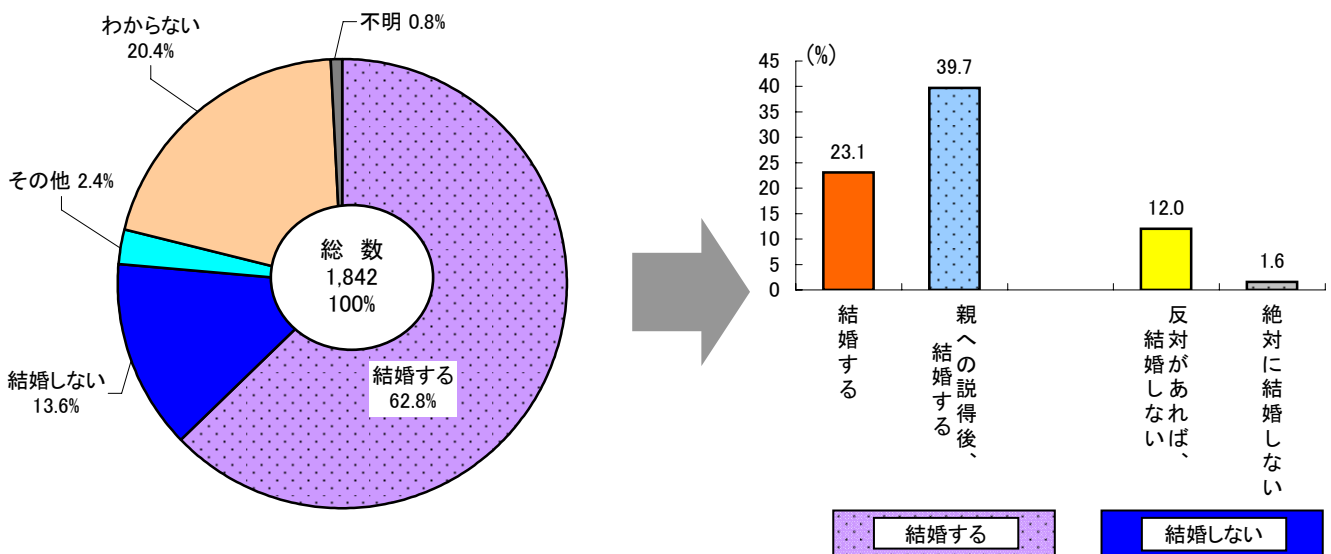
かりに、あなたが同和地区出身の人と恋愛をし、結婚しようとしたとき、親や親類の人から強い反対を受けたら、あなたはどのようにされますか。(SA)

1. 自分の意思を貫いて結婚する
2. 親の説得に全力を傾けた後に、自分の意思を貫いて結婚する
3. 家族や親類の反対があれば、結婚しない
4. 絶対に結婚しない
5. その他
6. わからない

■単純集計

「自分の意思を貫いて結婚する」と答えた人の割合は62.8%

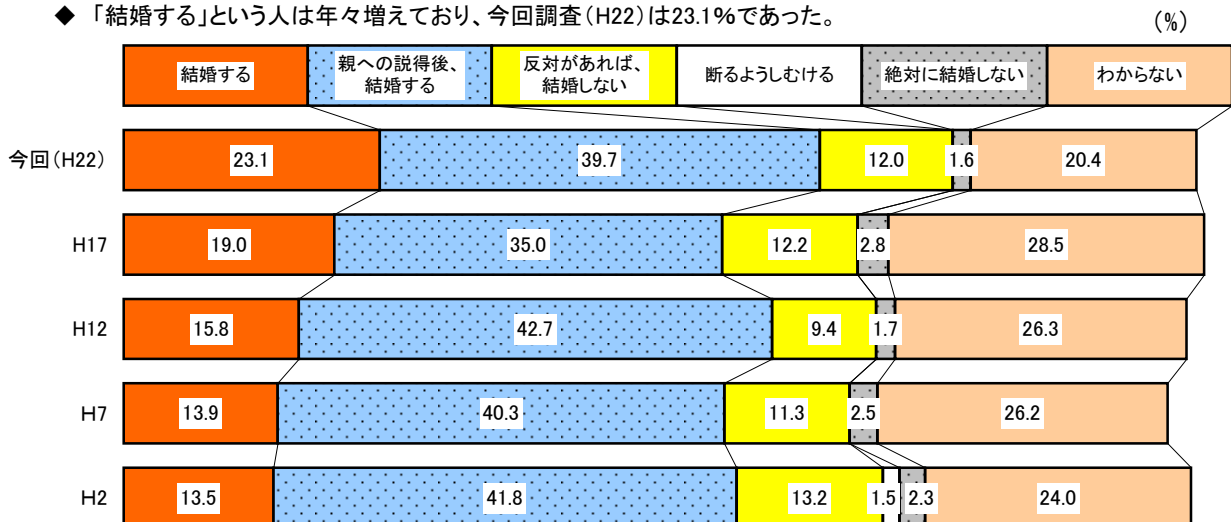
- ◆ 「自分の意思を貫いて結婚する」(23.1%)、「親への説得後、結婚する」(39.7%)と合わせて62.8%の人が「結婚する」と答えている。



■時系列比較

「結婚する」と答えた人の割合は増えている

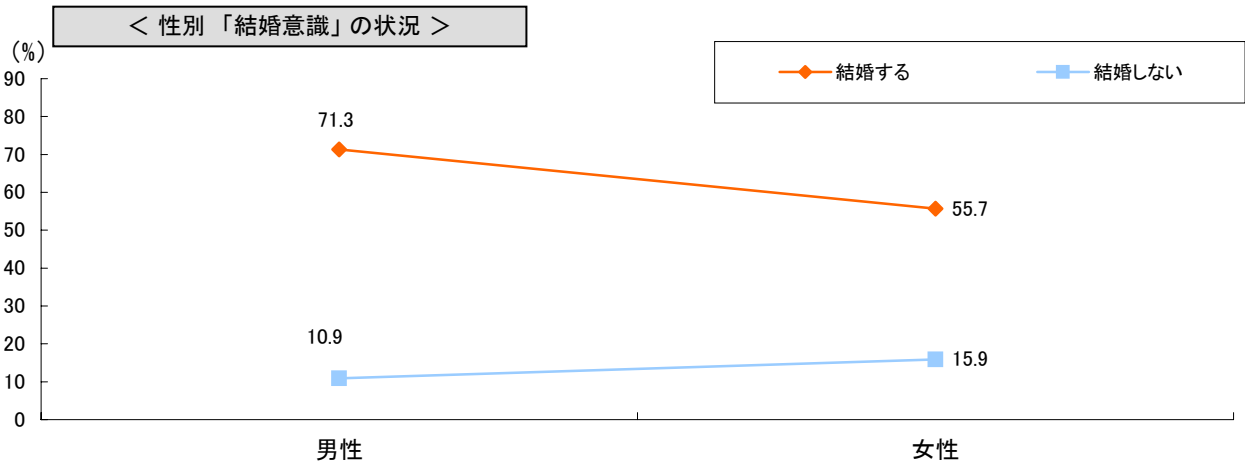
- ◆ 「結婚する」という人は年々増えており、今回調査(H22)は23.1%であった。



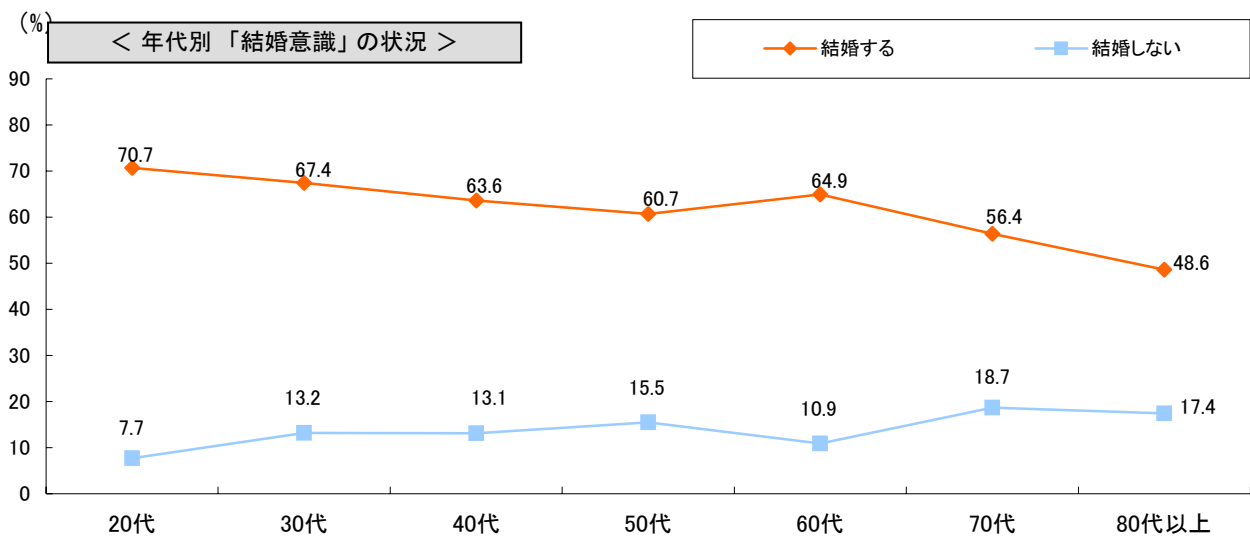
※注1 H2は「断るようしむける」という項目も調査した。
 ※注2 前回までは「わからない」に「知らない」を含む。

■要因別集計

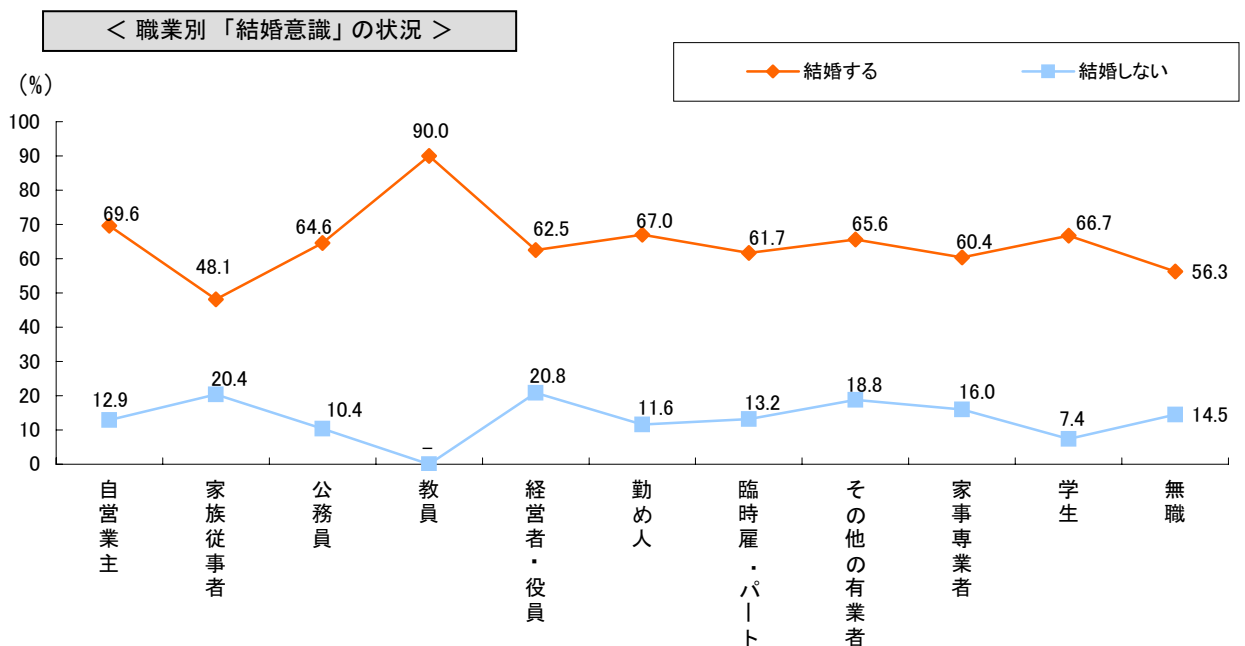
「自分の意志を貫いて結婚する」と答えた人の割合は男性の方が高い



いずれの年代も、「自分の意思を貫いて結婚する」と答えた人の割合が高い



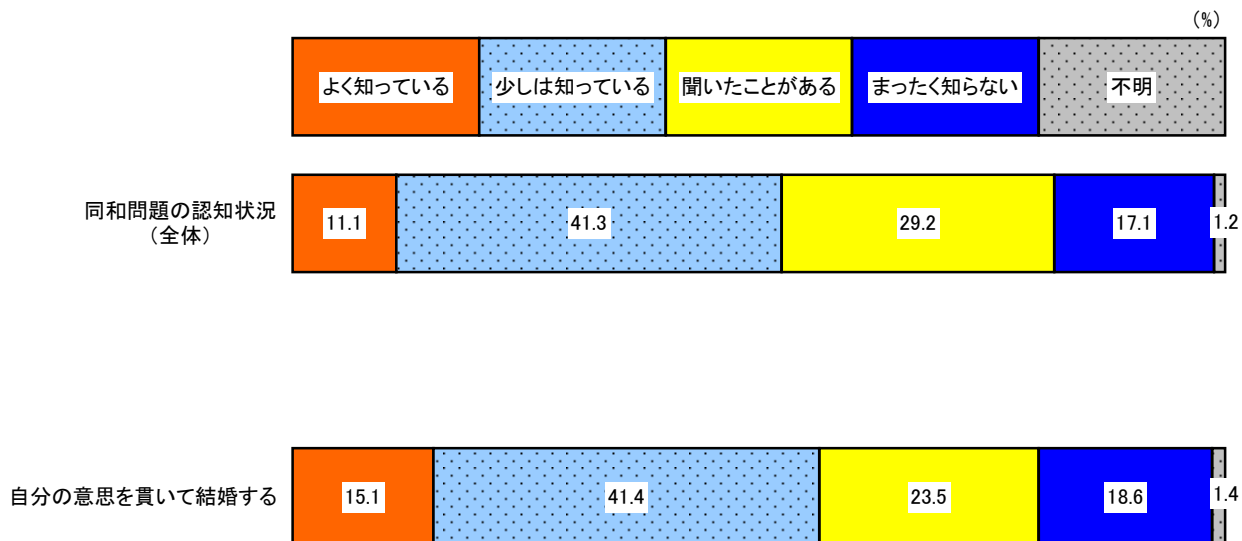
いずれの職業も、「自分の意思を貫いて結婚する」と答えた人の割合が高い



■クロス集計

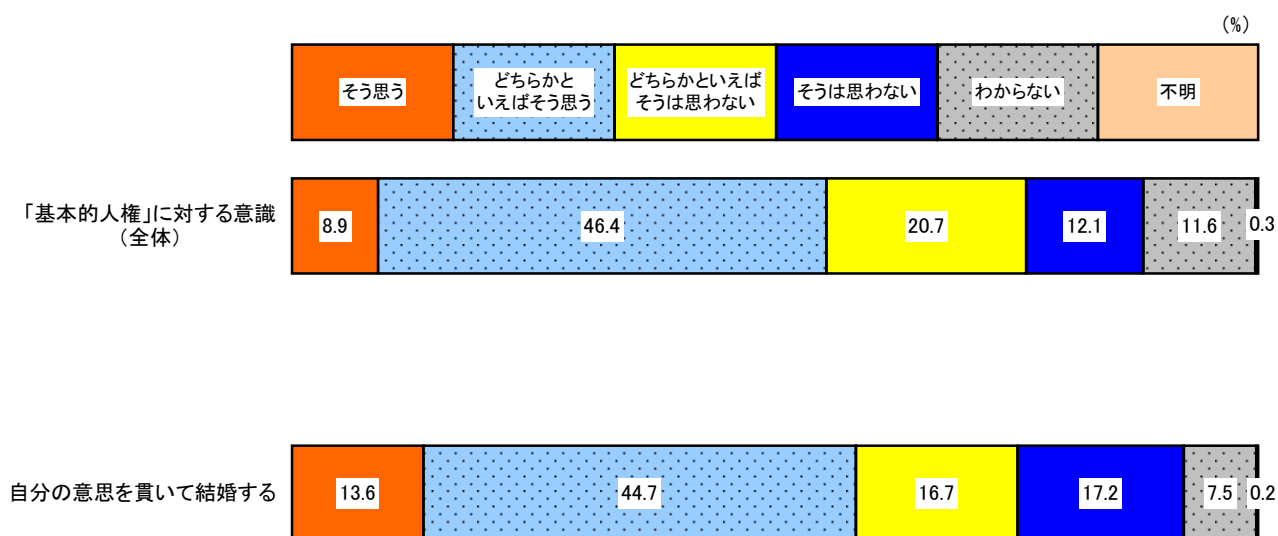
「自分の意思を貫いて結婚する」と答えた人は「よく知っている」と答えた人の割合が高い

<同和問題の認知状況(質問2)との関連>



「自分の意思を貫いて結婚する」と答えた人は、「基本的人権が尊重されている」と答えた人の割合が高い

<「基本的人権」に対する意識(質問18)との関連>



11 起きていると思う人権問題

【質問11】

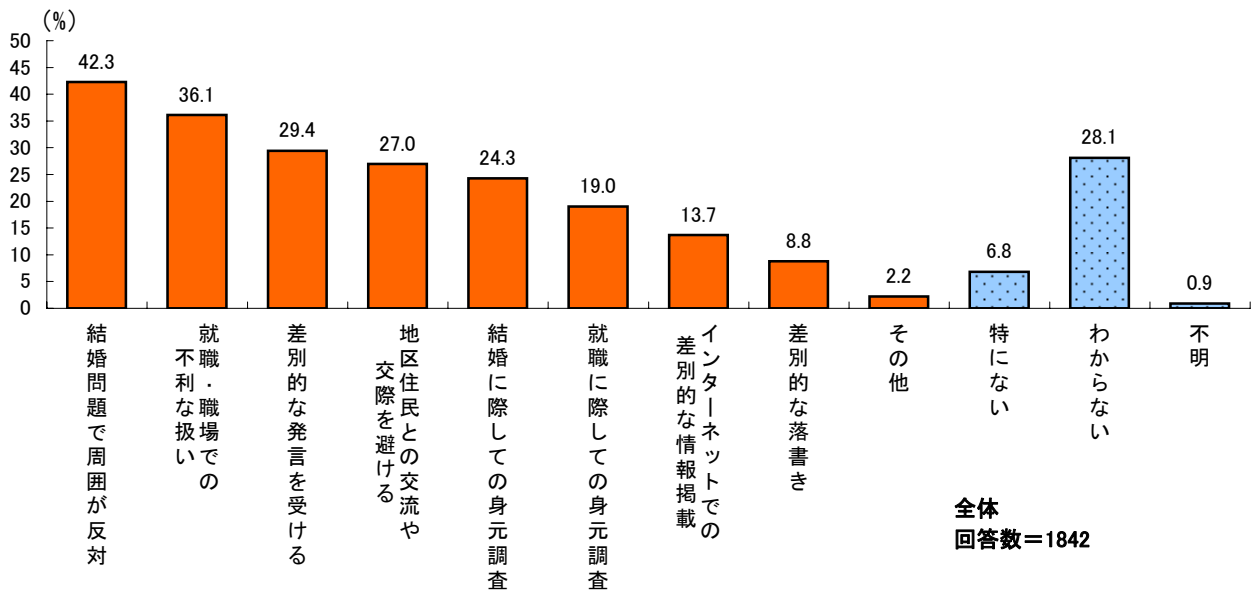
あなたが同和問題に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(MA)

1. 結婚問題で周囲が反対すること
2. 就職・職場で不利な扱いを受けること
3. 差別的な発言を受けること
4. 差別的な落書き
5. 結婚に際して身元調査(聞き合わせ)が行われること
6. 就職に際して身元調査(聞き合わせ)が行われること
7. 同和地区やそこで生活する住民との交流や交際を避けたりすること
8. インターネットを利用して差別的な情報が掲載されること
9. その他
10. 特にない
11. わからない

■単純集計

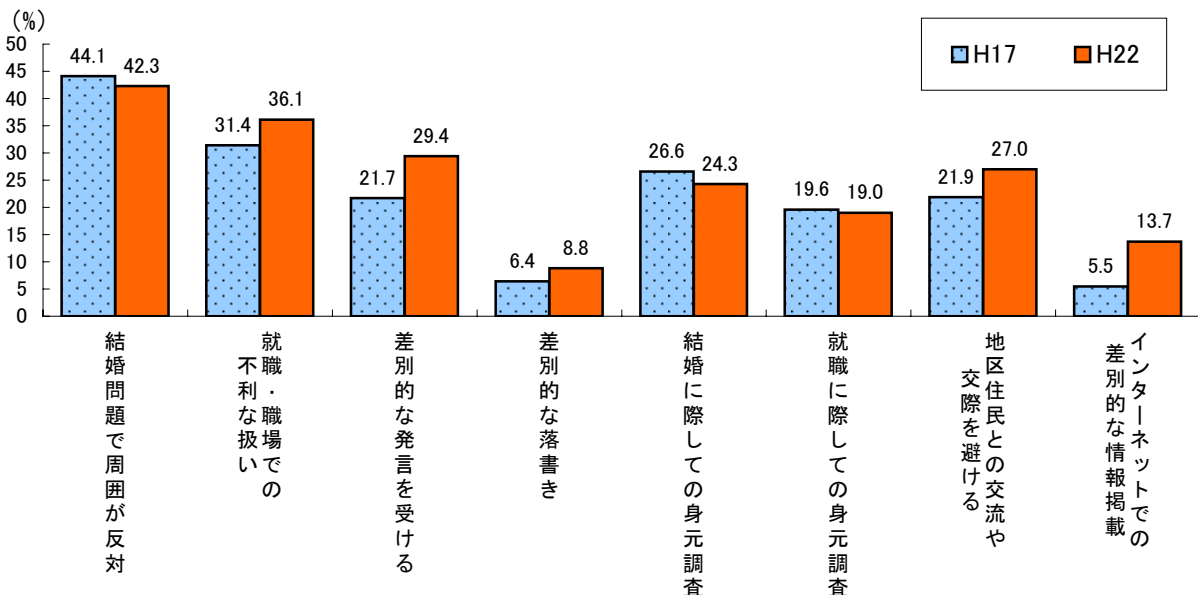
現在、起きていると思う人権問題として、「結婚問題での周囲の反対」と答えた人の割合が高い

◆「結婚問題で周囲が反対すること」と答えた人の割合は42.3%で最も高く、次いで「就職・職場での不利な扱いを受けること」(36.1%)、「差別的な発言を受けること」(29.4%)となっている。



■時系列比較

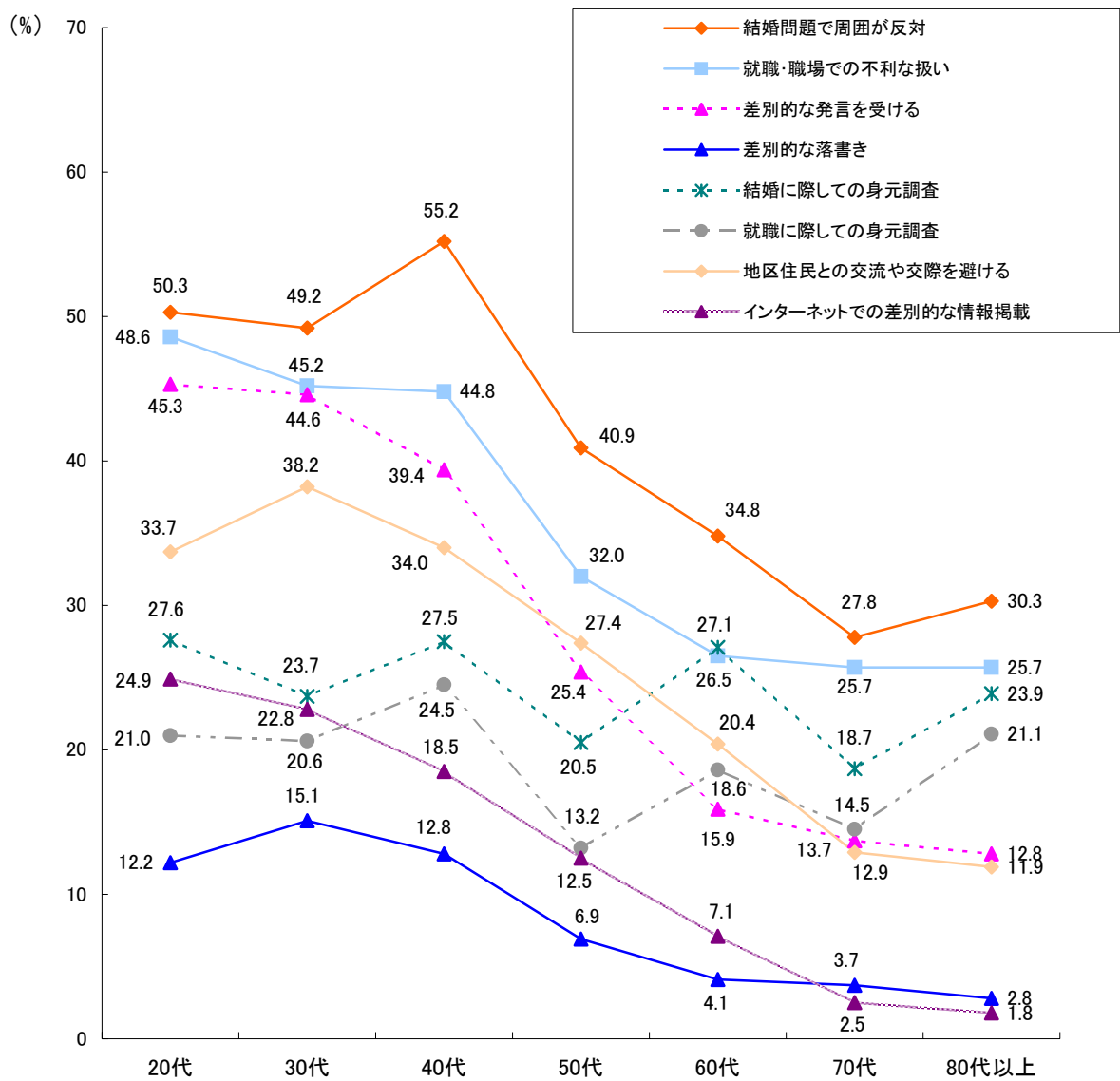
◆「インターネットでの差別的な情報掲載」「差別的な発言を受けること」「地区住民との交流や交際を避けたりすること」「就職・職場での不利な扱いを受けること」「差別的な落書き」が増えている。



■ 要因別集計

◆ すべての年代で、「結婚問題で周囲が反対すること」と答えている傾向がある。

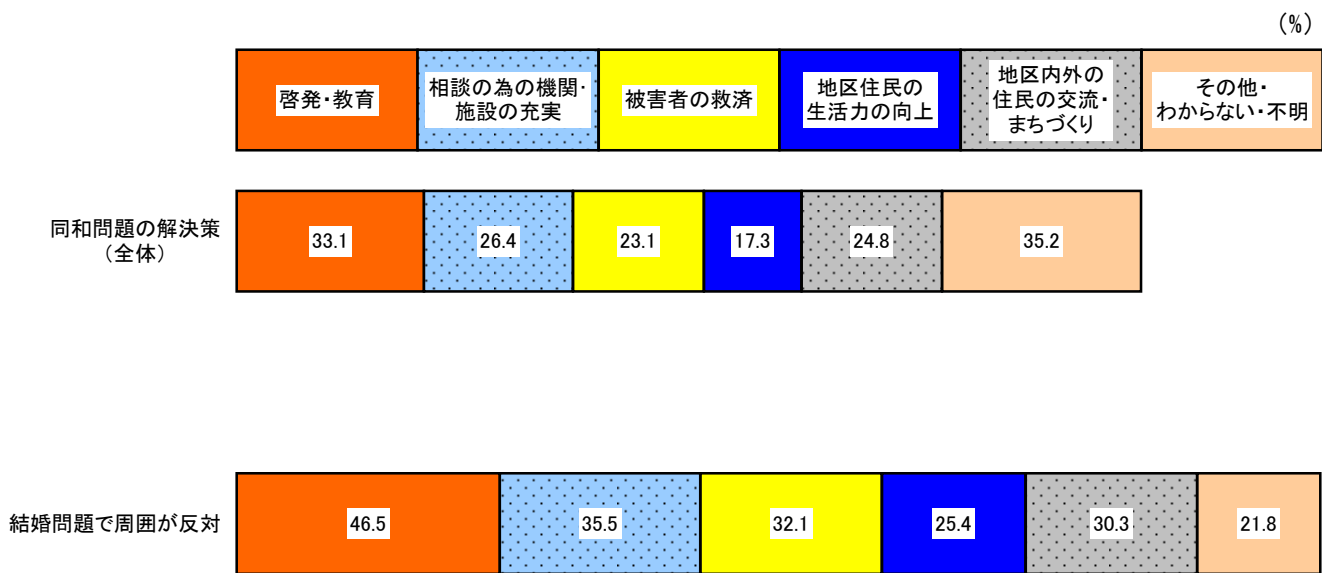
< 年代別の状況 >



■クロス集計

「結婚問題で周囲が反対」と答えた人は、同和問題の解決策として「啓発・教育」と答えた割合が高い

<同和問題の解決策(質問17)との関連>



12 啓発活動への参加・関わり状況

【質問12】

あなたは同和問題やそれに関連した講演会や研修会に参加されたり、新聞やテレビ・ラジオ等で同和問題に関連したことを見たり、聞いたり、読んだりしたことが何回ありますか。1～10のそれぞれについてA、B、Cのどれかに○をつけてください。（各SA）

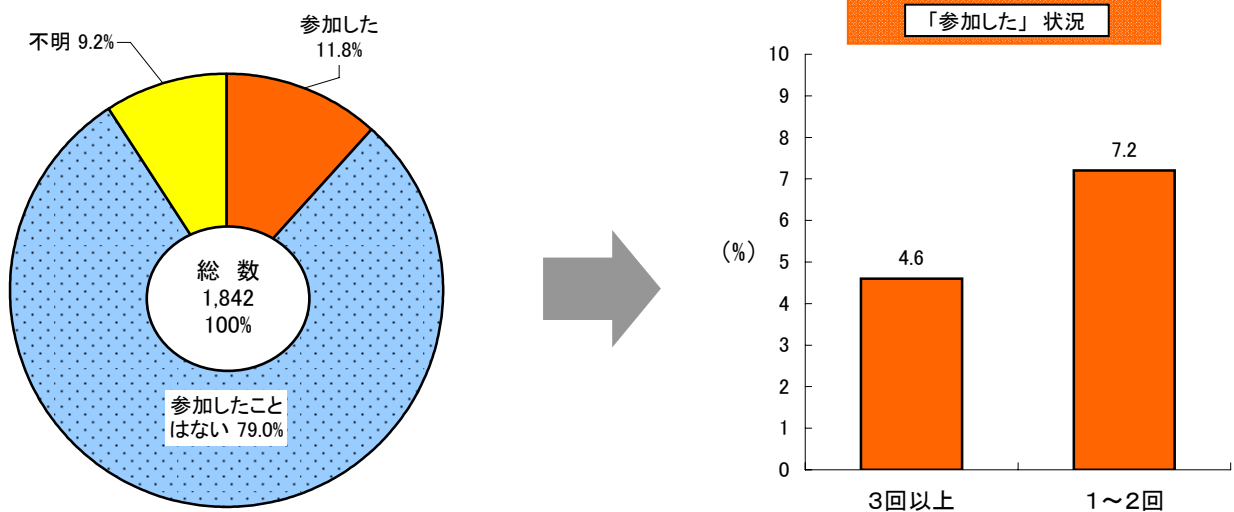
事 項	3回以上	1～2回	ない
1. 講演会・講座・研修会への参加	A	B	C
2. 広報なごや	A	B	C
3. テレビ・ラジオ	A	B	C
4. 映画・ビデオ	A	B	C
5. 冊子・パンフレット	A	B	C
6. 新聞	A	B	C
7. ポスター	A	B	C
8. たれ幕・立看板・電光掲示板	A	B	C
9. 雑誌	A	B	C
10. インターネット	A	B	C

◆ 12-1 講演会・講座・研修会への参加状況

■ 単純集計

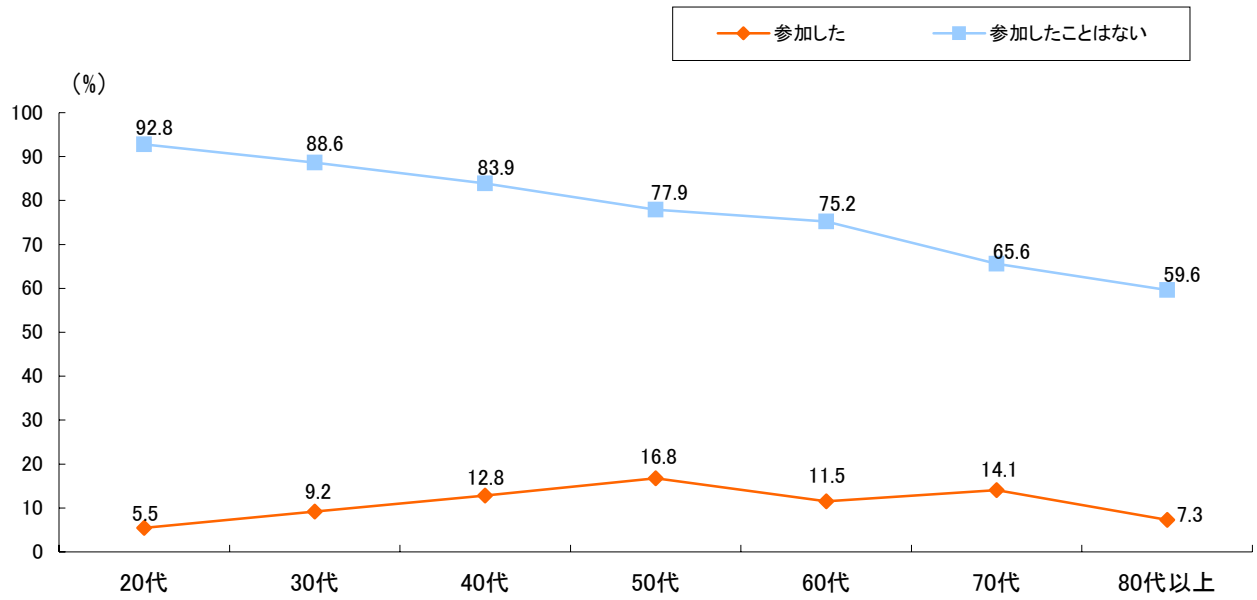
「講演会・講座・研修会」に参加したことのあった人は11.8%

◆ 同和問題についての講演会・講座・研修会に「3回以上」(4.6%)、「1～2回」(7.2%)と答えた人の割合を合わせた「参加した」は11.8%となっている。



■要因別集計

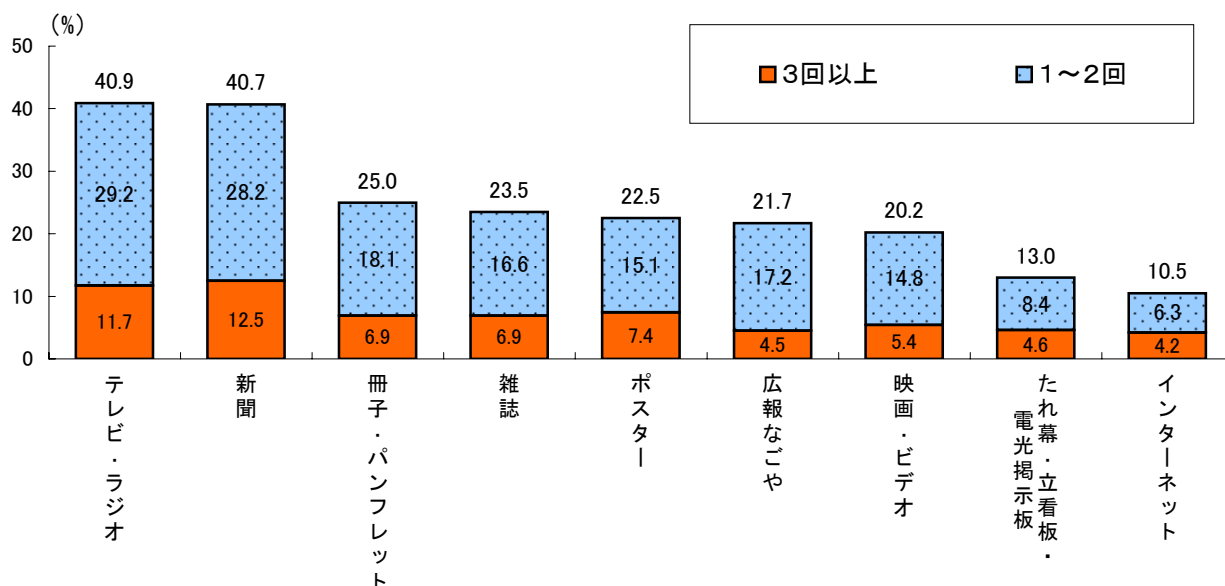
< 年代別「講演会・講座・研修会に参加した」状況 >



■単純集計

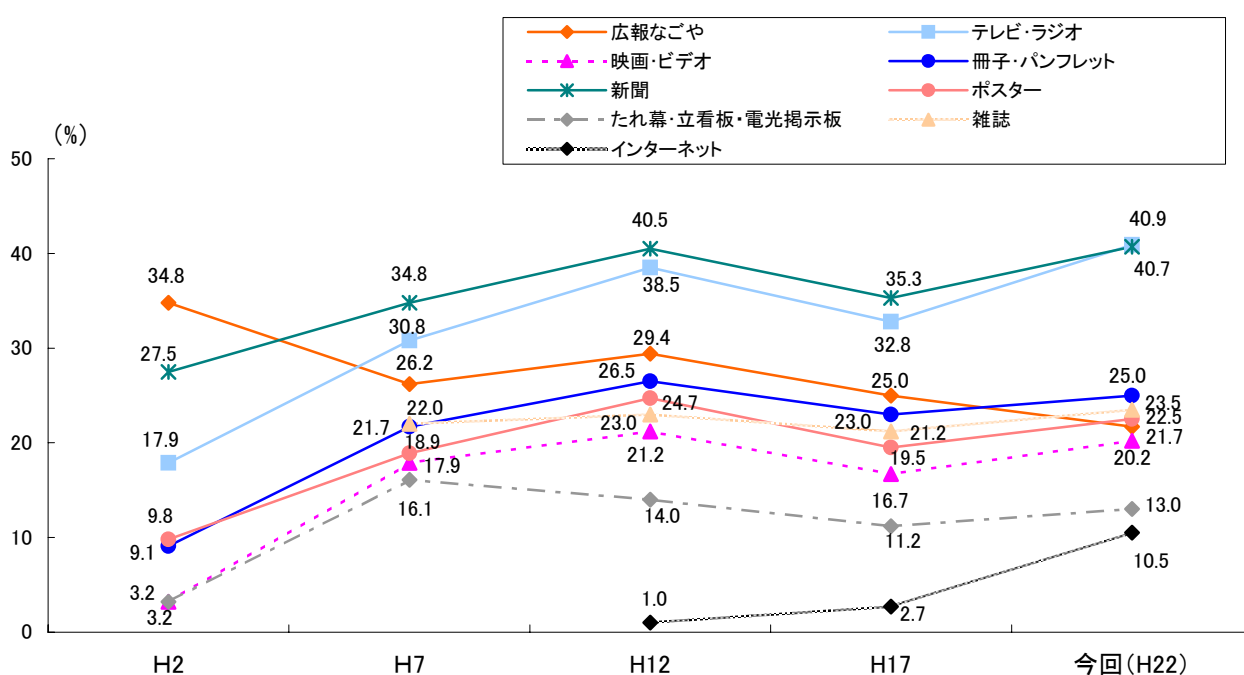
同和問題について接したのは「テレビ・ラジオ」や「新聞」と答えた人の割合が高い

- ◆ 同和問題に関することを見聞きした媒体では「テレビ・ラジオ」と答えた人が最も高く、「3回以上」と「1～2回」を合わせると40.9%である。次いで「新聞」が40.7%である。次の「冊子・パンフレット」(25.0%)との間に差がある。



■時系列比較

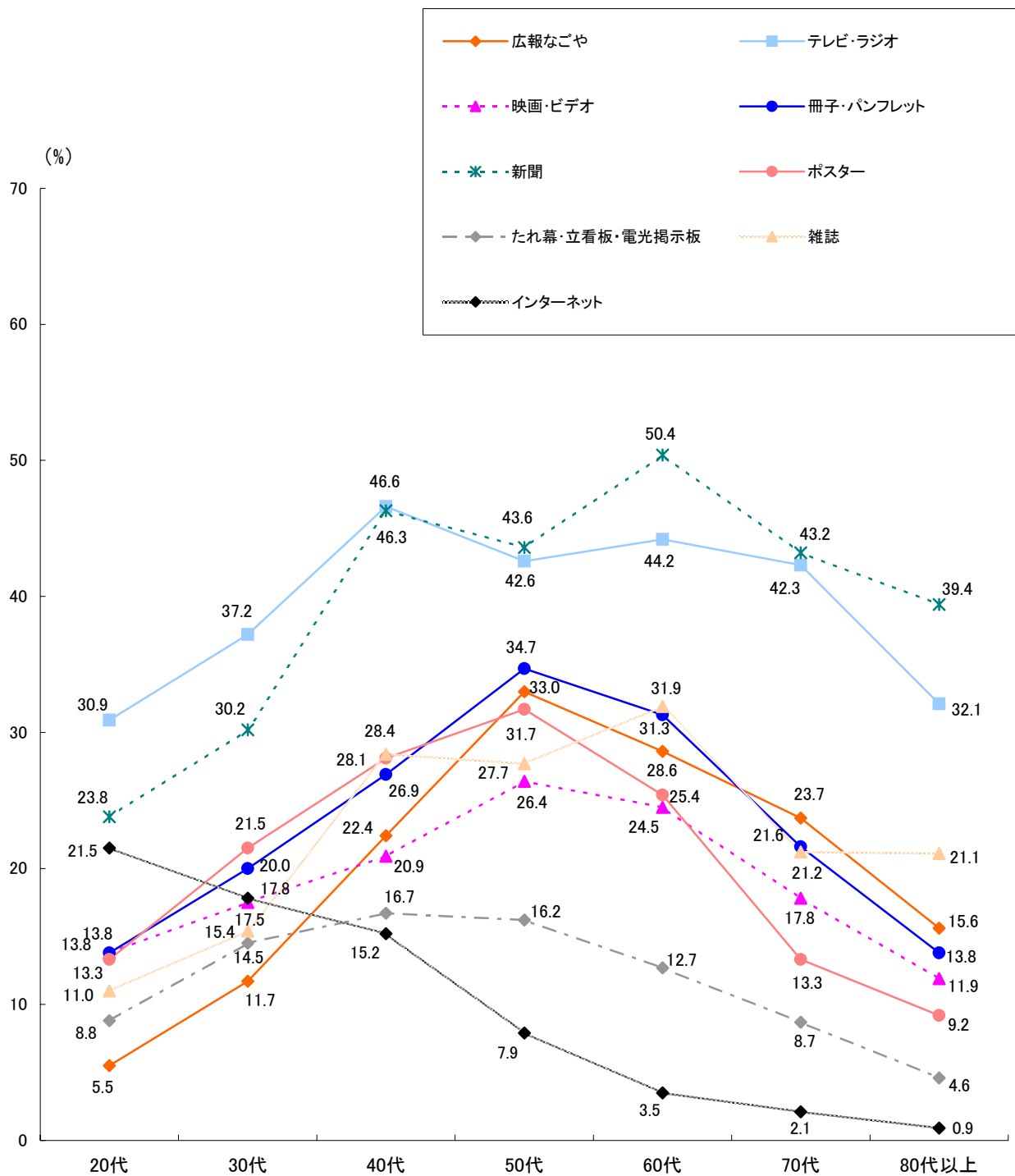
- ◆前回と比べて、「テレビ・ラジオ」が8.1%、「インターネット」が7.8%増えている。



※注1 H2年調査では、各啓発活動について見たり、聞いたり、読んだりしたものを全て選んでもらう方法で調査した。
 ※注2 H2年調査では、『テレビ・ラジオ・ビデオ』と『映画「小さな指輪」など』という項目で調査した。

■要因別集計

＜年代別「講演会・講座・研修会以外との関わり」状況＞

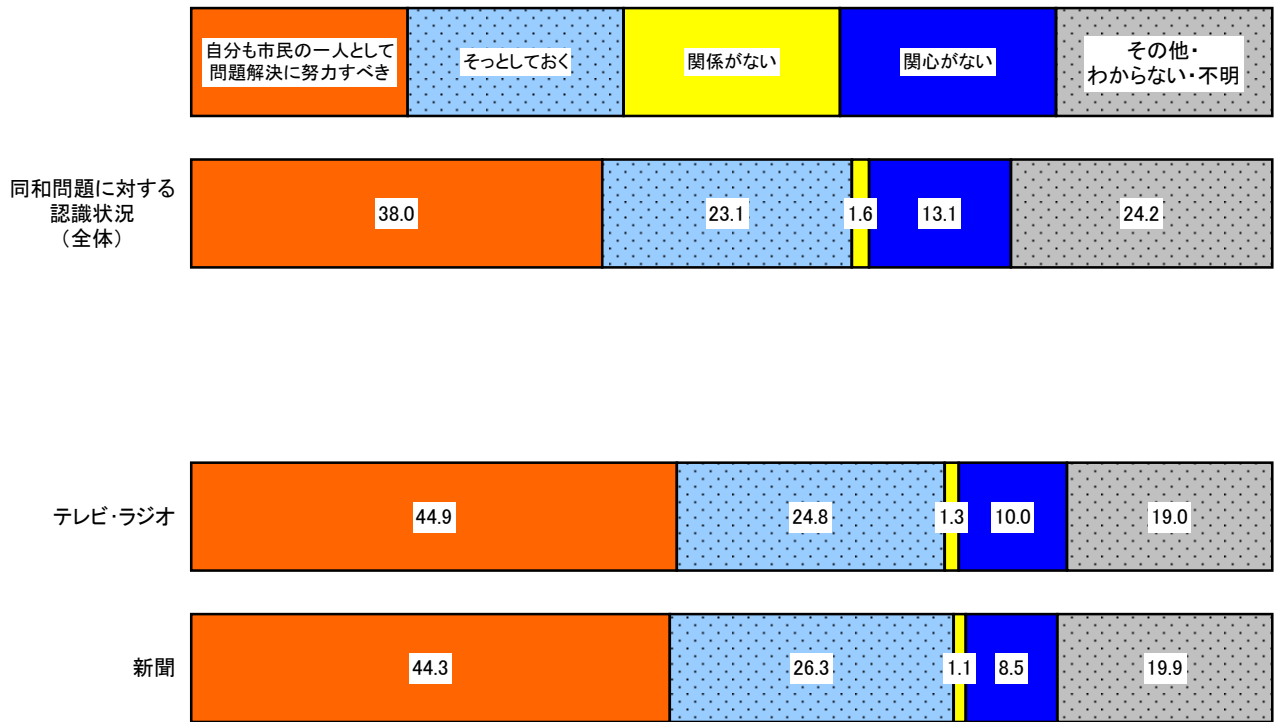


■クロス集計

「テレビ・ラジオ」「新聞」で接したと答えた人は「自分も市民の一人として問題解決に努力すべき」と答えた人の割合が高い。

<同和問題に対する認識状況(質問6)との関連>

(%)



13 インターネットへの書き込みについての認知状況

【質問13】

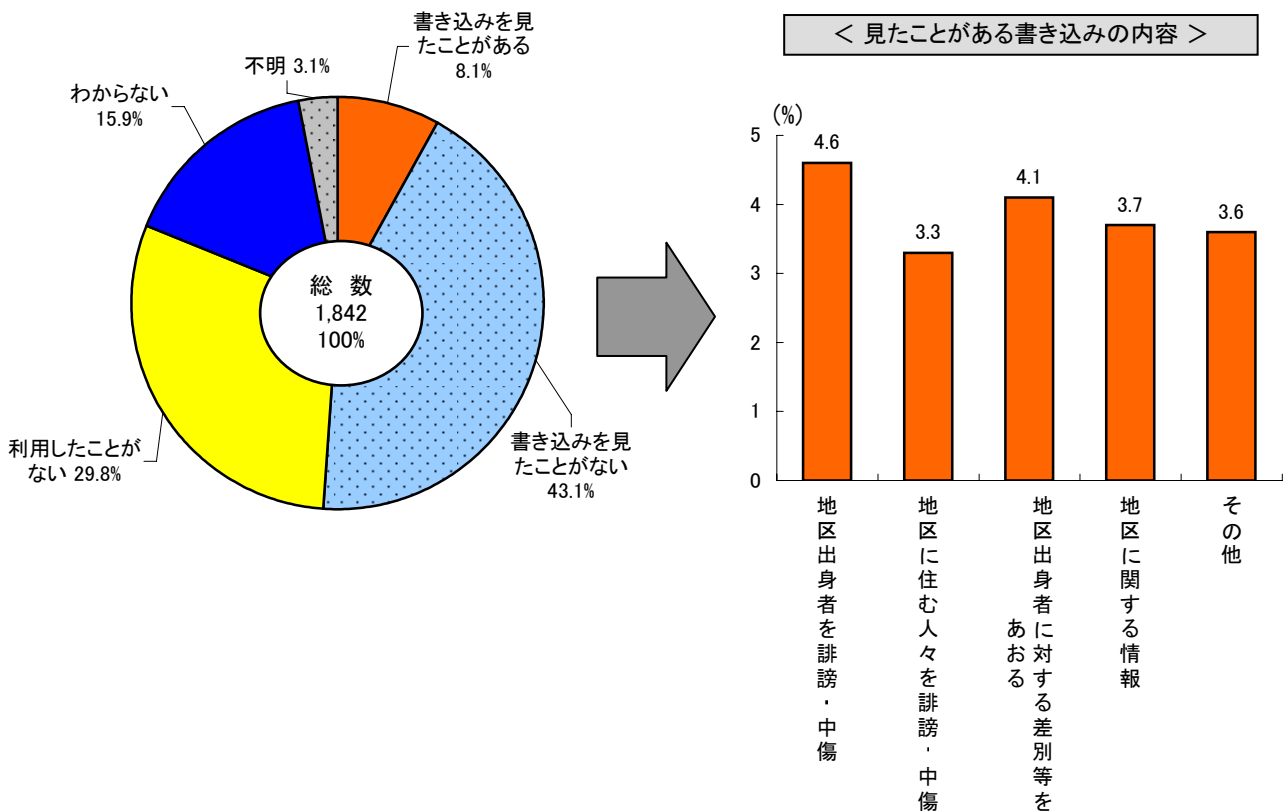
あなたは、同和問題に関して、インターネットの掲示板で差別を助長する書き込みを見たことがありますか。それはどのようなものですか。(MA)

1. 同和地区出身者を誹謗・中傷する表現の掲示
2. 同和地区を特定し、そこに住む人々を誹謗・中傷する表現の掲示
3. 同和地区出身者に対する差別等をおおる表現の掲示
4. 同和地区に関する情報の掲示
5. その他
6. 差別を助長する書き込みを見たことがない
7. インターネットを利用したことがない
8. わからない

■単純集計

差別を助長する書き込みを「見たことがある」人は8.1%

◆ 「書き込みを見たことがある人」は8.1%でその内容は「地区出身者を誹謗・中傷」(4.6%)が最も高い。一方で「インターネットを利用したことがない」と答えた人の割合は29.8%であり、「差別を助長する書き込みを見たことがない」は43.1%となっている。

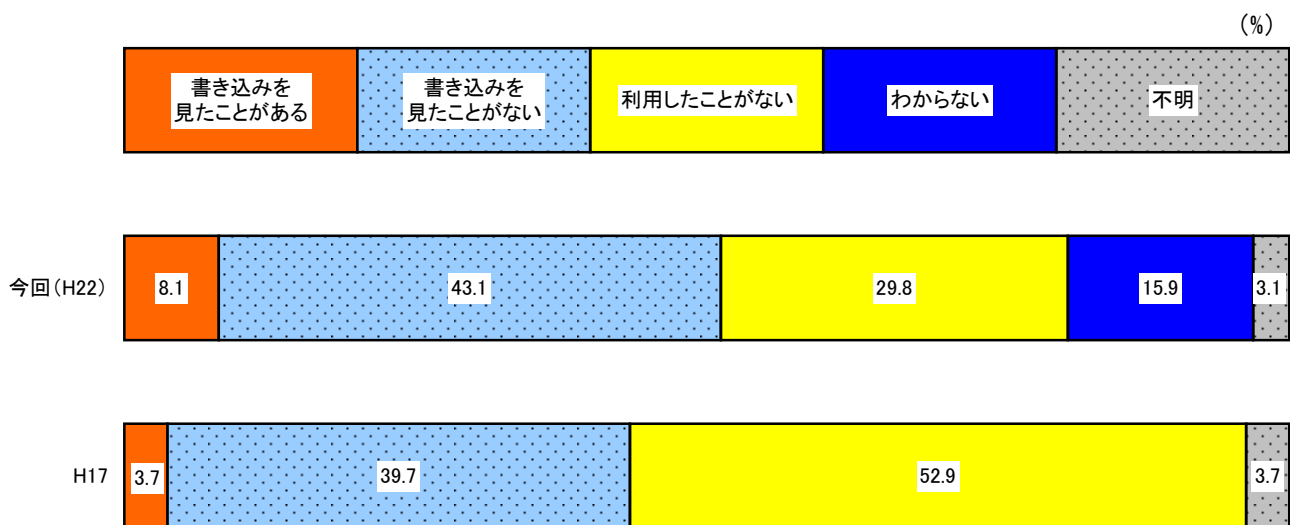


※注 「書き込みを見たことがある」と答えた人の割合は、全体(100%)から「書き込みを見たことがない」(43.1%)、「利用したことがない」(29.8%)、「わからない」(15.9%)、「不明」(3.1%)を引いたもの。

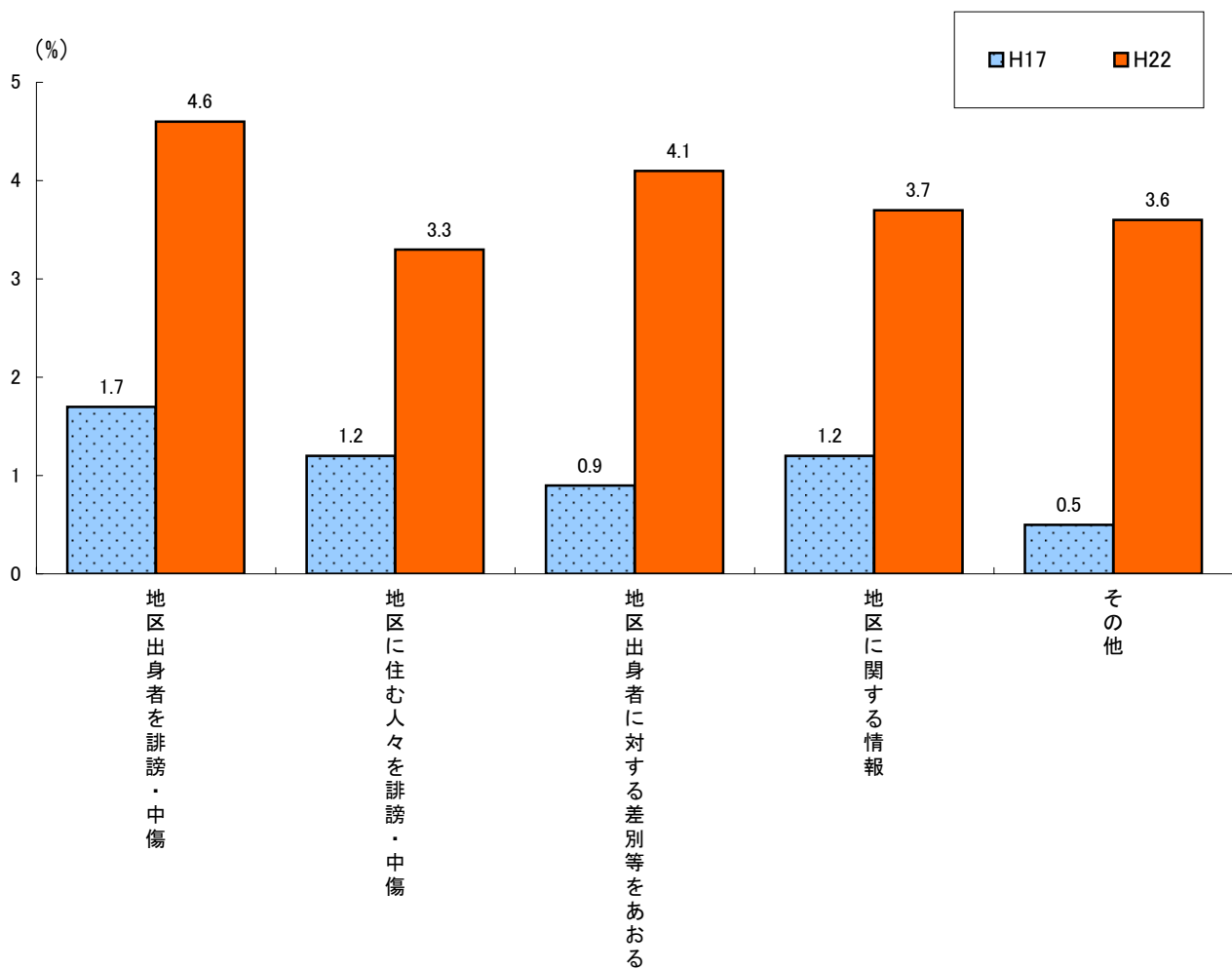
■時系列比較

インターネットへの「書き込みを見たことがある」と答えた人の割合は増えている

- ◆ インターネットへの「書き込みを見たことがある」という人は8.1%で、前回調査(H17)から約4%増えている。
- ◆ 「インターネットを利用したことがない」という人は大きく減っている。

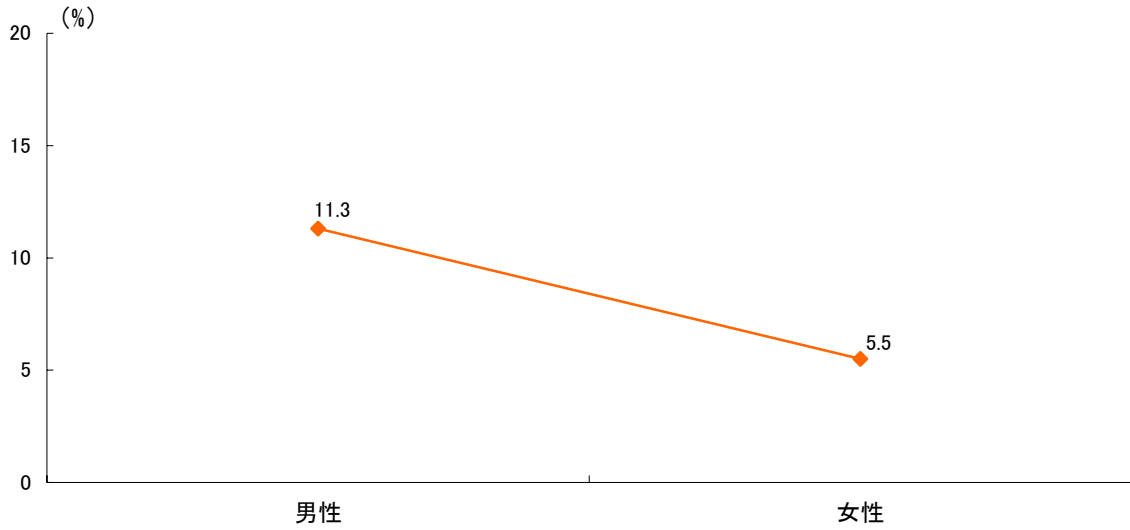


前回に比べ、すべての項目で2~3%増えている

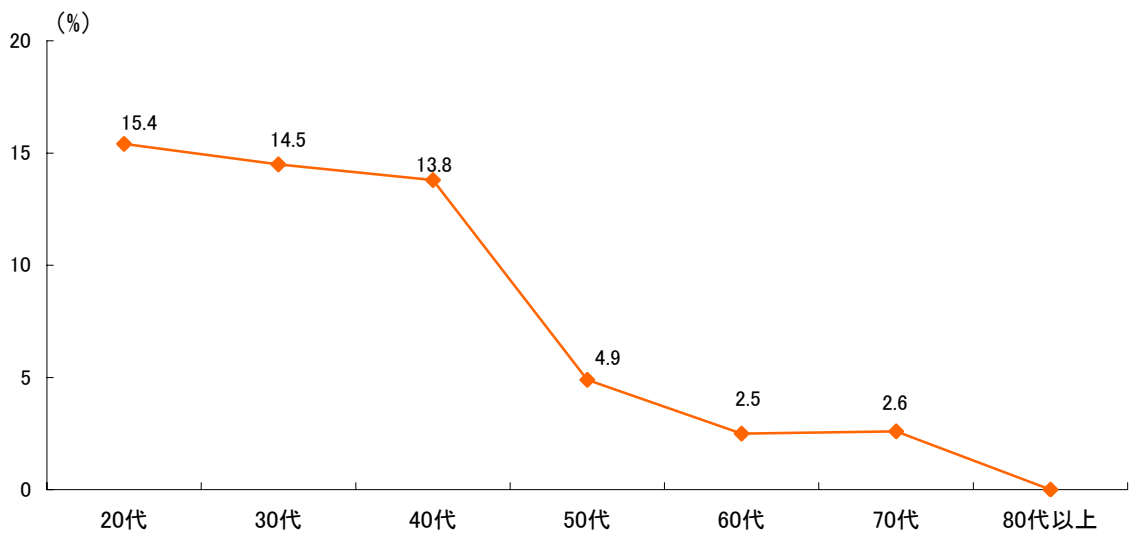


■ 要因別集計

<性別 「書き込みを見たことがある人」の状況 >



<年代別 「書き込みを見たことがある人」の状況 >



14 同和問題の学習

【質問14】

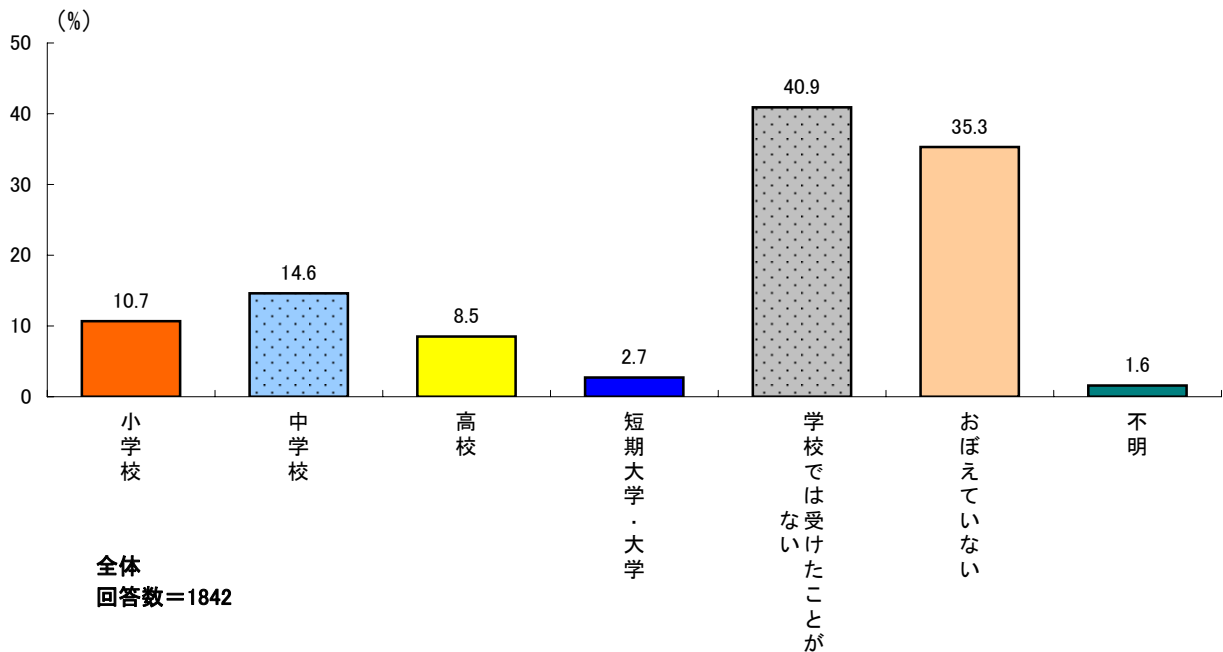
あなたは学校で同和問題(部落差別)についての授業を受けたことがありますか。
 ・受けたことがある学校すべてに○をつけてください。(MA)

1. 小学校
2. 中学校
3. 高等学校(旧制中学校なども含む)
4. 短期大学・大学・大学院(高等専門学校なども含む)
5. 学校では受けたことがない
6. おぼえていない

■単純集計

同和問題(部落差別)についての授業を受けたことがある学校は「中学校」と答えた人の割合が高い

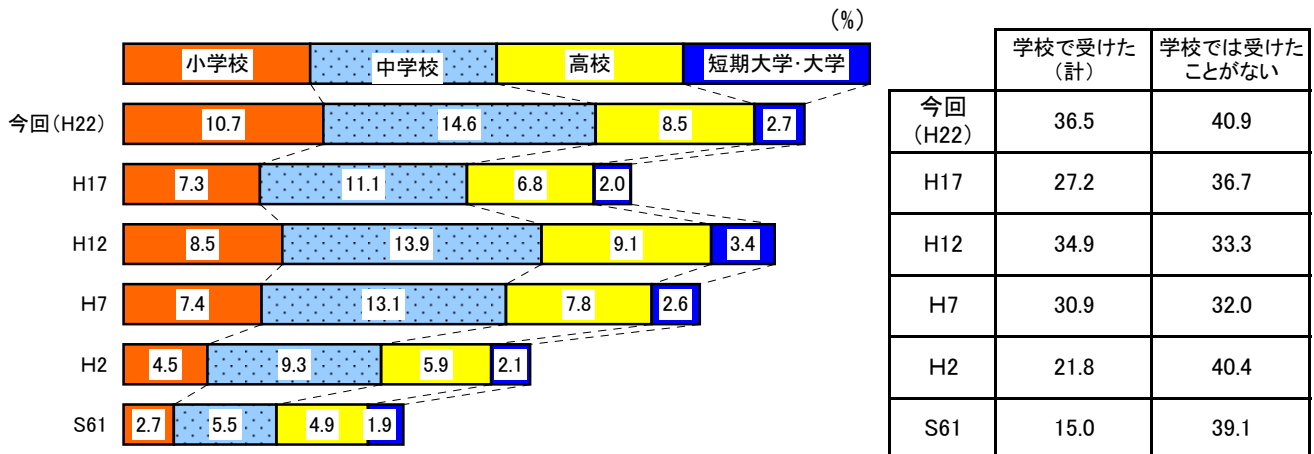
- ◆ 「学校では受けたことがない」と答えた人の割合は40.9%を占めている。
 また、受けたことがある学校は「中学校」が14.6%と最も割合が高くなっている。



■時系列比較

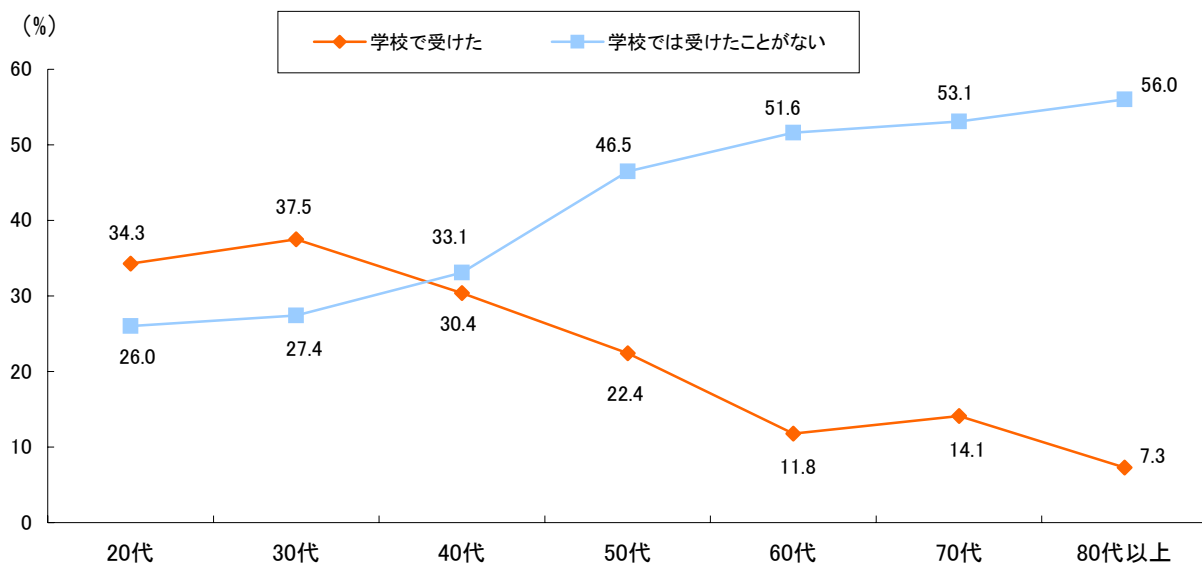
「学校で受けた」と答えた人の割合は増えている

- ◆ 前回と比べ、すべての学校で「受けた」という人は増えている。

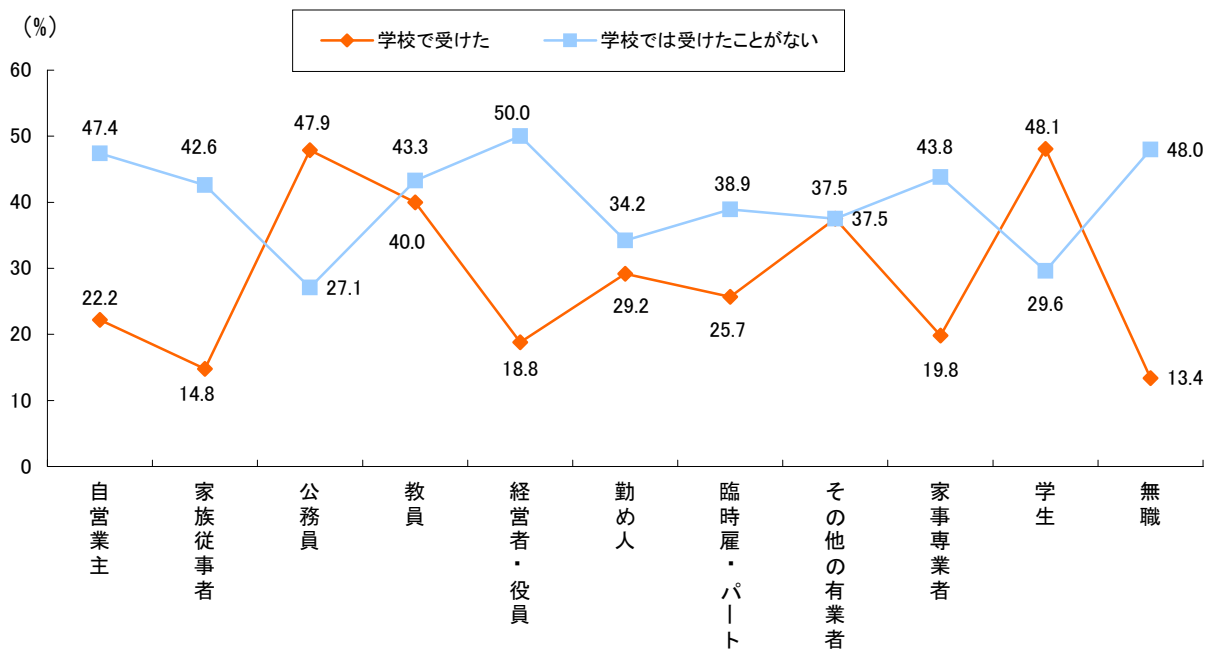


■要因別集計

<年代別「同和問題の学習」の状況>



<職業別「同和問題の学習」の状況>



15 人権教育に期待するもの

【質問15】

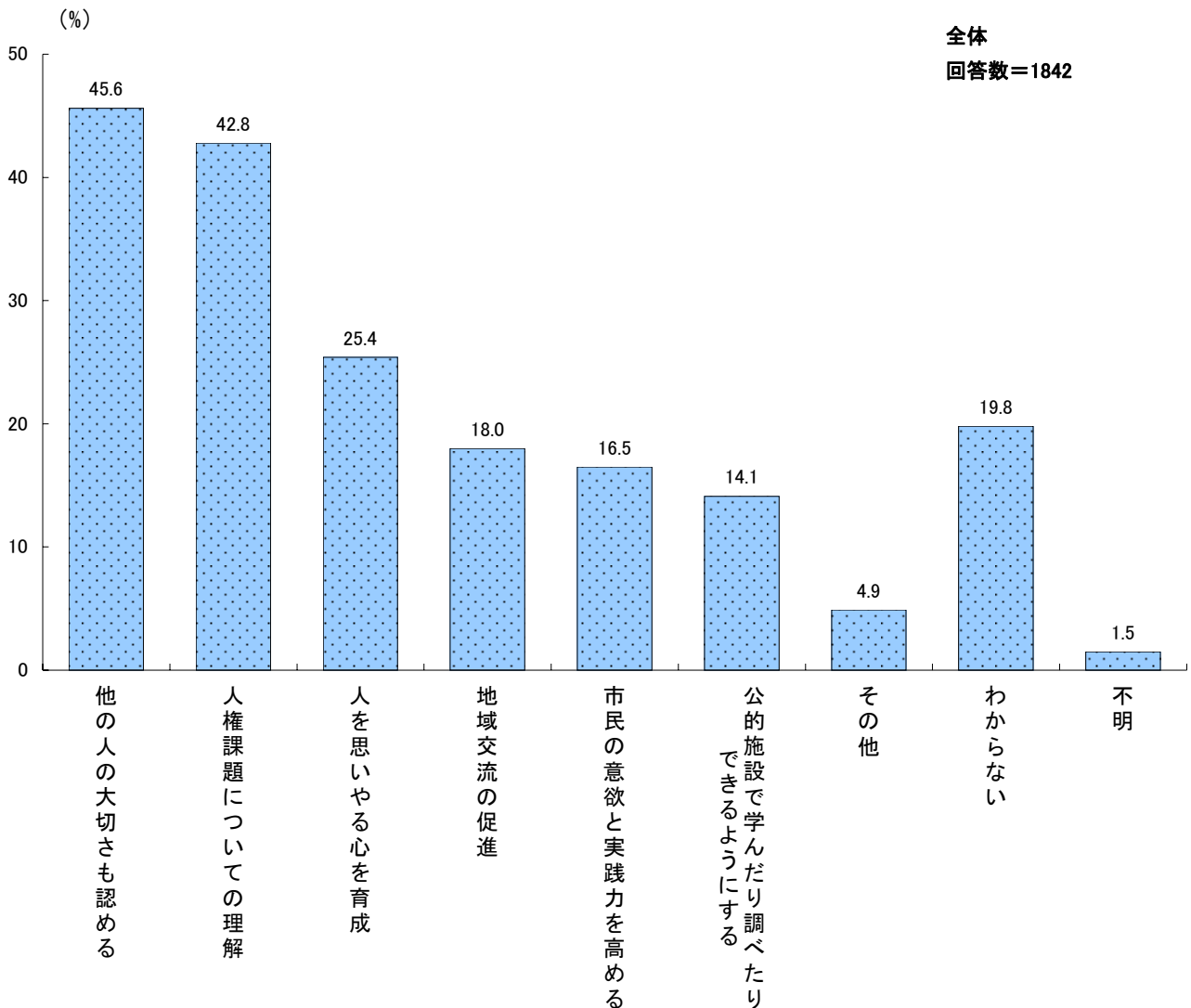
同和問題などの人権課題への理解を深めるため、学校や社会で行っている人権教育や人権啓発にあなたは何を期待しますか。(MA)

1. あらゆる偏見や差別をなくすため、同和問題などの人権課題についての理解を深めるようにする
2. 同和問題などの人権課題解決への市民の意欲と実践力を高めるようにする
3. ボランティア活動や高齢者との交流などを通じて人を思いやる心を育成するようにする
4. 自分の大切さに気づくことができるとともに、他の人の大切さも認めることができるようにする
5. 地域の実情に応じた様々な学習機会を提供し、地域交流の促進をはかるようにする
6. 同和問題などの人権課題を常時、公的施設で学んだり調べたりすることができるようにする
7. その他
8. わからない

■単純集計

人権教育に期待するものとして「他の人の大切さも認めることができるようにする」「人権課題についての理解を深めるようにする」と答えた人の割合が高い

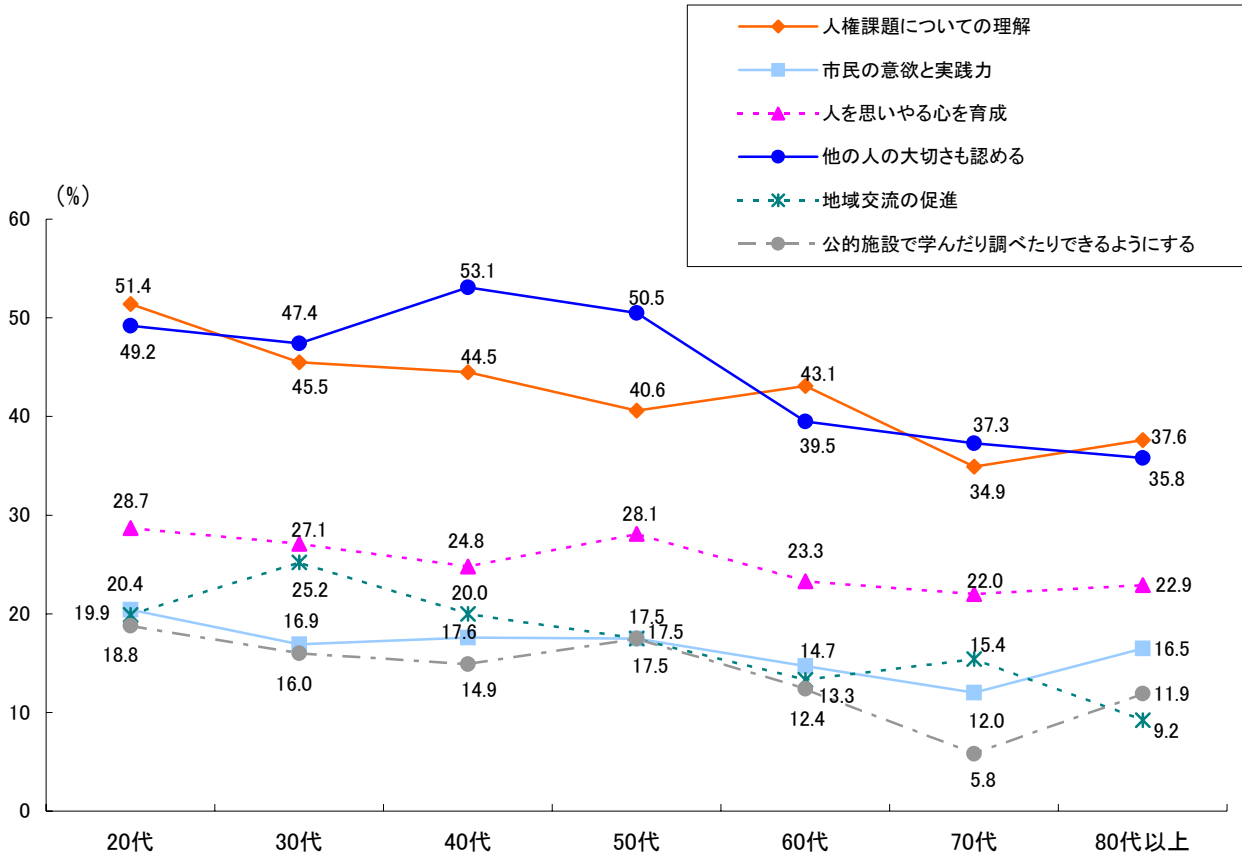
- ◆ 人権教育に期待するものとして、「他の人の大切さも認める」と答えた人の割合は45.6%で最も高く、次いで「人権課題についての理解」(42.8%)となっている。



■要因別集計

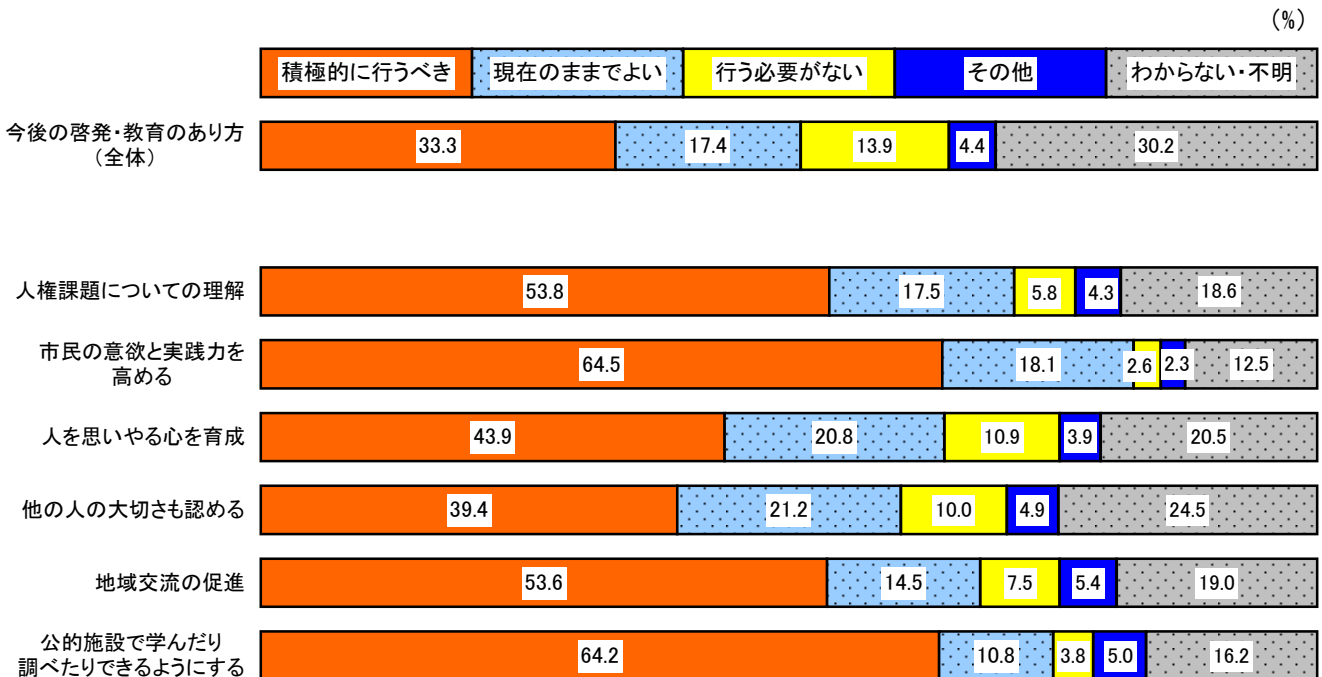
いずれの年代も、人権教育に期待するものとして「他の人の大切さも認めることができるようにする」「人権課題についての理解を深めるようにする」と答えている人の割合が高い

<年代別「人権教育に期待するもの」の状況>



■クロス集計

<今後の啓発・教育のあり方(質問16)との関連>



16 今後の啓発・教育のあり方

【質問16】

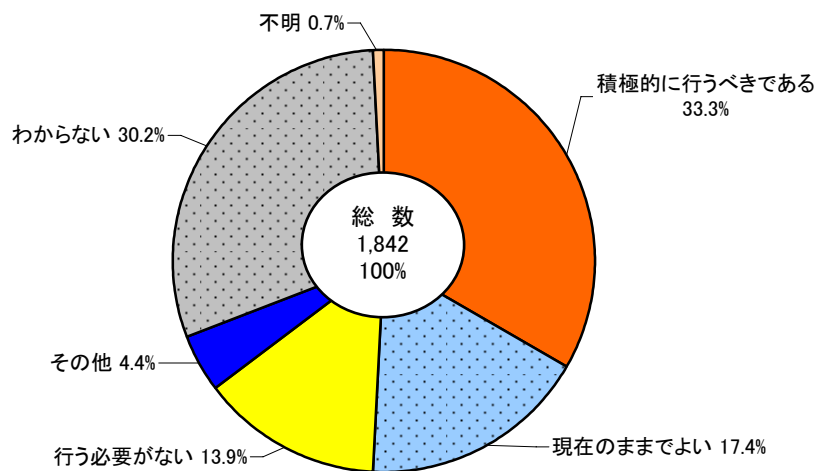
同和問題についての啓発・教育を今後どうすべきだとあなたは思いますか。(SA)

1. もっと積極的に行うべきである
2. 現在のままでよい
3. 特に行う必要がない
4. その他
5. わからない

■単純集計

今後、積極的に「啓発・教育を行うべきである」と答えた人の割合は33.3%

- ◆ 今後の啓発・教育のあり方について「積極的に行うべきである」と答えた人の割合は33.3%。「現在のままでよい」(17.4%)「行う必要がない」(13.9%)と答えた人の割合を大きく上回っている。



■時系列比較

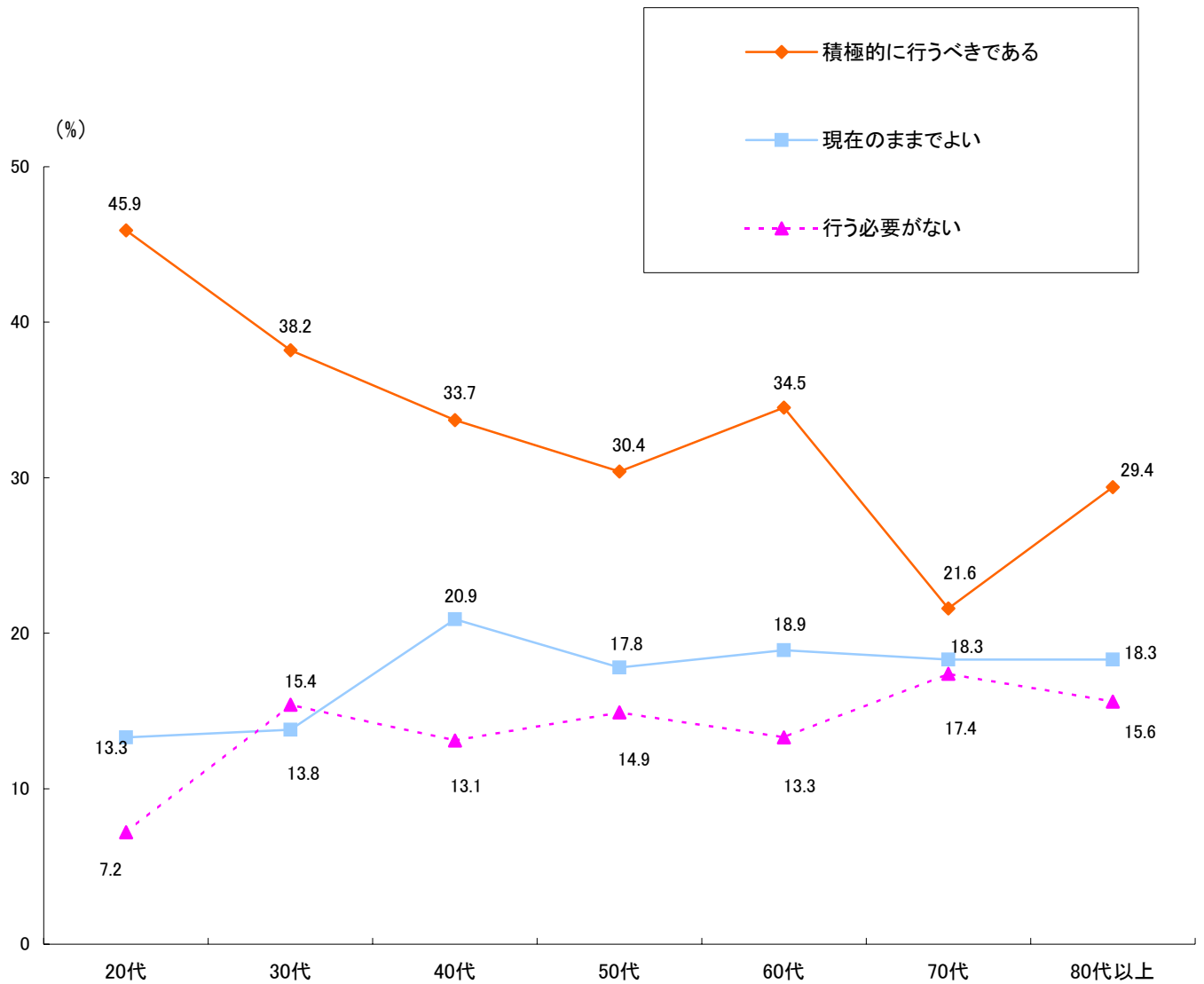
「積極的に「啓発・教育を行うべきである」と答えた人の割合は前回とほぼ同じ

		H2	H7	H12	H17	今回(H22)
積極的に「啓発・教育を行うべきである」	啓発	30.5%	36.0%	30.7%	33.1%	33.3%
	教育	34.8%				
現在のままでよい	啓発	21.9%	15.0%	16.8%	15.2%	17.4%
	教育	19.4%				
行う必要がない	啓発	13.9%	8.9%	10.5%	10.8%	13.9%
	教育	12.2%				

■要因別集計

いずれの年代も、「積極的に行うべきである」と答えた人の割合が高い

<年代別「今後の啓発・教育」の状況>



17 同和問題の解決策

【質問17】

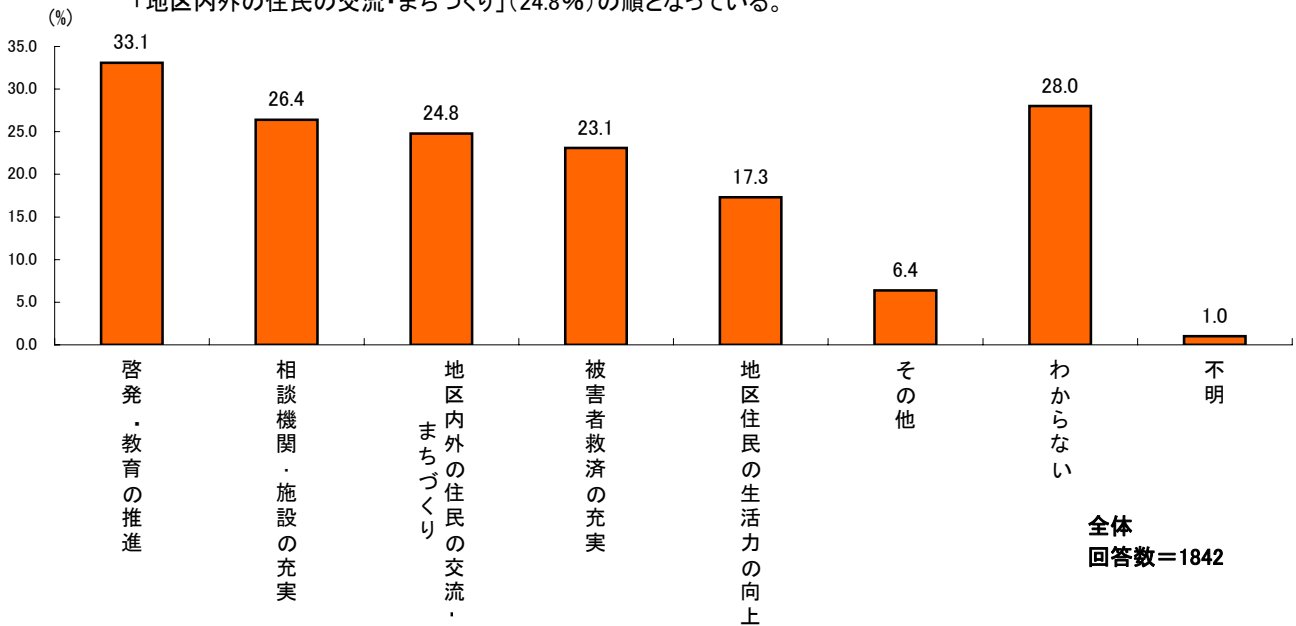
同和問題の解決のためどのようなことを行ったらよいと思いますか。(MA)

1. 同和問題に関する啓発活動や教育を推進する
2. 同和問題に関する相談のための機関・施設を充実する
3. 同和問題に関して人権が侵害された被害者の救済を充実する
4. 同和地区の人の収入の安定・向上をはかり生活力を高める
5. 同和地区内外の人たちが交流を活発にし、まちづくりをすすめる
6. その他
7. わからない

■単純集計

同和問題の解決策として「啓発・教育の推進」や「相談機関・施設の充実」と答えた人の割合が高い

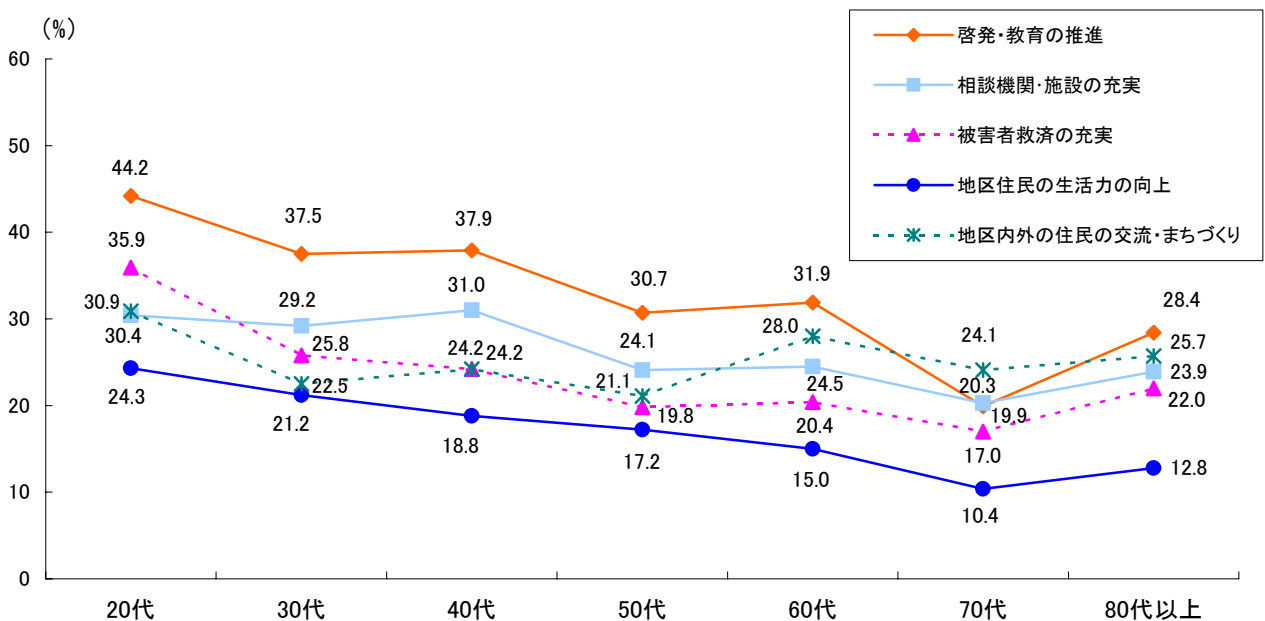
◆ 「啓発・教育の推進」と答えた人の割合は33.1%で最も高く、次いで「相談機関・施設の充実」(26.4%)、「地区内外の住民の交流・まちづくり」(24.8%)の順となっている。



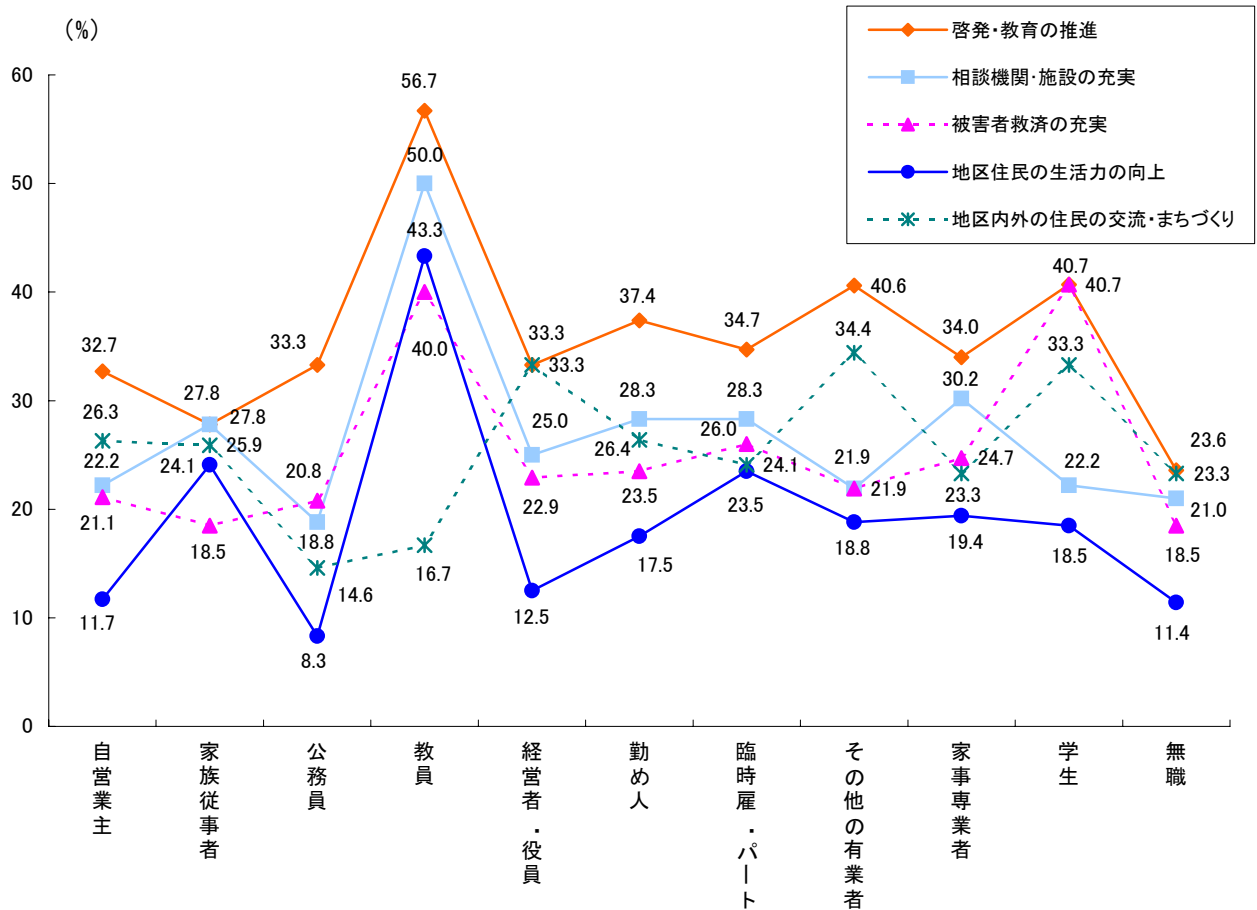
■要因別集計

◆ ほとんどの年代と職業において、「啓発・教育の推進」と答えた人の割合が高い傾向である。

< 年代別「効果的施策」の状況 >



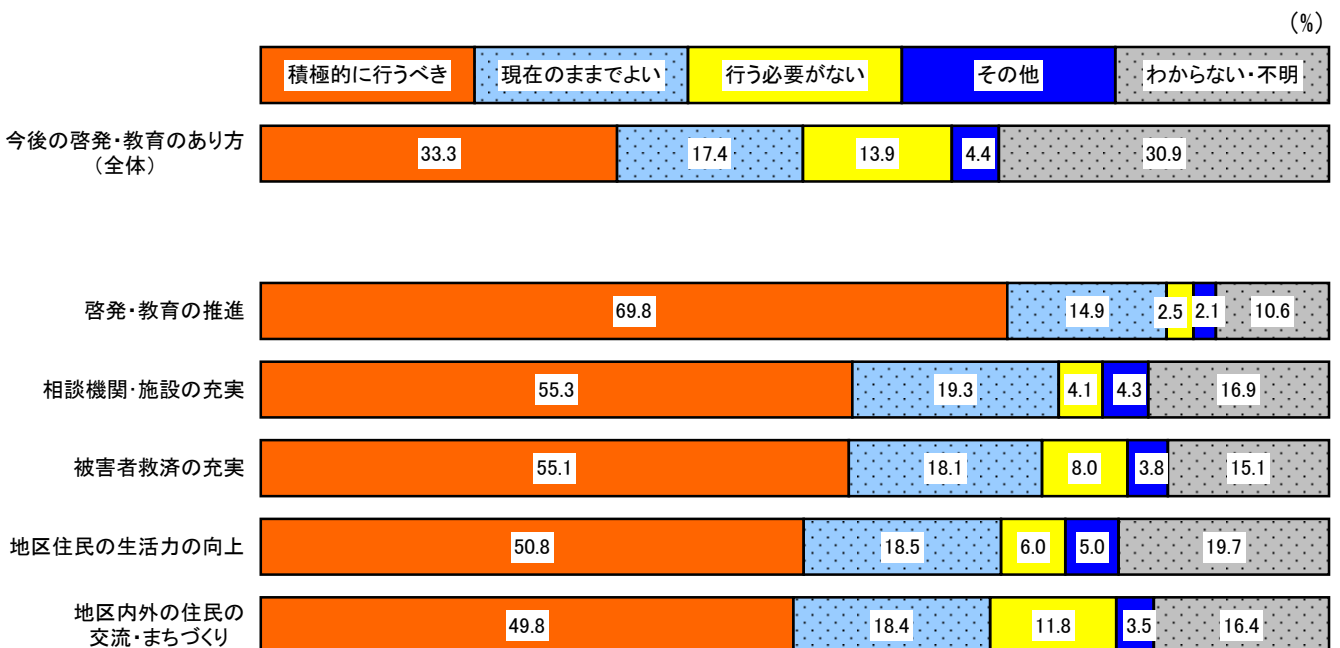
< 職業別「効果的施策」の状況 >



■クロス集計

同和問題の解決策として「啓発・教育の推進」と答えた人は、今後の同和問題の啓発・教育について「積極的に
行うべき」と答えた人の割合が高い

< 今後の啓発・教育のあり方(質問16)との関連 >



18 「基本的人権」に対する意識

【質問18】

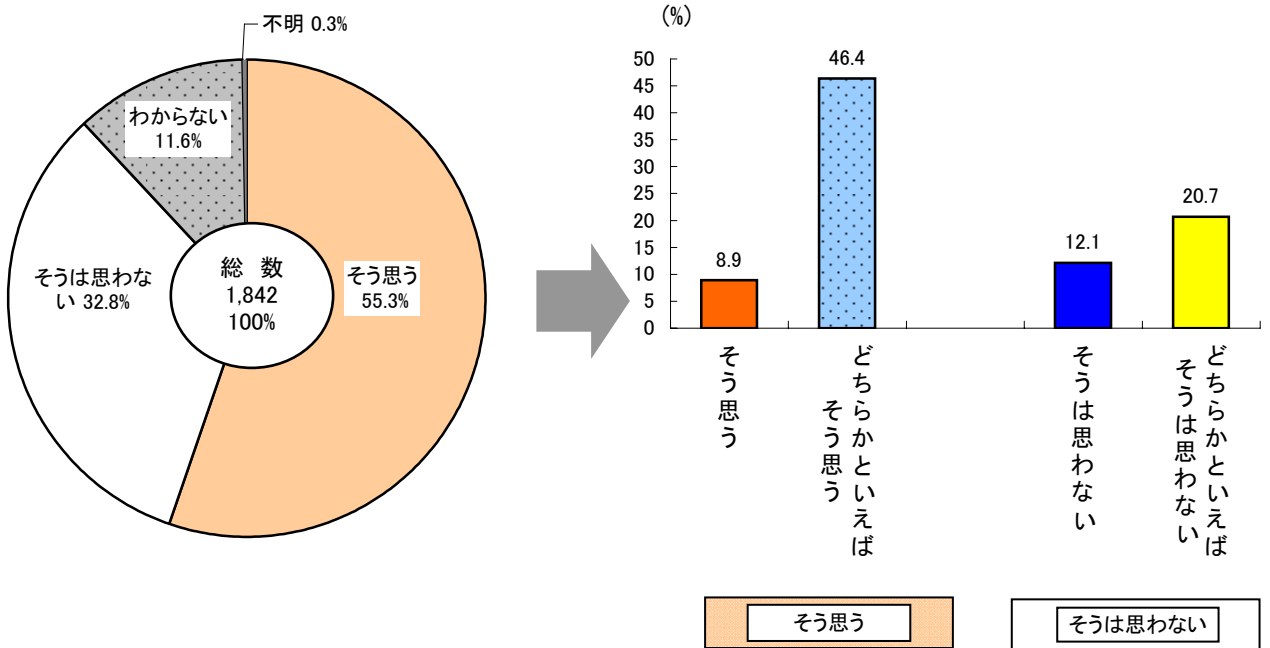
あなたは、今の日本が、基本的人権の尊重されている社会だと思いますか。(SA)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそうは思わない
4. そうは思わない
5. わからない

■単純集計

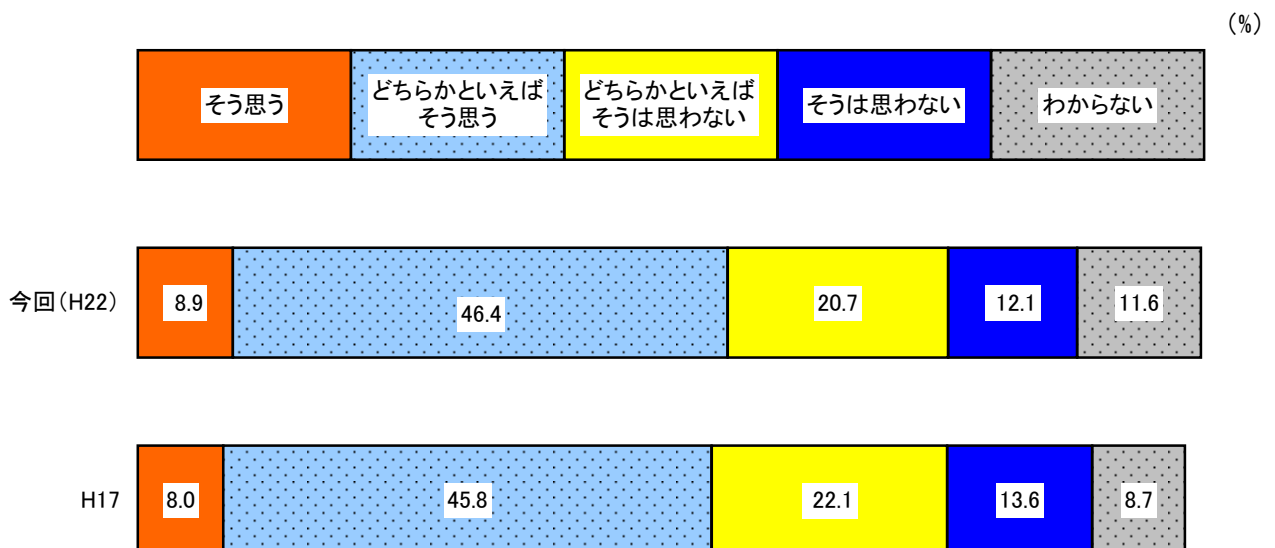
今の日本が「基本的人権の尊重されている社会だと思う」と答えた人の割合は55.3%

◆ 「そう思う」(8.9%)、「どちらかといえばそう思う」(46.4%)と答えた人の割合を合わせた『そう思う』は55.3%となっている。



■時系列比較

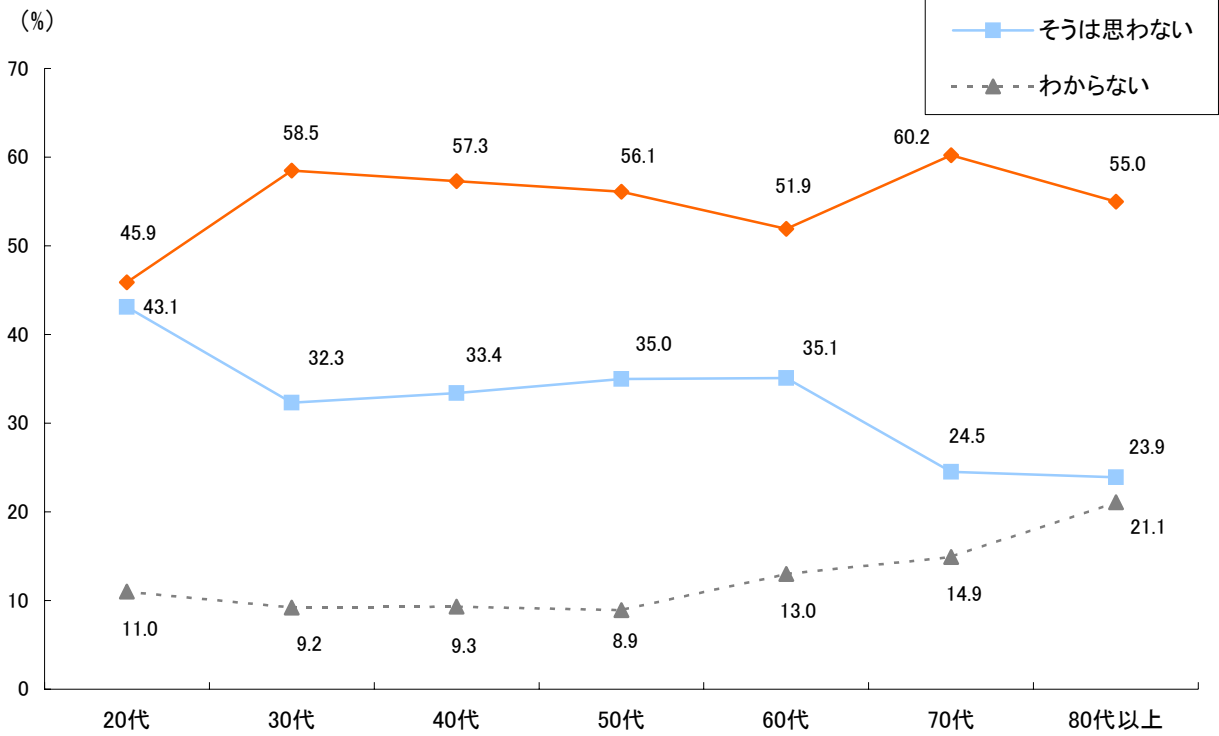
◆前回と比べ、『そう思う』と答えた人の割合は1.5%増えている。



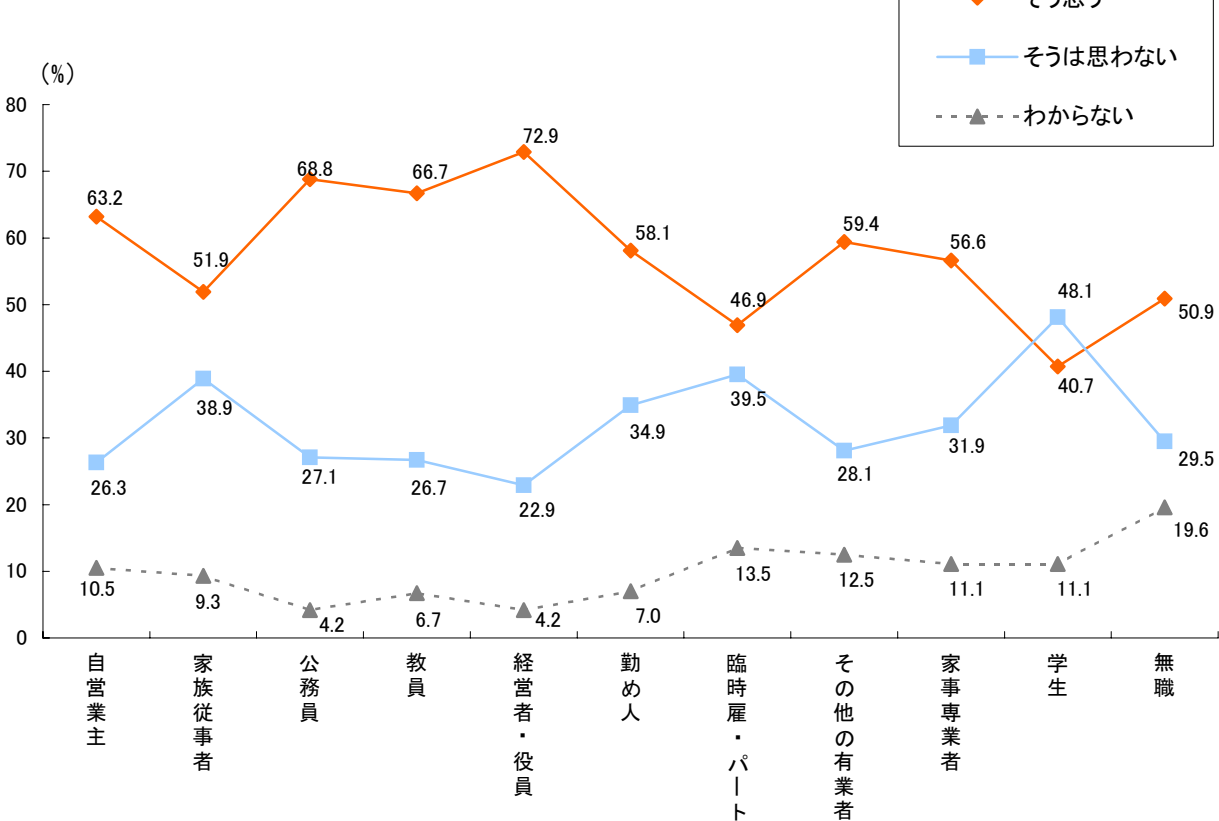
■要因別集計

いずれの年代も、『そう思う』と答えた人の割合が高い

＜年代別「基本的人権」に対する意識＞



＜職業別「基本的人権」に対する意識＞



III. 使用調査票

同和問題についての市民意識調査票

名古屋市

お答えいただくにあたってのお願い

- 1 お答えは、この調査票をお送りしたあて名の方ご本人にお願いします。
- 2 お答えは、あてはまる選択肢の番号を○で囲んでください。
- 3 お答えの中で「その他」を選ばれた場合は、お手数ですが()内に具体的に内容をご記入ください。
- 4 質問にお答えいただきましたら、同封の封筒に入れて、平成22年11月29日(月)までにご返送ください。(切手は不要です。)
- 5 お答えいただいた内容は、統計を作るためだけに使います。また、調査票は無記名で、個人が特定されることは一切ありませんので、ご安心ください。

【質問1】 日本国憲法の第14条には、「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。」と定められています。あなたは「差別」ということについてどうお考えですか。

(あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

I 同じように仕事ができるのに、性別だけで昇進に差をつけることは

- | | |
|-------------|-------|
| 1 差別だと思う | 61.6% |
| 2 差別でないと思う | 4.0 |
| 3 いちがいにいけない | 31.6 |
| 4 わからない | 2.2 |

無回答 0.6

II 家柄が違ふということで、結婚に反対することは

- | | |
|-------------|-------|
| 1 差別だと思う | 49.0% |
| 2 差別でないと思う | 9.0 |
| 3 いちがいにいけない | 38.8 |
| 4 わからない | 2.8 |

無回答 0.4

III 人を雇うときに身元調査(聞き合わせ)をすることは

- | | |
|-------------|-------|
| 1 差別だと思う | 20.3% |
| 2 差別でないと思う | 35.4 |
| 3 いちがいにいけない | 40.8 |
| 4 わからない | 2.9 |

無回答 0.5

IV 結婚のとき相手の身元調査(聞き合わせ)をすることは

- | | |
|-------------|-------|
| 1 差別だと思う | 16.3% |
| 2 差別でないと思う | 38.6 |
| 3 いちがいにいけない | 41.3 |
| 4 わからない | 3.3 |

無回答 0.5

【質問2】 あなたは同和問題を知っていますか。

(あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

- | | |
|------------|-------|
| 1 よく知っている | 11.1% |
| 2 少しは知っている | 41.3 |
| 3 聞いたことがある | 29.2 |
| 4 まったく知らない | 17.1 |

無回答 1.2

【質問3】 あなたが同和問題をはじめて知ったり、聞いたりしたきっかけは、誰から又は何からですか。
(あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

1	家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など)から聞いた	19.4%
2	親戚の人から聞いた	1.2
3	近所の人から聞いた	1.7
4	友人から聞いた	6.0
5	職場の人から聞いた	6.9
6	学校の授業で教わった	13.4
7	テレビ・ラジオ・新聞・映画・本などで知った	19.0
8	インターネットで知った	0.5
9	講演会や研修会で知った	2.8
10	広報なごや・啓発冊子「みんなのねがい」などで知った	0.8
11	その他 ()	2.5
12	おぼえていない	8.0
13	このアンケート調査ではじめて知った	17.2
	無回答	0.5

【質問4】 あなたが同和問題についてはじめて知ったり、聞いたりしたのは、いつ頃のことですか。
(あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

1	6歳未満(小学校に入学する前)	0.7%
2	6歳～12歳未満(小学生の頃)	18.0
3	12歳～15歳未満(中学生の頃)	14.2
4	15歳～19歳未満	11.8
5	19歳以降	24.5
6	おぼえていない	12.6
7	このアンケート調査ではじめて知った	17.9
	無回答	0.3

同和問題とは、「同和地区」や「被差別部落」などよばれる地域の出身であることや、そこに住んでいるというだけの理由でいわれなき差別や不利益を受け、基本的人権や人間としての尊厳がおびやかされ、侵されているという社会問題です。

【質問5】 あなたが同和問題をはじめて知ったり、聞いたりしたとき、どう思いましたか。

(あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

1	差別があることを許せないと思った	8.9%
2	なぜ差別が存在するのか不思議に思った	41.6
3	どういうことなのかよくわからなかった	19.2
4	同和地区の人をかわいそうに思った	6.9
5	自分は同和地区に生まれなくてよかったと思った	3.4
6	何となく自分たちと違うと思った	5.2
7	自分には関係ないことと思った	3.9
8	その他()	2.4
9	おぼえていない	2.6
10	わからない	5.0
	無回答	0.8

【質問6】 同和問題について、現在あなたはどのようにお考えですか。

(あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

1	人間の自由や平等にかかわる問題なので、自分も市民の一人としてこの問題の解決に努力すべきだと思う	38.0%
2	同和地区の人々の問題であるから、自分には関係ないと思う	1.6
3	あまり騒がずにそっとしておくのがよいと思う	23.1
4	特に関心がない	13.1
5	その他()	5.8
6	わからない	17.5
	無回答	0.9

【質問7】 かりに、日ごろ親しくつきあっている職場の人や近所の人が、同和地区出身の人であることがわかった場合、あなたはどうかされますか。

(あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

1	これまでと同じように親しくつきあう	81.1%
2	表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく	5.9
3	つきあいはやめてしまう	0.3
4	その他()	1.1
5	わからない	11.0
	無回答	0.7

【質問8】 かりに、あなたの親類や親しい人の結婚しようとしている相手が、同和地区出身の人であることがわかったとき、あなたはどうされますか。

(あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

1	本人の意思を尊重する	73.2%
2	自分がかまわないが、世間へのてまえがあるから、できれば結婚してほしくない	8.0
3	結婚することには反対する	3.0
4	その他()	2.0
5	わからない	13.1
	無回答	0.7

【質問9】 かりに、あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区出身の人であることがわかったとき、あなたはどうされますか。(あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

1	子どもの意思を尊重する	54.0%
2	親として反対するが、子どもの意思が強ければしかたない	21.1
3	家族や親類の反対があれば、結婚を認めない	3.1
4	絶対に結婚を認めない	2.9
5	その他()	2.7
6	わからない	15.3
	無回答	0.8

【質問10】 かりに、あなたが同和地区出身の人と恋愛をし、結婚しようとしたとき、親や親類の人から強い反対を受けたら、あなたはどうされますか。

(あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

1	自分の意思を貫いて結婚する	23.1%
2	親の説得に全力を傾けた後に、自分の意思を貫いて結婚する	39.7
3	家族や親類の反対があれば、結婚しない	12.0
4	絶対に結婚しない	1.6
5	その他()	2.4
6	わからない	20.4
	無回答	0.8

【質問11】 あなたが同和問題に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。

(あてはまる番号すべてに○印をつけてください。)

1	結婚問題で周囲が反対すること	42.3%
2	就職・職場で不利な扱いを受けること	36.1
3	差別的な発言を受けること	29.4
4	差別的な落書き	8.8
5	結婚に際して身元調査(聞き合わせ)が行われること	24.3
6	就職に際して身元調査(聞き合わせ)が行われること	19.0
7	同和地区やそこで生活する住民との交流や交際を避けたりすること	27.0
8	インターネットを利用して差別的な情報が掲載されること	13.7
9	その他 ()	2.2
10	特にない	6.8
11	わからない	28.1
		0.9

【質問12】 あなたは同和問題やそれに関連した講演会や研修会に参加されたり、新聞やテレビ・ラジオ等で同和問題に関連したことを見たり、聞いたり、読んだりしたことが何回ありますか。

1～10のそれぞれについてA、B、Cのどれかに○をつけてください。

事 項	3回以上	1～2回	ない	無回答
1 講演会・講座・研修会への参加	4.6%	7.2%	79.0%	9.2%
2 広報なごや	4.5	17.2	66.9	11.5
3 テレビ・ラジオ	11.7	29.2	50.5	8.6
4 映画・ビデオ	5.4	14.8	68.4	11.3
5 冊子・パンフレット	6.9	18.1	63.6	11.4
6 新聞	12.5	28.2	50.0	9.3
7 ポスター	7.4	15.1	65.5	12.0
8 たれ幕・立看板・電光掲示板	4.6	8.4	74.6	12.4
9 雑誌	6.9	16.6	65.0	11.4
10 インターネット	4.2	6.3	77.1	12.4

【質問13】 あなたは、同和問題に関して、インターネットの掲示板で差別を助長する書き込みを見たことがありますか。それはどのようなものですか。

(あてはまる番号すべてに○印をつけてください。)

1	同和地区出身者を誹謗・中傷する表現の掲示	4.6%
2	同和地区を特定し、そこに住む人々を誹謗・中傷する表現の掲示	3.3
3	同和地区出身者に対する差別等をあおる表現の掲示	4.1
4	同和地区に関する情報の掲示	3.7
5	その他()	3.6
6	差別を助長する書き込みを見たことがない	43.1
7	インターネットを利用したことがない	29.8
8	わからない	15.9
	無回答	3.1

【質問14】 あなたは学校で同和問題(部落差別)についての授業を受けたことがありますか。受けたことがある学校すべてに○をつけてください。

1	小学校	10.7%
2	中学校	14.6
3	高等学校(旧制中学校なども含む)	8.5
4	短期大学・大学・大学院(高等専門学校なども含む)	2.7
5	学校では受けたことがない	40.9
6	おぼえていない	35.3
	無回答	1.6

【質問15】 同和問題などの人権課題への理解を深めるため、学校や社会で行っている人権教育や人権啓発にあなたは何を期待しますか。(あてはまる番号すべてに○印をつけてください。)

1	あらゆる偏見や差別をなくすため、同和問題などの人権課題についての理解を深めるようにする	42.8%
2	同和問題などの人権課題解決への市民の意欲と実践力を高めるようにする	16.5
3	ボランティア活動や高齢者との交流などを通じて人を思いやる心を育成するようにする	25.4
4	自分の大切さに気づくことができるとともに、他の人の大切さも認めることができるようにする	45.6
5	地域の実情に応じた様々な学習機会を提供し、地域交流の促進をはかるようにする	18.0
6	同和問題などの人権課題を常時、公的施設で学んだり調べたりすることができるようにする	14.1
7	その他()	4.9
8	わからない	19.8
	無回答	1.5

【質問16】 同和問題についての啓発・教育を今後どうすべきだとあなたは思いますか。

(あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

1	もっと積極的に行うべきである	33.3%
2	現在のままでよい	17.4
3	特に行う必要がない	13.9
4	その他()	4.4
5	わからない	30.2
	無回答	0.7

【質問17】 同和問題の解決のためどのようなことを行ったらよいと思いますか。

(あてはまる番号すべてに○印をつけてください。)

1	同和問題に関する啓発活動や教育を推進する	33.1%
2	同和問題に関する相談のための機関・施設を充実する	26.4
3	同和問題に関して人権が侵害された被害者の救済を充実する	23.1
4	同和地区の人の収入の安定・向上をはかり生活力を高める	17.3
5	同和地区内外の人たちが交流を活発にし、まちづくりをすすめる	24.8
6	その他()	6.4
7	わからない	28.0
	無回答	1.0

【質問18】 あなたは、今の日本が、基本的人権の尊重されている社会だと思いますか。

(あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

1	そう思う	8.9%
2	どちらかといえばそう思う	46.4
3	どちらかといえばそうは思わない	20.7
4	そうは思わない	12.1
5	わからない	11.6
	無回答	0.3

最後にこの調査を統計分析するために、あなた自身のことについてお伺いします。

【Q1】 あなたの性別を()にご記入ください。

男性	46.4%
女性	52.1
無回答	1.5

【Q2】 あなたの年齢についてお聞きします。年代は次のいずれですか。(平成 22 年 11 月 1 日現在)

1	20～29 歳	9.8%
2	30～39 歳	17.6
3	40～49 歳	18.2
4	50～59 歳	16.4
5	60～69 歳	18.4
6	70～79 歳	13.1
7	80 歳以上	5.9
	無回答	1.5

【Q3】 あなたの職業は何ですか。

1	自営業主(商工サービス、建設業、自由業などの事業主)	9.3%
2	家族従事者(商工サービス、建設業、自由業などの家族従事の方)	2.9
3	公務員	2.6
4	教員	1.6
5	企業・団体の経営者、役員	2.6
6	企業・団体の勤め人	25.7
7	臨時雇、パート勤め、派遣、契約社員などの非正規雇用	16.9
8	その他の有業者	1.7
9	家事専業者	15.6
10	学生	1.5
11	無職	19.1
	無回答	0.4

ご協力ありがとうございました。

お尋ねしたこと以外で、同和問題についてお考えのこと、お気づきのことがありましたら、お聞かせください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

質問は以上です。お手数ですが、回答もれや○印のつけ忘れ・つけすぎがないよう、もう一度お確かめください。

この調査票は、同封の封筒に入れて11月29日(月)までにご返送ください。

(切手は不要です。)

お問い合わせ先

名古屋市役所 市民経済局人権施策推進室

電話 972-2582

FAX 972-6453

a2580@shiminkeizai.city.nagoya.lg.jp

名古屋市公式ウェブサイトでは、人権に関する情報を市民の皆様にわかりやすく提供しています。「名古屋市 人権」で検索してご覧ください。

平成 22 年 度

同和問題についての市民意識調査報告書

発 行	名古屋市市民経済局人権施策推進室
発 行 年 月	平成 23 年 3 月
発 行 部 数	500部・特定
集 計 ・ 編 集	株式会社 ビデオリサーチ

この報告書は、再生紙（古紙配合率100%、白色度70%）を使用しております。

